中央公論

本號目次

口繪　金剛力士

公論
●新聞紙の撰擇　千山萬水
●歐米借屋地の慘毒　河上清
●國富上に及ぼす近親結婚　篠原九皐
●大地主と御用商人　町田源太郎
●西伯利亞鐵道論　上田巖南

海外新潮
大勢
●歐洲は果して亞細亞を支配し能ふか●今紀の二大强國●同種同文の勢力
雜纂
●南極氷中の二千哩●世界の新刊●世界的知囊●手相學の大家●資産家となる要訣

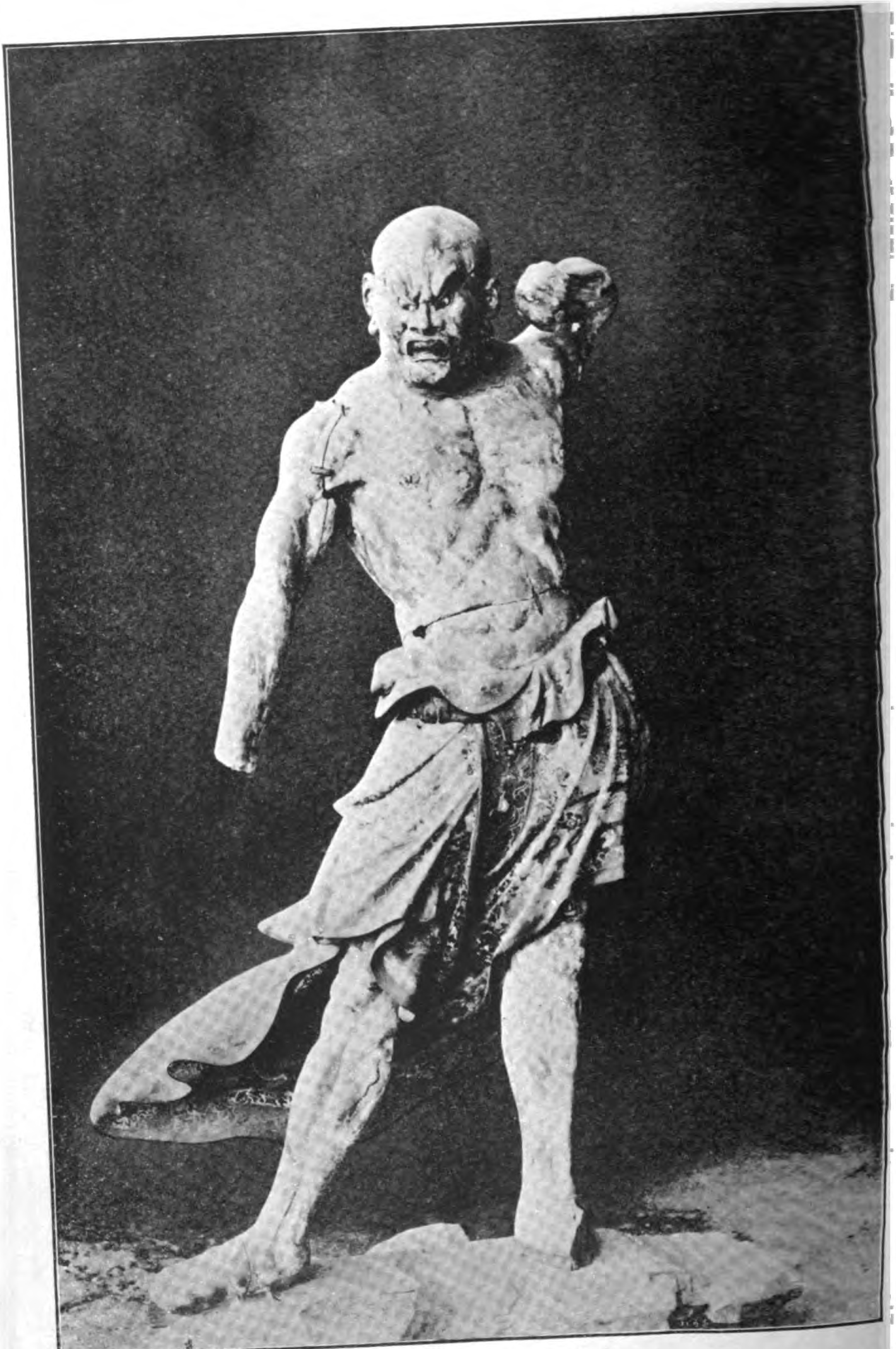
詞藻
●漢詩數十首(町田柳塘撰)○和歌數首(風韻社)
○俳句藤(四方太撰)

雜錄
●東京府下の暗黑面　山形東根

●露都雜觀　黑海漁夫
●細君操縱法　青柳有美
●塞泥遊紀　藤井愛梅
●敎界人物評　哄堂

思湖
●國家貯蓄論(外七件)

評論
△敎育時評　海外留學生●我國と歐米との兒童比較●學校ゝ病院か●教育者の會合●喜現象●女子學校の試驗●ちりづか(鵑山)
△政界漫言　滿洲に對する露の外交●現內閣の不始未●韓國の借欵問題●政界日記(城陽政客)
△宗敎評論　佛蹟巡禮を勸む●ユニテリアンと淸徒同志會の提手●飜譯事業●大原氏を悼む●每月通信(雍山)
△社會小評　觀勢錄數件(零翁)●宗教家の經濟的眼識●自由廢業と教育家社會日記(斬虹)
△文藝時論　賣名の陋●生活難と濫作●文躰の平明●理想的文躰の要素●我見相衝く●時文餘錄(林田春潮)
△前月の出版界　十數種
△雜評　胡說亂談(兎月子)●雜誌の雜誌(キルトヘル)
△讀者の文壇　日本將來の音樂に就て(源邊龍聖高楠順次郎二氏の談話●外短文數十)●排自由婚結論を讀む(黑光女史)
△彙報　數十件
△廣告



金 剛 力 士　(Vajra—Pāni)

中央公論

第十六年 第五號

新聞紙の撰擇

中央公論

一二ヶ月前の萬朝報に内村鑑三氏の「新聞紙なき國民」の一文を載せたり。蓋し吾邦今日の新聞紙は讀て何等の益する所なし、新聞紙あるも恰もなきに同しとの趣意也しと覺ゆ、吾人も亦此感を抱かざるに非ず、然れども益なきは尙可なり、害あるに至ては寧ろ適當の豫防を講ぜざる可らず。

各種の新聞紙が率ね一黨一派の偏見を固執して公平なる政治的論評を發表する能はず、甲是乙非國民をして政治界の消息に就て頗る要領を得るに苦しましむるが如き、素より劣等新聞が吾人に與ふる大害なりと雖も之を下等なる三面記事が世道人心の上に與ふる不道德的惡感化に比すれば尙恐るゝに足らざるものあり。

吾國民の多數は禮拜を爲さず、祈禱を爲さず、一身の脩養として日々彼等が高尙の理想を涵養す可きもの殆んどあるなし。若し之を舊時代に於てせば神佛を禮拜せざる迄も先づ祖先の靈を拜し、家内の息災延命を祈る可き處に現今の國民は毎朝臥床を出で盥漱の尙未だ畢らざるに早くも手に上る所の經典は下等なる新聞紙なり先づ彼等の新鮮なる頭腦に印象するものは姦淫なり、竊盜なり、殺人なり、拐帶なり、嘲笑なり、罵倒なり、是の如くして如何なる正人君子もいつしか之が影響を蒙らざるものあるなし、況んや思想纎弱にして事物に感動し易き青年學生及び婦女子の類が次第に罪惡に慣熟し知らず知らず腐敗墮落し去るは疑ふ可らず、寧ろ是れ社會道德の爲め尤も憂ふ可き現象となさずや。

吾人は世の新聞記者たるものが是の如き大感化力を濫用して、社會の敎育者たらざるも尙社會に害を遺さゞらんことを希望するや久しからずとせず。然れども今日の多數新聞記者の陋劣なる、眼前の利益を圖るに急にして社會風化の如何に想到するもののあらざるのみならず、寧ろ強て社會人心の劣情を迎合し、微を抉き幽を發き只管卑猥陋劣を極めざらんことを之れ恐る、是の如きは獨り所謂小新聞の類に止らず、現今有力なる大新聞と稱せらるるものにして殆んど是の如き卑劣手段

に依て讀者を增加せんと欲せざるものあるなし、社會の亂調も亦甚しからずや。唯吾人は此際新聞紙購讀者の大に新聞紙を撰擇するの必要あるを覺ゆる也。

吾國新聞紙の經歷太だ淺し、未だ吾人が撰擇に適す可き完全無缺の新聞紙を見出す能はずと云へども幾十百の新聞紙中豈に一二の比較的に取る可きものなからざらんや例せば讀賣新聞の如き中流已上の家庭の讀物として尤も妨けなきものと稱せらる、然れども唯玆に悲む可きは妨けなきものは毒にも爲らず藥にも爲らざること是也。讀賣新聞は高尙なり、優美なり、文學美術の趣味に富むといふと雖も即ち是れ文學美術の趣味を有するものにして始めて興味を感する所にして、世間一樣の常人に在ては唯、如何にもくだらざる事實を永々しく書き立て、而も事實はイツモ他に後るゝ遲鈍なる一新紙として見る可きのみ、而して却て彼の卑猥なる小新聞の類を見るに探訪の迅速にして精細なる、趣味の淸新にして饒多なる活氣の自ら紙上に横溢するものあり、而して價格の低廉なる何人も之を購ふに難からず、小新聞の社會に歡迎せらるゝもの獨り彼等が巧に人類の劣情を挑發するにのみ歸す能はざるものあり。

然れども小新聞が是の如く社會に勢力を振へば振ふほど彼等か社會に遺留するの害毒は愈大ならんとするは吾人が已に說きたる所の如し、されば凡俗滔々たる下流輩に在ては素より喩す可きの道なし、唯吾人が中流已上の人士にして苟も家庭敎育に於て、否自家一身の修養に於て意を致さんとするものあらば宜しく先づ有毒なる新聞紙をして家庭に入らしめざることを勸告せざる可らざる也。

而して又た比較的高尙の理想を有し、社會の有力なる敎育機關を以て任せんとする新聞紙の如きも徒らに高尙なり、優美なり、公平なり、穩當なりといふを以て滿足せず、其機敏に於て活潑に於て彼等劣等新聞を壓抑して餘りある程に發達す可きは勿論彼が人類の劣情を挑發して勢力を振張するか如く、此は人類の美性に訴へ、科學の智識を注入し、文學美術の好尙を皷吹し、公德を進捗し、私德を奬勵し、大に社會敎育の機關たる所以を揮發せんことを望まざる可らず。是の如くして新聞紙は此宗敎なき社會の有力なる說敎家となり、指導者なき社會の安全なる指導者となり、新聞紙が新聞紙として社會に存し、新聞記者が新聞記者として社會に立つ所以の理由も始めて明白となる可き也。

要するに一方に購讀者が次第に道德上健全なる新聞紙を撰擇するの風盛に行はるゝに至り、一方に是等の新聞紙が增發達して社會の大勢力たるに至らば今日の劣等新聞の如きは次第に倒滅するに至らん、假令ひ倒滅するに至らざるも遂に其毒炎を逞くするに至らざるべし。（千山万水生）

借家地の慘毒

歐米の實例

歐米大都市の借家地は一の別天地を爲せり。然り極めて悲酸なる極めて黑暗なる別天地を爲せり。之に住する者は常に衣食に窮し飢寒に瀕するの貧民にして、狹隘なる室內に多數群住し、汚穢を極め不潔を極めて、人をして一見嘔吐を催さしむる者あり。幾多の罪惡は玆に犯され、幾多の不義は玆に行はれ、此の別天地をして宛然惡魔の巢窟たらしむ、乞ふ吾人をして其實況を描かしめよ。

貧民借家地の弊害の甚しきと紐育市の如きは世界其の比を見ず。全市人口の三分の一は僅かに二万五千の家屋に住すと稱せられ、全市の死亡の五割三分は此の借家地に在り。若し之に慈惠病院に死するの窮民を合算すれば七割と爲り、更に犯罪者の死亡を合算すれば九割と爲る。倫敦市中人口最も稠密なる所は一方哩に十七万六千人の割合なり。然るに紐育市に至ては一方哩十八万五千人なる所あり、甚しきは一方哩二十四万二千人の多きに達するの區あり。千八百七十五年の調査に依るに、第四區の人口は一方哩に付十六万人、第十四區は十七万六千人、第十七區は十九万五千人、第十三區は二十万三千人、第十一區は二十万八千人、第十區は二十四万三千人なり。右の中第十區、十一區、十三區の地面の三分の二は貧民群居の借家を以て蔽はれ、平均一人の占領する地積は十五方碼（第十三區）、十四方碼（十一區）、及び十二方碼（十區）の割合なり。又第四區には僅々三十エーカーの地面にして一万七千六百十一人の借家人を有する所あり。更に精細に各戶の狀態を觀察すれば、多數群居の狀愈々驚くに堪へたるものあり。間口二十五呎の借屋に十六家族八十人の雜住するが如きは貧民普通の狀態にして其百人を容るゝ者決して稀ならず。甚しきは二百人を容るゝ者あり。米國の法律は借家人一人に就き、六百立方呎の空隙を與ふべきとを命じ、其の衛生法の制定は歐洲諸國に先た

つと二十年にして、其の條文頗る具はれり。而かも此等の法律は未た十分に厲行せられず。千八百七十九年の調査によれば、長十二呎、幅八呎、高五呎半の一室に九人の寢食する所あり。即ち一人の有する空隙は僅に六十立方呎のみ。又他の一室は暗黒なる窖中に在りて、是に雜住せし者十四人。倫敦は人口の多きを以て世界に稱せらるゝも平均每屋九人に過ぎず。而るに紐育は平均每屋十二人にして、若し借家のみを計算すれば實に每屋三十人の多きに上れり。

吾人は玆に博士スチーブン、スミスの報告書中より、左の一節を抄出して借家地の狀態を知るの料に供せん、

兒子の此處に生るゝ者は、大抵第一回の誕生日に至らずして死し、青年の此地に在る者は惡疫を得て其の容貌を損し、人口は飢寒過勞に依りて其容態を害し、醜面と爲り、陋矮となる。されば人の此の地に住する者は三十歳にして早くも老朽す。貧民が自ら斯くの如き狀態を稱して「借家人の朽腐」と曰ふは實に善く這の間の消息を傳へたるものなり。多數の貧者が自然に解躰(デコンポーズ)するの狀は、恰も化學者の所謂漸次的衰滅に類するものあり。罪惡、耽酒、淫猥、疾病、死亡等は借家地を支配するの王にして、道德的感化も宗教的薫陶も此の地を如何ともする能はず。されば倫敦の宣教師中には望を借家地の傳道に絶ちたる者あるも亦理なきに非ず。惟ふに借家地の人民の道德的腐敗は其の肉躰的狀態の劣等なるに基くと頗る多し。而して彼等の肉躰的狀態を改善せんと欲せは彼等の周圍をして健康に適せしめさるべからず

近頃の一報告書に依れば伯林市に於ては、一家僅かに一室を賃して寢食起臥勞作凡へて此に於てするもの九万四千家族ありて、其の人員は四十万の多きに達せり。此の種の室の中三千は暖爐なく火爐なし。又此家族中二万五千は最も健康を害する窖中に住すといふ。吾人は此の計算の果して精確なるや否やを知らざるも、亦以て現今各國の大都會か如何に貧民群居の弊に困しむか、窖中借家の風は如何に疾病惡行の原因たるかを知るに足らん。

曾て英國のリバプール市は衛生法を厲行し、一年の間に二万人を窖室より驅除せり。紐育市も亦二万五千の貧民を地下の借家より掃蕩せり。されど貧民軍は其の後幾もなくして再び舊窖に歸りて之に據れり。二千年

來窮民の存在したる倫敦の如き都市に在りては、肉躰、意思、精神與に墮落したる貧民を澄清するの策殆んど是れ無きに似たり。余は「倫敦窮民の苦歴」を讀んで左の一文に至れば、現代世界に猶且つ斯くの如き苦境あるかを思ひ、悚然として寒心せざるを得ず。其文に曰く

慘怛たる光景の裡に千百群居して常に悪疫の巣窟たる貧民窟の眞狀を解する者世上果して幾人かある。朽木の階段を下り、不潔暗黒にして悪虫群を爲すの通路を過ぎて暗室に入るもの是れ窖中の室に非ずや。而して此等の室の多くは八呎四方に過ぎず。其壁と天井とは多年積推したる塵埃に汚る。一室に住するもの數人の一家族なるあり、若しくは二家族共同して住するものあり。監査官は曾て一室に親子五人と四匹の豚とを發見したることあり。或は八人一室に住して死兒を室隅に横ふるあり。或は二十八歳以下なる九人の兄弟姉妹が八方呎の一室に寢食するあり。窖中の男女飢寒凍餒に苦しみ、期望を失ひ、慰藉の光を仰がず、終に暗黒狹隘なる、室中に死する者日に幾人ぞ。

嗚呼是れ實に血と涙とを以て記されたる光景の万分の一なり。若し夫れ神來の健筆をして更に仔細に窖中の狀態を描き出さしめば、之を讀む者誰か悚然として恐れざるを得んや。世人は故らに眼を掩ふて力めて貧民窟の裡面を見ざらんと欲す。されど社會組織を危ふするの種子は實に此の知られず、見られざるの窟中に在り。千八百六十三年紐育に有名なる暴動の起りしや、乞丐、悪徒、耽酣者、賣淫者等を貧民窟より驅逐したることあり。當時此等の貧民が山の如く群を爲して其巣窟より出て來るを見たる者は誰か其の光景の慘怛たると、其の窮民の恐るべきとを忘るゝを得んや。蓋し這般の貧民は同年以前に在りては曾て一度も群を成して街衢に現はれたる無かりしも、而かも久しく窖中に割據して市民の一部を成しをる者にして今猶窖中に棲息しつゝあるなり。勿論借家民とて盡く危險邪悪の徒のみに非ず。彼等の中には勤勉節儉にして借家地の悪風に慣染せさるものも亦甚だ多し、或る人の調査に依るに借家民の一割は勤勉なる良民にして猛悪不良なる者は僅かに其の五分に過ぎず。而して殘餘の八割五分は兩者の中間に位するものなりといふ。若し此の調査にして誤らずんは眞個に罪悪の巣窟たる借家は甚だ多からざるが如し。果して然らは之を救治矯正するを敢へ

て期し難きに非ざるに似たり。之を救治するの第一着歩は一方に於ては衛生法を勵行して各室に日光と空氣とを疏通し、一室の人員を制限し、一家族以上室を同うするを禁じ、窖室を以て住所となすを禁じ、他方に於ては政府も監督官をして時々借家を巡視せしめ貸家法を勵行するに在り。されど衛生法を改正し、貸家規則を勵行するには非常の忍耐と盡力とを要す。夫れ貧民借家の建築に投ぜられたる資本は紐育の一方のみにても二億万弗の多きに達し、其所有主に故らに姓名を隱匿するを以て家主の明ならざるもの甚た少なからざるのみならず、此等の家主は互に氣脈を通じて、苟も己れの利徳を殺ぐの改良案には力を極めて反對し、或は議會に代議士を出し、或は賄賂を議員に行ひて常に貸家改良の法案に反對せしむ。其の勢力や侮るべからざるものあり。加之借家民の無智愚昧なる却て家主と與に貸家改良の設計に反對し動もすれば彼等の安慰幸福の爲めに設けられたる設備を破壞するの愚擧に出づ。是れ借家地改良の至難なる所以なり。

借家貧民の狀態を改善するの策にして、從來既に試みられたるもの三あり。左に聊か之を叙べん。

第一の方法はジョルヂ、ピーボディが熱心に唱道したる所にして貧民の住屋改良を以て慈善事業となさんと欲するものなり。其の方法は私人の慈惠的義捐金を以て良好なる貸家を建て、家屋の維持修繕の費用を償ふに足るの家賃を以て之を貧民に貸與するに在り。されど此方法は忽ちにして失敗し、其貧民に利益すると甚だ少なかりき。蓋し斯くの如き慈善事業は無賴怠惰なる貧民をして毫も奮發心を起さしむるに足らずして、却て其の自立心を減ずるの弊あるのみならず、勞働の賃銀を減ずるの虞あり。貧民の狀態を改善するには更に一層の考慮無かるべからず。是に於てか第二の方法出てたり。

第二の方法はウォーターロー方法と稱し、倫敦職工住屋改良會社の採用したるものにして、米國の大都會に於ても多少之に倣へるものあり。此の方法に在りては改良せる家屋を貸すに正當の家賃を以てするものなれば、保險、修繕、監督等の費用を除きて猶六七分の利益を資本に生すといふ。されば此の貸家組織は著しく成功し、漸次に粗惡不潔の貸家を減じて、清潔にして健康に適するの家屋を增すの傾向を來せり。從來此の組織の經驗によれば一ヶ月六弗乃至八弗を以て三室を給し、八弗乃至十一弗を以て四室を貸して、八分五厘

の利益を資本に生じたりといふ。然れども此の改良貸家は比較的富裕なる貧者に便益を與ふるに止りて、未た極貧者の住屋を改むるに足らず。何となれば一ケ月三弗乃至五弗より多くの家賃を拂ふ能はざるの窮民は甚た少なからざればなり。是に於てか第三の方法を生じたり。

第三の方法は倫敦のオクタビヤヒル孃の計畫に係り、第二の方法の足らざる所を補ふの目的に出て。此の方法によれば、有志の士自ら劣等なる貸家を買收し、其の家屋を修繕掃除して、不潔汚穢健康を害するの憂を絶ち、毎月必ず相當の家賃を徴收して決して滯納なからしめ、且つ家主は時々借家人を巡問監督して住民の惡風淫習を矯正するを努む。故に此の組織は貧民に慈惠を施すと無く、又貧民をして從來の住所を移轉せしむるとなくして、親切なる監督と、寛仁なる同情と、熱心なる誘掖とによりて貧民生活の狀態を改善するを得べし。惟ふに貧窮なる人民の狀態を改善するには、徒らに金錢衣服を惠與すべからず、又漫りに家賃を免除すべからず。彼等を改善するの第一義は、彼等に智識を注入し、其の自重心を鼓吹し、清潔と規律との尚ぶべきを知らしめ、醇々として訓へ懇々として說くに在り。故にオクタビヤヒル法は、借家貧民を律するに、單に借家人と家主との關係を以てせずして、敎訓者と被敎訓者との關係を以てす。是れ此の方法が第一第二の方法を改善して、借家地の弊害を救治するに與て力ある所以なり。されどオクタビヤヒル法の功を奏すると否とは、主任者の人物如何に在り。主任者にし品性あり熱誠あるの人に非ずんば此の方法亦多くの効果を見る能はざるなり。

吾人は東京市の貧民窟に就ては茲に縷陳するの必要なきを信ず。其の慘狀は縱令歐米大都市の貧民窟に於けるが如く甚しからずとするも、其借家を改善するの急要なるは敢へて言ふを須たざるなり。吾人が歐米借家地の毒害を述ぶる所以の者は、我國の借家地をして彼が如く暗黑悲慘ならしめざらんとするの微意に出つ。

(河上淸)

我國の富と我邦人の躰格

近親結婚の弊害

一度痛む可き統計の表はれて、我國貯蓄の缺乏を公にしてより以來、頻りに之が奬勵の道を講じ、國民亦識

分か此に思ひ當れる所あるが如し。拜金宗は例外として、苟も一國文明の增進を計らんには、須らく先づこれが第一着歩として、國富の增加を計らざる可からざるや論なき所、貯蓄奬勵は亦此道に於て欠く可からざるの要領なり。されども吾人はなほ更らに此に改良の一要件を世に促さんとするものあり、そは他にあらず、近親結婚の弊害これ也。

近親結婚の國富上に及す影響の如きは、一見さしたる事なきが如きも、思慮あるものは、恐らくは其結果の偉大なるを思ひ至らずんばあらず。今此に之れが直接、間接に及ぼす弊害を述べん乎。

直接に迫す弊害とは、取りも直さず身躰上に及す弊害なり。ダルウヰン、ミウレル、スプレンゲルの諸氏は、これを自然のまゝなる植物の花に依て示究し、竟に左の如き事實を確めぬ。

(一)一花中の雌雄交接により生ずる實は異株の花との作用により生じたるものに比すれば、其數頗る僅かなり、

(二)一花中の雌雄交接により結びたる實は、異株の花との作用により生ずるものに比すれば、概して小形に目方輕し、

(三)一花中の雌雄交接より成りなる、實に依て生じたる植物は、異株の花との作用により、結びたる實に依て生ずる植物に比すれば、弱小なるのみならず、實を結ぶことも亦少し、

加之多くの花ある中には、同一花中に於ては、兩蘂の作用をなし得ざるのみならず、一花中の花粉は、人工を以て其花中なる雌蘂の柱頭に附着せしむるも、なほ其實を結ばざるものあり。更らに甚しきは、一花中の花粉は、其雌蘂に於て却て害毒なるものすらありと。之れ單に無意識なる植物に就ての例なるも、自然は聲なき良敎師なり、人類に於ては一層いみじき弊害を認む可し。

僅少なる家族中に於て、連りて婚娶を累ぬるは、同一穀疏を、連りに一地に播種すると同しく、漸次に品種を降下す可しとは、今に始めぬ世の定說なり。されば産兒に虛弱、畸形、精神病、痴愚、暗啞、色素性網膜炎を發し、殊に不姙、流産の多きは、皆な之れ血族結婚の弊害なり。古來歐洲諸共和府邑の貴族、或は漸く死亡し盡き、或は漸く賤劣の民となるもの、亦其累世小範域中に重婚したるの結果に外ならず、ブリチヤード氏の言によれば、蘇格蘭の山地に住する純粹の「セルツ」人種は、其身長、體力、容貌、其平地に住するもの、「サクソン」「セルツ」兩種の混淆に比すれば、其及ばざる遠しと。又彼の亞米利加の地に生れたる黑奴は、純粹なる亞非利加部落の中に生れ、直ちに亞米利加に來

れるものに比すれば、智愚、強弱、同日の比にあらずと。異種族結婚は其昔印度の衰運を來せし所以を知らば、一概に其利を說き得ざるも、一國民中に在つては勉めてその血胤新なるものを求むるを以て可なりとせん。況してや日本國民の如き、矮小短命、稍もすれば人種改良問題の稱へらるゝに於てをや。さりながら此等生理上の問題は暫らく世の專門家に讓り、更らに進んで間接の弊害、即ち國民思想上に及す一大障害に就て說かしめよ。

嘗てフレデリック、リストの云へるあり、農夫は必らずしも皆な陋劣頑迷なるものにあらず、其然る所以のものは、唯世々一村落內に定住し、陳套一律の農事に服し、數千年來僅々數十戶の間に相婚娶し、數百年來祖先の器具耕法を墨守し、敢て衣食の一新品を加へず、思想の一新變化を起さず、其專ら求むる所、多くは安逸娛樂を增すに在らずして、却て自ら之れを省殺するに在るの故のみ。然るに若し製造業起れば、事體全く一變し、其農民の過殖する者は、多く製造の民と爲り、又隔絕せる地方の農民間、及び農民と製造の民との間に婚娶行はれ、其才智、道德、體力の停滯破れて、漸く流動を起し、又內國貿易、外國貿易共に是より起り、製造と相助けて、一國、一地方、一家族の中に、新鮮なる生氣を注入すと、此言必らずしも異なる能はずと雖も、我國の如く古來此弊を傳襲し來り、殊に地勢上、地位上、到底商工業國たらざる可からざるの國に於ては、正に大に此に則る可きものあるなり。否らずんば之れ其天分を失せる也。

造化意を用ゆるか、喬木も天を刺すに至らしめず、嘗て歐米兩大陸の中央に座し、傲然世界の問屋を以て任したる英國も、今や漸く衰運に向はんとし、東より西に廻り來る國運は、將さに我國をして米に抗せしめんとせり。先年一英人商業史を著して云はく、日本は今日迄商業上に於ては全く受身の狀態にありき、而して近年恰かも受身より働きかけの有樣に進めりと。働き掛けとは、所謂武士が出門の時なり、徒らに小勇を競はず、意を國家百年の大計に注ぎ、まさに來る可き幸運に乘じて、着々商權獲得に勉めずんばあらず。今は昔し一千七百七十六年、獨立戰爭以來、モンロー主義により、殆んど孤獨の狀態なりし米は、今や其門戶を開いて打ち出で、先づ第一に布哇を從へ、玖瑪、ポートリコ、非律賓をも合せ、更らに進んで腕を東亞の天地に振はんとせり。若夫れニカラグワ運河にして開通

せんか、遺憾ながら、將來大平洋上の覇權者たらむものは、唯それ一の米なるか、亞細亞、亞米利加、墺太剌利亞の三大陸間に介立し、此上なき天然の地利を有せる日本は、漠然かゝる狀態を、傍觀する程の無頓着者たり得る乎。

世界の直徑周圍は二万千六百哩にして、蘇士運河竣功の前に在つては、米國より喜望峰を經て、香港に至り、（ホールン）岬を過ぎり歸國せば、三万七百九十六哩なりしも、蘇士運河の開通は、二万八千三百六十三哩に減少し、ニガラクワ運河はまたもや之れを短縮して、二万二千三百九哩迄になさんとせり。更らに該運河成功の後、米國と他國との交通哩程を示せば、左の如くに減縮す可し（ニユーヨルクを起點とす）。

	現	節	運河
横濱	一八九〇〇	九三六三	九五三七
香港	一九七〇〇	一〇六九三	九〇〇八
桑港	一四八四〇	四七六〇	一〇〇八〇
ホノルヽ	一五四八〇	六四一七	九〇六三
メルボーン	一三七六〇	一〇一〇〇	三六六〇
マニラ	一九三〇〇	一〇二〇〇	九一〇〇

是れ亞米兩岸を接近せしむるのみならず、亞細亞、亞米利加、歐羅巴、三大陸の接近なり。斯かる縮天狹地の一大變局に乘じて、鹿を中原に爭はんとせば、日本は果して如何なる方策による可きや。如何にせば少なくとも人後に落ちざるを得るや。殖民事業を奬勵す可し、商工業敎育を發達せしむ可しとは、世間多くの識者の常に催告しつゝある所なり、兩者の必要寧ろ寸時を忽にす可からざるの最急務なるは、今更らの事ならねど、今一の速に矯正を要すべき弊害の潛むあり。再言す國富上に及す近親結婚の弊害これ也。

本邦に於ては、古封建的氣風と、極端なる宗敎心とよりして、兎角一地方、一局部以外に、血胤新なる婚娶をなすを望まず、殊に甚しきは、一村落以外に結婚す可からずとの舊慣、今尙墨守せられつゝあるものあり、從て故園を去るを好まず、國境を離るゝを好まず、海外移民を好まず、竟に我海國民の天職とも云ふ可き商工業すら、はかばかしからざるの結果を來たせり。加之其體格、智能共に多分の影響ある可きは、生理上明かなる所なり。大頭惱國民とて、之れが養成の道を盡さずんば、何の誇る可き所やはある。先年羯南子奧州人と九州人の長短を比較したるものを見るに、頗る其眞を穿てるものあり。

奧州人は何つも大平無事と思ひて世に處するの風あり從つて一旦不測の變に遭へば甚しく狼狽して人の笑を招き易し

九州人は之れに反して平和の世に在りながら常に出陣の心得をなし何事を謀るにも先づ戦法を割出すの風あり

奥州人の貴ずる所は伎倆よりも徳行にあるが如く九州人の尙ぶ處は徳行よりも伎倆にあり若し政治上より評せば奥州人は自由主義に適す可く九州人は壓制主義を便利とす可し

此の蜻蛉州の兩端をして各一個の小獨立國となさば余は信ず奥州は必ず自由國たるべく九州は必らず壓制國たる可きを。之を外國に譬ふれば奥州は米國にして九州は露國なり奥州人の毎に九州人に制せらるゝは其原因を氣風の差違に歸せざる可からずと、

吾人は更らにこれを中國人士に比するに、或は甲の短所を有し、或は乙の長所を欠ぐありと雖も、其商工業的思想、性行に於ては、正しく其兩者の上に在るを眞して疑はず。

三十一年末の調査にかゝる、本邦貯金高の各地方別を見るに、

地方	銀行貯蓄預金	郵便貯金	合計	一人額
奥羽地方、即ち（福島宮城山形秋田岩手青森）を以て	一、一一四、二三五	一、二五八、三五〇円	二、三七二、五八五	円・四八七
九州地方即ち（長崎佐賀福岡熊本大分宮崎鹿兒島）にして	二、二四三、九九九	一、五一七、八四〇円	三、六六一、八三九	円・二一一
上方地方、即ち（滋賀京都大阪奈良和歌山兵庫）を合して	一二、二一九、二六八	二、六四三、五六六	一五、七六二、八三四	円二・五四七
中國地方、即ち（岡山廣島山口島根鳥取）を合して	一、八三七、九七三	二、六六〇、〇六六	四、四九八、〇三九	・九六三

以上の統計を以て直ちに其地方人士の思想性行を斷言するは頗る早計に失するが如きも、一片の藥能く風の方向を示す、以て其一般を察するに足る可きなり。況んや、氣候、地位、地勢の上に於ても、自ら商工業に適し、現に日本商業の實權を握るものは、實に上方、中國に存するなり。されば其天然の感化と、敎育の法方とにより、其地方人民の一般に商工業的思想を有するや眞なり。されば吾人は今暫らくリストの言を信じて、我國民の成る可く近親結婚を避くると同時に、進んで九州奥羽地方と、上方中國邊の人士との間に、漸く婚娶の行はれ、以て根本的に舊來の弊風を矯め、其思想の一變遷を切望するもの也。事若し如此にして進み行き、從て商工業敎育の發達盛なるに於ては、温和なる氣候と比較的長き海岸路と、殊に天祐ある好地位とは、自ら我が國民を驅つて、商工業的に、殖民的に、竟に歐米亞三大富源の中央に介立し、儼然世界の問屋たる可きは、必らずしも不可能の言にあらず。近き將來に於て、まさに來る可き實狀なりとす。ホンテーン曰く、走るは益なし速に發するに若かずと。末頼もしき我國民よ、乞ふ此に鑑みて、其天分を失せざるに勉めよ。（篠原九皐）

御用商人と大地主

附小作人の政治思想

我國目下政治上の原動力を討査するに、中央にありては御用商人、地方にありては大地主と爲す。政黨員の如きは、其手先となり、肝入となりて、コンミッションを貪るに過ぎず、

山縣内閣の當時、地租增徴の議起るや、御用商人は金融を滑利にし、株劵の騰貴を冀ふて之を贊し、政府黨に使嗾して其功果を收めんと欲し、地主は自家直接の苦痛を受くるを欲せず、非政黨に依りて抗拒せしが、終に增租は決行せられたり、

然れども地主は漸く反對の態度を變じ、却て增租を喜べるが如き、不可思議の有樣となれり、其故何ぞや、たとひ幾分の負擔を增すも、之を小作人より徴收して、政府に取次ぐのみ、且つ增租を口實として、小作料を格外に引上げ、其間に於て自家の財嚢を肥すの便あり、是に於て前に倚賴したる非政府黨即ち憲政本黨の擧動に對し、冷眼を以て相迎ふことゝなれり、憲政本黨が唯一の標榜として、增租反對の旗幟を押立て、天下に呼號せしも、勞して功無く、却つて冷笑の中に葬られしは、氣の毒至極の儀と雖も、未だ深く地方の情況を觀察せざるの罪に坐す、爾後益々逆境に沈淪して、其失策を悟り、旗幟變更とか云へる、怪しき名の下に逃げ込みたるが、今日財政の紊亂は、山縣内閣の當時に比して更に甚し、加ふるに渡邊藏相の無責任、盲動暴突、上下の望を失つること、松方と同日にして語るべからず、かゝる形勢に至りて、多年の宿論を抛擲したる憲政本黨、何ぞ信賴するに足らんや、宜なるかな孤城落日復當年の勇氣無きや、

或は曰く、東洋の時事日に非ならんとするの今日、折衝禦侮の經營に就て、財用の不足を感ずるを以て、非增租の旗幟を撤去せざるを得ざるに至れりと、是一時の口實のみ、列强相率ゐて、東洋を覬覦せるは、今日に始まりしにあらず、三國關渉、遼東還附以來、臥薪嘗膽の語は、我國民の日夜口にして須臾も忘れざる所、折衝禦侮の經營は、今猶昨の如し、たとひ一歩を讓りて財用の不足を充たすの必要ありとするも、今日の内閣果して國民の期望を完整し得るの實力ありや、例へば放蕩息子と知りながら、大金の出納を掌らしむるが如し、滑稽の次第なり、多年政治上の經驗を有せる、濟々たる多士を以て、組織せられたる憲政本黨が、斯

る見易き道理の判斷を誤まれるとは、實に怪訝の至なれども、其原因を探ぐれば、全く地主なる者の歡心を買はんと欲するに外ならず、

蓋し今の所謂政黨なるものは、地主に依らざれば、御用商人と結托し、以て衣食の計を爲すのみ、憲政黨中星の一派は御用商人の手先となりて、增租の議を賛し、其功果を收めたるなり、政治上得意の舞臺に跼蹐し、言ふて聽かれざる無く、計りて容れられざる無し、地主たる者初めは自己直接の負擔を增すことなれば、多少反對の態度を取りたれども、熟慮すれば唯小作人の苦痛のみにて、己れ却て利する所あるより、憲政本黨の標榜を悅ばず、暗に星一派を謳歌するに至れり、

されば目下政治上の原動力たる、中央の御用商人と、地方の大地主と、相投合して星一派に心を傾くる有樣となり、彼等は旭日昇天の盛運を呈し、如何なる醜聲あるも猶能く其勢力を保つ所以なり、然らざれば天下に知れ渡りたる星派の罪惡、何人か之に左袒し、之を庇護するものあらんや、口に義を唱へて、心に利を好むは、多數人心の免れざる所なれば、表面星派の罪を痛言するも、裡面は却つて其恩惠に浴する御用商人地主等、冥々の中に後援となりて、星派の勢力を添え、終に進んで伊藤侯を抱き込み、政友會の組織を見るに至れり、

彼の政友會なる者の內部を解剖せよ、一半は御用商人、一半は地方の大地主とを以て基礎となし、憲政黨と伊藤派とを以て、藩籬となし、門楣となしたるなり、而して憲政本黨に屬する地主派も、利害を打算して、增租反對の不必要を感ずると同時に、陰に政友會の盛運を羨望し、終に本黨をして旗幟變更の止むを得ざるに至らしめたり、

是に於て小作人、即ち我國民中最多數を占むる下層社會は無限の苦痛を感じて、之を訴ふるの道全く杜塞し、星を戴いて出で月を踏んで歸り、粒々辛苦の結果、獲たる所は大抵地主に掠奪せらる、增租以前でさへ、一椀の濁醪、一葉の枯魚、容易に口にする能はざるは、小作人の境遇なり、我鄕里に於ける小作人の如きは、僅かに藁席を織り、草鞋を作るの原料を得んがために、人の田地を耕作するのみ、自ら額に汗して獲たる米は、一粒も味ふを得ざる悲境に沈淪せり。否小作人のみならず、地主と雖も自ら耕耘に從事して、漸く生計を支ふる者に至りては、其辛苦窮乏小作人と一相同じ、余輩が所謂地主として論ずる者の如きは、百中の

一二のみ、

水旱蝗蟲の害無き、豊熟の年にして既に此の如し、一たび凶歉の災に遇ふや、其困苦推して知るべし、然るに地主なる者、毫も賑救の道を講せずして、只管誅求苛斂を事とし、驕奢の風に浸染して、花柳の巷に沈湎す、其狡猾なる者は、所謂政黨に加盟して、撰擧の運動、官有地の拂下げ、種々の名目の下に、利己の計を運らし、不義の富を致すに汲々として、部下の小作人が、餓死の狀態に陷るを顧みず、而して國家の制度法律は、是等の奴輩を庇護すること甚だ厚く、最多數なる小作人(小地主をも含む)を無視するの傾向あり、法律制度は其國人民の生命財產を保護するを以て目的と爲すと雖も、的下我國の立憲政體と云へるものは、單に財產を目安として、設けられたるやの觀あり、(鑛毒事件の如き好適例)

此の如き理由よりして、中央に於て御用商人の跋扈と同じく、地方にありては大地主の勢力無限に擴張せられ、政治上社會上一切の權利は皆之に歸し、下層人民は、唯々諾々其左右する所となり、先天的卑屈の境遇に居りて、蠢々然螻蟻の生活を營めり、我國古來の諺に、泣く子と地頭にはかなはぬといふ事あり、今日の狀態を觀察すれば、泣く子と地主にはかなはぬと云ふこそ適當ならん、

されば增租の議決行せられて、小作人の苦痛悲慘甚しと雖も、地主は政府の威力を借りて、封建政治に慣れたる、遺傳的卑屈の人民に臨むことなれば、土百姓の分際にて彼此申すもお上に御無理のあるべき筈はないと云ふが如き口氣を以て、壓制せしかば、增租に就ての反響は、終に聞えずなりたり、

單に財產保護を以て目的とせる制度の上に立ちたる衆議院は、果然多數人民の代表者にはあらざりき、第十五議會が政府黨と云はず、非政府黨と云はず、租稅增徵に就て、一致の贊同を表せしは、全く最多數の下層人民を無視したるなり、而して道理上平民の仇讐たるべき貴族院が、却つて下層人民の味方となり、增稅を否認せり、冠履顚倒の奇觀と云ふべし、

併し此の如き奇觀も、其由來を尋ぬれば、奇とするに足らず、地主と御用商人を以て基礎としたる、今日の政治社會なれば、下層人民の聲は、到底三百代議士の口より發する能はず、却つて傍觀の地位に立てる、貴族社會に於て、一片惻隱の心を有せしより、政府黨と奮鬪せるなり、

ア、地主と御川商人、今日政治社會の墮落を致せしも全く此二者に依れり、所謂勢力の伏在する所腐敗の源流なり、而して政治社會の墮落は、延いて社會の風俗を壞亂し、國家の品位を失墜するに至れり、之が救濟の策を講ぜんと欲せば、制度法律の上に、根本的改革を施し、平民的政治の基礎を建設するを以て急務とす、然らざれば彼の政黨なるもの、勢力消長の上より打算して、永久地主と御川商人との歡心を買ひ、其爪牙となり其腹心となるを免れず、憲政本黨の旗幟變更以て證すべきなり、

御用商人の驕奢跋扈は、都人士の既に熟知せる所なれども、地方の地主に至りては、世人未だ知悉せざるものあり、今其一例を擧げんか、東台墨陀、櫻花爛熳なる候、黑七子三紋付の羽織に、米澤一樂或は奉書紬等美々しく着飾り、金色燦爛たる時計の鎖、赤十字社の徽章と相映帶せる田舍漢、處々に彷徨し、日暮去りて紅燈綠酒の邊に、豪興を鬪はすを見ること、年々歲々に增加し、京童の口に馴れたる、赤毛布連は漸次減少す、是れ何等の現象ぞ、人或ひは曰く、都門驕奢の風、地方に侵入して、田舍漢亦此の如し、地租增徵を拒むの理、何處にあると、皮相の見、其一を知りて其二を知らざるなり、蓋し赤十字社の徽章を佩るものは、地方に於て中等以上の生活を營める地主にして、一般農民にあらざるなり、其下に呻吟せるものは、即ち赤毛布連なれども、地主の誅求に遇ふて、生計上些の餘裕無く、生涯一度か二度の東京見物も、容易ならざる境遇に陷りしなり、租稅增徵の結果は終にかゝる現象を呈せり、

然れども可憐なる小作人は、增租の何事なるかを知らざるもの〻如し、其當時余は地方に旅行して、一農夫に問ふに、苦其疾の如何を以てせしに、曰くお上のするとなれば命を取らる〻も仕方無しと、彼等の政治思想は全く皆無なり、依然として封建時代の服從的思想なり、立憲制度の下に棲息する資格無きが如し、されども一たび立憲制度を施行せるからは、其上に立つ者、其下を保護啓沃するは、立憲的政治家の責任なり、然るに弱者を虐げ愚者を欺き、暴戾恣睢たゞ自己の福利を企圖せんと欲するは、恰も泰西諸强國が文明の假面を被り、他の邦國に闖入して、蠻行を逞うせると相似たり、

ア、昔は武力を以て下を虐げ、今は財力を以て武斷的壓制を施す、昔は地頭の前に、御無理御尤もと叩頭匍

御したるもの、今は地主のために蹂躪せらる、下層農民の境遇ほど、愍むべきものは無し、然れども何時まで斯くてあるべき、多數人民が其頭腦を以て立憲政治の意義を解釋し得るに至らば、貧富の衝突を惹起し、其矯激なる者或は忌はしき破壞主義を唱ふることあらん、想ふて茲に至れば寒からずして肌膚粟を生ずるの感あり、故に余輩は其豫防策として、今日より兩者を融和疏通するの必要ありと思惟す、たゞ如何せん、今の政黨者派は目前の小利に汲々として、將來の大害を慮らず、地主御用商人をして、益々跳梁を恣まゝにせしめんとす、（町田源太郎）

友人上田穀南君露語に熟し露國の事情に精通す予は本誌上に「東清鐵道論」を掲載して世人の參考に供せり而て西伯利大鐵道を詳知するの急要たる東清鐵道よりも急務に屬す、之れ予が君に乞ふて本稿の寄稿を促したる所以なり、讀者此一篇を細讀して詳かに露國の大企畫を考察せよ

金華山人　松　島　宗　衞

西伯利の發達と西伯利鐵道

露國政府は西伯利の發達と西伯利鐵道の實況を廣く世に紹介せんとして昨年の佛國巴里万國大博覽會に其大要を記したるものを出したり。西伯利の地勢沿革より西伯利鐵道の現況殖民政策の方針を說くこと簡にして精確なり。此に其要領を抄譯す。

穀南生

（上）地勢、沿革

西伯利と稱するは北緯四十五度及び七十七度と東經三十度及び百六十度（ブルコウスキノの午線に依る）の間に在りて露西亞帝國の版圖内に編入さるゝ亞細亞大陸の北部一帶の地を指して言なり。西伯利の境は西の方烏拉爾山脈及び烏拉爾河を以て歐露と接し東は太平洋及び白令海（ベーリング）「オホーツク」海日本海に面し南は中央亞細亞の露領及び支那帝國并に一部朝鮮と界を接す。其面積は一千四百五十万方吉羅米突にして地球の大陸全躰の約九分一、亞細亞大陸の四分一以上、歐洲露西亞の二倍半以上、全歐洲の一倍半を占む。西伯利の地は此の如く廣漠なるを以て其天然の情態も亦頗る其趣を異に

し西伯利鐵道の敷設せらるゝ南部地方は風土共に拓殖の發達に適すと雖も北方は氣候寒烈にして耕作に適せす永久無人の沼澤たるべし。

地理上の情勢に依れば西伯利は西部、中央及び東部に分つを得べし、西部は「トボリスク」縣、「トムスク」縣及び「アクモリンスク」、「セミパラチンスク」、「ツルガイスク」、「ウラールスク」の曠原諸州、中央西伯利は「エニセースク」縣及び「イルクーツスク」縣、東部は「ヤクーツスク」州及び「ザバイカル」州、黒龍州、沿海州薩哈嗹島を包含する黒龍沿道地方是なり。西部西伯利は茫々たる平地にして「オビ」及び「イルツイヒ」の二大河流にて潤され只其南部にのみ山脈累々たり。此の廣漠たる西部西伯利の中央は風土耕作に適し露國の中央部と稍々相似たるを以て夙に歐露移住者の殖民地と爲り、就中「トムスク」縣の南部に位して帝室の御料地たる亞爾泰地方は移住者の好んで殖民する所と爲れり。同地方の南東に當り山嶺相列りて溪流其間を巡り海面を拔くこと一万呎以上に達するの所は鑛物に富み金鑛あり銀鉛鑛あり銅鑛あり鐵鑛あり又輓近石炭坑の發見せられたるものあり。

中央西伯利の「エニセイ」縣及び「イルクーツスク」縣は「エニセイ」大河の流域に沿ひ一望平原なる西部西伯利とは其趣を異にして露清國境の境界線を形つくる高からさる山脈にて蔽はれ、氣候亦西部西伯利に比して稍々寒烈なり、「イルクーツスク」は東の方貝加爾と界す湖の長さ六百二十露里幅三十五乃至八十五露里にして總面積三万方露里あり。湖の西岸より發する安加剌河は流れて湖と「エニセイ」河とを連絡す。「イルクーツスク」縣は金銀銅鐵玉石に富む。又廣大なる「ヤクーツスク」州には「レナ」大河ありて其地を潤すも山地にして氣候冱寒耕作に適するは僅に其南部地方のみ。「ヤクーツスク」州の天產物は銀鉛鑛、鐵、石炭、山鹽、にして就中金鑛脈に富めり。黒龍沿道管轄地又は黒龍江の左岸露領地と日本海、「オホーツスク」海、白令海に面する一帶の地に互り堪察迦半島及び薩哈嗹島亦之に入る。此の管轄に屬する三大州の一なる「ザバイカル」州は山脈疊々として貝加爾湖以西に比し氣候寒烈なれども其南部には貝加爾及び黒龍江の河流に潤されて露國民の開墾したる溪谷と土人（ブリヤート人ツングース人）及び露清國境に屯住する哥薩克人の好牧場たる曠野あり。「ザバイカル」地方も亦鑛物に富み金鑛あり銀鉛鑛あり銅鑛あり又錫及び水銀を產し石炭の鑛脈も

あり鑛泉亦夥し。黑龍州及び沿海州の南部は「ザバイカル」地方の如く山地なれども太平洋に接近するを以て氣候稍々温和にして濕氣あるが故耕作開墾に適せり。同地方就中黑龍江の一大支流烏蘇里河の柘殖は其結果甚た良好なり。沿海州の北部「オホーツスク」及び堪察迦地方併に薩哈嗹島に至りては氣候の寒烈なる爲め農業發達の見込なし。

西伯利の蠶食は第十五世紀の末露王イヲアンの御宇に「カザン」及び「アストラハン」の韃靼領を亡ぼし「ウオルガ」大河と「ウラル」河の流域を占領して露國の國威大に發揚したる時に始まれり。始めて西伯利を征略せしは奇傑エルマークなり氏は五百騎の哥薩克を隨へ烏拉爾山を超えて西伯利に入り一千五百八十一年韃靼の酋長クチームを攻め之を取りて其城「イスケル」(別名西伯利(シベリ))を陷れ韃靼人敗れて南方の曠野に奔りたり。西伯利韃靼國征服の報莫斯科に傳はるや露國王は一將に若干の兵を授けエルマークに應援せしめたり。一千五百八十四年エルマーク「エルツイヒ」河に溺死したるも應援兵は哥薩克と共に氏の志を繼て侵略を事として西伯利に露國の二市を創建したり「ツーラ」河畔の「チーメン」市及び「イルツイヒ」河畔の「トボリスク」市是なり。之れより露人の向ふ所殆と敵なく土人は露人の勢威に壓服せられて貢を納めたり。

露國政府は莫斯科と新占領地との連絡を鞏固にせんが爲め到る處に要塞を築き十六世紀の末より十七世紀の末葉に至るの間に西伯利の三大河「オビ」「エニセイ」「レーナ」の流域は露國の版圖に歸し益々東に向て其版圖を擴張したり。露の侵略此の如く速に其功を奏したるものは地理上の關繫亦與かりて力あり即ち跋涉し難き山脈なく水路の便甚た豐かなるに由るなり。侵略の前驅たるものは常に慓悍なる野武士哥薩克兵にして彼等は要塞を築く毎に一歩を進め土人を征服し貢を納めしめ第十七世紀に於ては已に一方北氷洋に出てゝ其沿岸を探撿すると共に白令(ベーリング)海峽を發見し之を航して堪察迦に出て(デヂユネーフ氏の探撿)又一方は進んで「オホーツスク」海及び黑龍江に達したり(ポヤルコフ氏及びハバロフ氏の遠征)一千六百九十七年哥薩克アトラソフ氏堪察迦を併呑して露領と爲したり。第十八世紀には曠野諸州の遊牧民たる「キルギス」族露國の臣下と爲り十九世紀の中葉にはネウエリスコイ大尉黑龍河口を發見し東部西伯利總督ムラヴヰヨーフは黑龍江一帶の地を占領し一千八百六十年イグナチーフ伯の締

結したる北京條約に依り此地清國政府より正式に讓與されたり。此地の占領は露國をして日本海に出るの途を得せしめたるを以て其の露國に利する所頗る大なり。遂に一千八百七十五年日露の協商に依り薩哈嗹島は露國の有に歸したり。

西伯利を征服すると共に露國は亦之が殖民に着手したり。西伯利征服に從事したる哥薩克は其の最初の殖民人と爲り茲に土着の生活を爲して西伯利哥薩克の基礎と爲れり。露國政府は通常移民を奨勵するの外殖民政略として占領の當時より刑事上の罪人及び囚虜等を西伯利に流竄し來りしが近頃に至り地方發達上の不利益なるを感じて之を廢したり。

當時露國には「クレポスツノイ、プラーオ」といへる大地主制度とも稱すへき一種の奴隷制度ありて小作人たる農夫は大地主たる領主に全然縛せられ之が奴隷と爲りて耕作に從事したるが故之を移住せしむること能はざるに依り露國政府は農民を移住せしむるの必要を感ずると共に西伯利に接近する地方の大地主制度に束縛せられさる農民に移住を勸め大に之を奨勵したりしが第十八世紀に至り西伯利に鑛業の開くると共に鑛業場の工夫の移住をも奨勵したり。此の政府奨勵の移住民よりも更に多かりしは夫の大地主制度の壓制に堪へす自由の生活を爲さんとし窃に脱して西伯利に移りたる小作人たる農夫なりとす。露國移住民の數第十九世紀の初西部西伯利のみにて已に六十万以上に達したり其内過半は政府の補助を藉らすして随意に移住したるものなり。一千八百六十一年歴山二世が大地主の奴隷制度廢止を斷行するや移住の趨勢に大影響を及ぼし大地主制度廢止と共に歐洲露西亞の人口稠密にして農業最も盛んなる地方の農民は人口の益々繁殖するに從ひ耕地狹隘と爲り而して他の職業に轉するは農民の不得意とする所なるを以て相率ゐて西伯利に移住するに至れり。是を以て一千八百六十年乃至一千八百八十年の二十年間に西伯利に移住したる者約拾一万人なりしに一千八百八十年乃至一千八百九十二年の拾三年間に移住したる者四十四万人の多きに上りたり。露國政府は第十九世紀の下半季に於ける移住の趨勢に鑑みて之を束するの必要を悟り一千八百八十五年始て測量專門の技師及ひ歸住地區劃整理委員を西部西伯利に派し一千八百八十九年西伯利の官有地移住法を發布し其要項は今日に至るまで實施されつゝあり。即ち政府の認可を經て西伯利に移住する者には男子一人に付十五「デシヤ

チン」を永久使用として下付し移住三年間租税を免除し後の三年間は納税額を半減し三年間兵役を免る等是なり。又陸路烏拉爾山を經て西伯利に移住するの外義勇艦隊の船艦にて海路南部烏蘇里地方に移住するの途開けたるより此海路にて一千八百八十三年乃至一千八百九十二年の間に移住したるもの一万七千人あり。黑龍州及び沿海州に移住する者の爲めには更に特典を設け一家族に百「デシヤチン」の土地を交付し二十年間租税及び國役を免除する事としたり。一千八百九十三年西伯利鐵道委員會の設置せらるゝと共に西伯利殖民事業を以て該道敷設と密接の關係あるものとせられ其の大躰の處置は舉けて該委員會の手に付せられたり。

西伯利移住の結果露國人は烏拉爾より貝加爾湖に至る間の南部の耕作に適する地及び貝加爾湖以東黑龍江流域を經て日本海に至る間の地に其居を占め其の各州に對する移民の配置は地味の膏腴と歐洲露西亞を隔る距離の遠近に依りて多少の差あるなり。一千八百九十七年の調査に依るに西伯利移住民總數三百十八万八千三百六十八人の內西部西伯利の二縣（トホリスク縣トムスタ縣）に移住したる者は三分の一以上を占め（三百三十六万七千五百七十六人）曠野（ステープ）の四州に移住したる者二百四十六万一千二百七十八人、「イルクーツスク」縣及び「エニセースク」縣に移住したる者百六万六千四百十九人、黑龍沿道管區幷に薩哈嗹島に移住したる者百三万千三百六十四人「ヤクーツスク」州に移住したる者二十六万千七百三十一人なり。

西伯利民は其人種の異同に就て觀察すれば、一は舊來の土人たる異種族民と一は露人の西伯利征服前其の隣邦蒙古より移住したる者とありて頗る繁雜なり。此人種中西部西伯利に最も多きは「キルギーズ」人及び韃靼人にして中央西利伯及び「ザバイカル」地方に多きは「ブリヤート」人及び「ツングース」人なり。されど今日に至りては露國人多きを占め西伯利は全く露國の風土たる性質を帶び西部西伯利の如き農業發達の地方に於ては露國人全人口の九割六分を占め中央西伯利に於ては八割四分、「ザバイカル」地方に於ては七割を占む。土人の優勢を占むるは僅かに北極の寒帶地方及び「キルギズ」の曠野にして同曠野に於ける露國農民の數は全人口の五割なりとす（以下次號）

海外新潮

世界大勢

歐洲は亞細亞を壓伏し能ふ歟
基督教は黄人種を教化し能ふ歟

龍動スペクテーター誌の持主にして記者たるタウンセンド氏（Sir Meredith Townsend）は印度カルカッタに在りしこと十二年、「印度の友」に執筆せし人にして亞細亞の事情には精通せりと稱せらる、去二月「コンテンポラリー」雜誌上、歐洲對亞細亞の問題を促へ來て論ずるところあり、頗に自家の實見せる印度の國情と印度人の宗教思想を本據として立論せるもの、これを一般の亞細亞より見ればやゝ失當の點無きに非るも議論の大體に於て大に吾人の注意すべきものあり、氏は先づ歷史的に推究して歐洲の亞細亞を歐化し能はざるを述へて曰く

予は五十年間研究の結果として歐洲一般の人々が想像する如く輕々に亞細亞を征服し支配し能ふものとは決して信ずる能はず、曾て白人は亞細亞の地を搖籃として發達し來りしもの、其知識に於て其感想に於て歐人の亞細亞化されたる時代はありき、亞細亞人の歐化されたる時代は決してこれあらず、古代希臘の興起、歷山大帝の勢威は遠く印度までをも動かしたり、然れども希臘の文化は幾許の感化を亞細亞に與へたるか、羅馬帝國の光輝は世界を照さんとせり、然れども幾許の影響を亞細亞に及ぼしたるか、紀元七百年より一千七百五十七年に至る、幾度か歐亞の衝突接觸あり、然れども亞細亞に於けるその一洲も一種族も全く歐洲の思想感情に化せられたるを發見する能はざるなり。

降て近世の歷史に及ぶ、露は其北方より英は其南方より亞細亞を征服し、亞細亞大陸の一半は殆んど歐洲支配下にあり、其支配下に在るに拘はらず、歐洲的勢力は此廣き土地と多き人衆に扶殖すること能はず、北に於ける中央亞細亞、西比利亞等の露領人民は歐洲文明の思想宗教風俗には未だ同化の一痕跡をも見る能はず、南に於ける印度は表面英國仁政の下に謳歌せるが如きも、實にこれ表面のみ、一朝異變あるに際せば、其洲、其族、其團体、一として英國の安んじて信賴するに足るものなし、印度の全土は恰も白人といへる薄き氷の膜を以て表面を掩へるが如し、其裏面には忍び忍んで氷の融くるを待つ黑人と云へる波浪の大部分有り、一朝其一局部にても缺隙を生ずることあらんか、汪洋澎湃自己種族の支配の下に復して歐洲の覊軛を脫せんと計りつゝあるなり。

日本が近時列強の仲間入をなし、文明化せるを敍してこれも決して歐洲に同化するものにあらずとて

帝國日本の勃興は決して歐洲に同化して然るにあらず、亞細亞的の特質を保存しながら歐洲の文明を消化して生育したる者、此成功は久しき間の潛勢力の發現のみ、今日の歐洲各國は已れの仲間を得たるが如くこれを賞讃するも、不日白人が亞細亞人に對して遂に防禦的態度に出づるの日あらん。

と歐洲人と亞細亞人とは元來思想の根本に大差異あるを說て曰く

歐洲人は世俗的なり、實際的なり、自由的なり、亞細亞人は宗教的なり、空想的なり、服從的なり、歐洲人は目に實現せんことを思ひ、亞細亞人は心に冥想せんことを欲す、歐洲人は人間を支配者とせる政府を作り、亞細亞人は神を天子とせる主權者を欲す、歐洲人は自由の振張をこれ希ひ、亞細亞人は絕對の服從をこれ事とす、其政治的思想、社會的觀念、宗教的信仰、悉く根本に於て緊き合すべからざる懸隔あり。

歐洲人は此根本的差異を消滅せしむるは、基督教の効能なるべきを思ひ、それに依て亞細亞を化し能ふと思へるも、これ又無効なりとして曰く、見よ彼猶太人は久しき以前より歐洲思想の中心に介立し散布せる種族にあらずや、而も彼等にして基督教化されたる事實ありや、吾人は歷史的根據よりして基督教が到底亞細亞に豫想するが如く成功し能ふるものとは信ずる能はず、基督教の永久にして現實なるものと亞細亞宗教の虛無にして寂滅なるものと到底一致せず、過去千八百年間亞細亞に於ける基督教の感化は全無効なりき、未來幾多の歲月又々然らん、要するに基督教に依て亞細亞を壓伏せんことは望むべからず

タウンセンド氏は終りに悲觀して曰く、歐洲は亞細亞の侵畧を防禦するには十分に資格有り、然れどもこれを根本的に統御し、之を壓伏し同化するは成し能はず、知らず年々幾千万の巨資を投じて、我が英國が經營せる印度の如きもいつまで之を保持し得べきかと

二十世紀の二大強國

維納のモルデン博士「アルゲマイネ、ツワイツング」誌上新世紀舞臺の大立物を擧げて米露の二國とす、米國の富源世界を壓倒すると同時に政治的位置の益す膨大ならんとするは世界の齊く認むるところ、試みに米國に關して博士の云ふところを見ん

二十世紀世界的相撲場の兩大國は露西亞と北米合衆國なり、人口の點に於て露は米に優ると雖、其人民の知識、活動の勢力等に至ては米は露を拔くこと數等、且つ其數も米は英獨の本國よりも多し、其地の利に至ては世界又此國の如き多幸なるはあらず、露獨の如く境を敵國に接せず、英の如く蕞爾たる一小島にあらず、陸上國境の防禦に心を苦むるの要無く、海上敵艦に糧道を絕たるゝの憂も無く、一朝事有るに際し廣き內地の供給は物品を殆世界に求めずして自ら衛るに綽々の餘裕あり、恰もこれ隣國を有せざる一大島國の如し、若しこれに加ふるに英國に匹敵する艦隊の設備せらるゝあらんか、渾球又此の如き怖るべき邦國はあらざるなり、而して此設備は近き將來に於て實現を見んとす。

今日の米國は歐洲大陸の如く陸軍常備の必要なし、然れども若し之を要せば露國を除ひて此國の如く强大の陸兵を得る國は他に於て無からん、商業の發達彼が如く、工業農業の進步彼が如く、富は益富、强は益强、內新世界の全部に向て卓然傑出又向はんとするの敵無し、外に向て驥足を延さずんば國民の英氣は漏らす處無からんとす、前世紀末に於て彼が久くし取り來れる政治上の閉戶主義を打破し、西米の戰端を開けるもの正しく髀肉の嘆に堪へざりし餘沫のみ、其政體の上より考へ、其國勢の上より察し來れば、將に二十世紀のナポレオンを米國に於て生ぜずんば止まざらんとす、北に加奈陀を持てる英國、南に土壤を接せる中央及び南米の諸邦、又寒心の事なりと云ふべし、領地を太平洋に持てる獨や佛や蘭や又心配の種ならずとせんや、二年前米國の英氣が加奈陀の方面に向はずして西班牙領の方面は向ひしは英國の內心歡喜に堪へざりしとこ

ろ、さはれいつまでか此儘にして畢るべき、今世紀の間に於て必ず英は之を失ひ、米は之を得るの日に到達せん。

然りと雖二十世紀に於ける世界の平和は、獨逸及び英國が米國と親善するさせざるとに依て岐る、獨逸は之に依て露國の大陸に於ける野心を喰止め得べく、英も又之に依て自國の勢力を保存し得られん、英米二國は獨逸が海外に領地を增すは之を必要とせす、然れども歐洲大陸の中心に屹然劍を握て睥睨するは最も必要とするところ、今世紀平和の立脚地と文明の光輝は英獨米三國の親善に依て確められ發揚せられんか

李鴻章曰く「サー皆來イ誰にも一口づゝ遣ろー」



CHINA AND THE POWERS.

LI HUNG CHANG: "You may all come; I have sugar for every one."—From the *Amsterdammer* (Holland).

同種同文の勢力

英杜の戰端を開くに方りて、杜國に同情を注ぎたるもの獨り歐洲大陸の諸國のみならず、米國人の感情も亦同一にて、同じく非難を英國の側に向て加へたりき、然れともこれ孤弱を憐む人情の至然に出でたるのみにして、イザ開戰となり一時英軍の鋒挫け、連戰連敗の報有るや、大陸諸國の手を拍て歡呼せるに反し、悄然として憂愁の色を生じたるは米國々民なりき、近者女皇の崩御に就て世界は多く儀式的に之を弔ふに反し、自國の大統領を失ひ統御者を無くせると同じく、心中より哀悼の意を致せる、恰も英國民の如くなりしもの亦米國民なりき、「スペクテーター誌」は此現象を述べ來て原因に就て曰く「米國民と英國民とは長へにセキスピヤアなる共通の一王の下に支配さる」と、カーライルの道破せるは實際なり此二國民は同一の言語、同一の種族、同一のバイブル、同一の思想、習慣、道德の下にあり、同じくウチルズウチルスの情熱に動かされ、同じくバイロンの心火に燒かれ、同じくスコットの華麗に醉ふ、世界一般の人は女皇の崩御に關し、其高潔の品性を讃し光輝有る長き平和の統御を謳ふのみ、米國民は獨り之を讃し之を謳ふの外、更に之を誇るの情有り、何が故ぞ、同種同文の國なるが爲のみ其統御者――王たり大統領たるの區別はあれど――を初めとし、政

治家、文學者、學者、有ゆる善良なる卓抜なる偉人は、英米二國共通の名譽たるが爲めのみ、共有の國寶なるが爲めのみ云々

海外 雜纂

南極氷中の一千哩（一）

南極冬期の初經驗、最近の南極冒險譚

白耳義の探險船ベルヂカ號一昨年の秋、從來曾て知られざる極南の地を探り、學術上幾多の新發見を齎らして還れり、此紀行は同船に乘込みし醫師フレデリツキ、エー、クツク氏の起草せるところ、氏は今回の行のみならず、千八百九十一年には北グリーンランド全九十三年には西グリーンランド等を探り、極地探檢には大に經驗有る人なり、左に其大要を摘譯す

時は千八百九十七年の八月末、南極探檢の目的を有せるベルヂカ號は、白耳義の港、アントワープを出立せり。

此企ては全國のリウテナント、ジユラシユ氏が以前よりの計畫に成しものにて、民間の義金と政府の補助にて約十二万圓を集め、二百五十噸の一船を購入し、ベルヂカ號と名け、萬般の準備は尤も簡にして而も手落ち無く作されたり、ベルヂカ號は十年前に造られたものなれども、構造堅牢、極地の波と氷と岩に對して鬪ふの資格は十分にあり、ナンセン博士の北極探檢船に比しても餘り見劣りせざるものなり、乘組の人々は

提督アデリユ、ヅ、ジユラシユ氏（白耳義人）
船長ジヨージ、ルカンツ氏（仝）
副長ロールド、アマンドセン氏（那威人）
動植物學擔任エミル、ラコビツア氏（ポーランド人）
海洋學氣象學地質學擔任ヘンリツクアークトウイスキ氏（仝）
磁石學擔任エミル、ダンコ氏（白耳義人）
船醫及人類學擔任エー、クツク氏（北米合衆國人）

水夫は悉く教育有り經驗あり且つ强壯なるものを白耳義及び那威より採擇し、其數十二人合計十九人、前記の七名は船尾の小船房を居室として、十二人の水夫は船首に居を占め、全船二個の家族となし、かくして永く寂しき南極の冬を迎へんとす。

アントワープを出で大西洋を下りて亞弗利加の西マデイラ島を過ぎ、南米リヲデジヤネーロ、モンテビデオ、マゼラン海峽の東、プンタアレナス等を經て翌年千八百九十八年の一月十三日にはステーチン島を離れて一週間後、南セツトランド島の一端を見るに至れり、此處にて船員の一人若き忠實なる那威の水夫ウエンクを暴風濤の爲に突然海底に取りさらわれぬ、これを此行第一着の苦き出來事とす、之れより永久の深霧と險惡の波浪を以て有名なるブランスフイルド海峽を切り拔け、仝月廿三日の午後にはパルマー群島の外邊を見る、更に西南に進み南太平洋に出でグラハムランドに達し、いよ〳〵氷山の大塊中に働き進まんとす。

是より西南方は從來の探檢者が未だ侵入せざりしところとす、試みに既往に於ける南極探檢隊の重なるものを擧ぐれば

一、キヤプテン、ゼームス、クツク　千七百七十四年氷結の洋中に一條の通路を發見し、初めて西經百七度南緯七十一度までを探檢せり

一、キヤプテン、ベリングシヤウセン　露國の探檢者にして千八百二十一年クツクの故路を追ひ、新たに一個の島嶼を發見し、ピータ

一島の名を與へ、其ピーター一島の東方には更に大なる陸地恐くは南極を圍繞せる大陸の一端と思はるゝものを發見し、命ずるにアレキサンダーランドの名を以てせり

一、キャプテン、ビスコー　キャプテンベリンッシャウセンの後十年、英のビスコー氏は西方太平洋より東方に進み來て、氷結線よりやゝ北方に方て同じく大陸の一部と思はるゝ陸地を發見し、グラハムランドと名け、之れに添へる島嶼大なるものをアデライド島とし、群島をビスコー群島と呼べり、（此群島の大多數は今回のベルヂカ號探檢にて存在甚だ疑はしくなり、海圖の指定せる場所には見出されざりし）

一、リウテナント、ウヰルカー　千八百三十九年合衆國南極探檢隊を代表し、紐育より兩桅船飛魚（フライングフイッシュ）號に乘じ南緯七十度まで氷中を進み、全じく陸地と覺しきものを發見せり（此陸地の如く考へられし地も、今回の探檢にて全く氷山の變化に過ぎざりしこと發見せられ當時陸地と思はれしところ今は水深一千呎を有する海洋なることを確められたり）

今回我々のベルヂカ號が氷山の間に進みしは千八百九十八年の二月十三日にして、氷の間を脫出せしは千八百九十九年の三月十四日、全く一年餘の日子を氷と鬪ひつゝ送れり。

二月十三日霧の晴間時にグラハムランドの一角を認めて水平線上氷山の並列を望みて浮游せる氷塊の間を潜り進み行く中、不幸暴風に逢ひ、氷に向て戰鬪の初陣は非常の痛手（いたで）を負ひ、其日は氷塊に封鎖せられ、提督の外は南極探檢の時期已に遲れたるを以て、更に引返へし再擧を計らんと云ふもの多かりし、翌朝風の一轉すると共に一條の血路を開き、西方に向て進航をつゞけたり、二十八日に至り更に第二の暴風雨は前回よりも一層酷き攻擊をなし、天地暗黑毫も前路を認むる能はず、船は木葉の如く飜弄せられて危險云ふべからず、寧ろ氷陸の陸に泛らしきものを求めて危難を避けん事を決定し、南方に進み氷山と氷山の間一條の通路有る邊よりつき進めり、幸にも船体の堅牢、無數の小氷塊を錐以て芥を播くが如くに除々南へ南へと進み行きぬ。

いさゝか讀者に向て南極圏内の模樣を示さん、晴天は年中全く之を見る能はず、暗澹たる天色、雪、霧、風、霙（ミゾレ）、常に來り、南方極地の方は映光の爲に明るきも、鉛の如き一種氣味惡き天色を示し、北方の天は黑暗々の大幕に鎖され、云ふべからざる寂寞の境を示す、此時明るき南方の極地に船の進むは返て氣味惡く、黑暗々の北方は常に戀はしき心地する又人情の弱點なるべし、若しそれ此境外に加ふるに此日（二十八日）の如き險惡の天候に遭逢せんか、船に觸るゝ氷塊は風濤と共に人の心をかきむしらるゝが如き音響を發し、爲に何人の談話も聞取るを得ず、語る能はず、食ふ能はず、身は秒一秒奈落に引きつけらるゝ如き心地して、其心情は形容し得べきにあらず、只一語不快（アンコンフオルタブル）の字を以て顯はすの外なきなり。

二十九日朝風は北東に變はり、氷山の間一條の航路は北方に開けずして却て南方に向て開けたり、我々は幾度か躊躇の後、意を決して南方に進み行けり、絕へず氷塊と戰ふて二晝夜の間に九十哩を進み、遂に寸歩も前進すること能はず、前進すること能はざるのみならず退くこと又能はず、三月四日我々は全く氷の圍圍に禁錮せらるゝの身となりぬ。

此邊、洋鷲Petrelsの有ると、南極特産の飛ぶこと能はざる鵝鴨Penguinの滑稽なる風姿を以て、初めて人間と云へる動物を見たる珍らしさに、船に遠慮無く一丁として見舞ひ來る外、何物をも見ず。

我々の封鎖せられたる地は正しく南緯七十一度二十一分、西經八十四度

五十五分を示し、南極圏線以内三百哩、地學上の所謂地軸を距ること一千一百哩、最も近き陸地——而も不明瞭なる——アレキサンダー島を去ること三百哩の處にあり。(以下次號)

毎年幾許の新書を出版するか

出版物の統計明白に公示せらるゝ國は歐米にて十二ヶ國に過ぎず、最近の統計を根據として調査せる結果日刊新聞雜誌其他の定期刊行物を除去して、毎年世界は約八万種の新版書冊を發行す、

日耳曼	二三、〇〇〇	佛蘭西	一一、〇〇〇
伊太利	九、五〇〇	英蘭土	七、五〇〇
墺地利匈牙利	六、八〇〇	北米合衆國	五、〇〇〇
スカンデナビヤ半島諸邦	三、二〇〇	和蘭	二、九〇〇
白耳義	二、一〇〇	瑞西	一、〇〇〇

を重なるものとし、全く不分明なる露西亞、東洋、南亞米利加の一部等を出來得る限りの精確なる推測にて總合計八万種或は其以上なるべし、日耳曼は第一等の書物産出國　去年の統計年鑑にて一年間二万三千九百零八の新書を七千二百八十八軒の書物屋にて發行せり、同國の中にてもライプチッヒは書物屋の中心なり、近年伯林の書籍發行數大に増加し、ライプチッヒと競爭の姿なるも、尚世界第一書物市の名譽はライプチッヒに在り、日耳曼の一年間書物輸出額七千万馬克(約二千五百万圓)に上る

新聞雜誌等の定期刊行物に就て佛國は千八百九十六年より昨年まで年々増加し行けり、全國の現在新聞雜誌數二千七百九十種の中、巴里の日刊新聞は百四十六、月刊雜誌四百十五、隔月のもの四百二十八、毎週のもの七百三十五あり、露國の定期刊行物は書籍の不分明なるに反して統計に顯はれ、全國九百六十七種あることを示せり、其中二百五種は芬蘭土より發行す、伊太利は六年間増減無く、北米合衆國は去年一年に於て四百三十種の定期刊行物を増加せり、(*Le Droit d' Auteur*)

世界的智囊

▲吃りは　文明人の特産、野蠻人に吃者無し

▲聾と啞　北米合衆國にては人口一万に七人の割合、全國のニグローには特に尠し

▲南米の　ブラジル、一國にて西印度人間に三百の方言有り

▲通譯者　無くして國會を開く能はざるは墺地利匈牙利なり、今國言語の混雜思ふべし

▲全國の　法令は八個の國語を以て發布せらる

▲世界の　郵便、其三分の二は英語

▲最初の　郵便局巴里にては千四百六十二年に建てられ、英國にては千五百八十一年、亞米利加にては千七百十年に始まる

▲英蘭土の　みにて千四百三十七の自轉車に關する倶樂部あり

▲維納府　の動物館には、自轉車に乘る猿猴を飼養す

▲同市の　巡査は電信伎手の能有り、ボートを漕ぎ、水泳を知るものに非れば、採用せず

▲三鞭酒　は十七世紀僧侶の手に依て始めて醸造さる

▲花の形　を紙にて作るは支那にて古くより行はれしことなるも、歐洲にては十四世紀伊太利にて初めて製造す

▲象の齒 は上下僅に八個なり、鈎齒は象の十四歳となるとき脱落し、新しきもの生ず

▲負傷の 回復期最も早きは舌なり

▲物を味 ふに一枚の舌三部に分る、先きの方は酸味鹹味を味ふに適し、中部は甘きもの苦がきものを味ひ、後部は油其他脂肪質のものを味ふ

▲ピレニ ース山脈を超へて、佛國と西班牙に通ずる道路一百餘、其中馬車の通じ得るは僅に三條

▲全山脈 の間にあるアンドラ小共和國の大統領は文明國の主長として第一の小俸給なり、一年三磅則ち三十圓の年給

▲クエベ ツクは三十六万の人口有りて六個の日刊新聞を有す、其中の四種は佛語

▲シリア のダマスカス市は印度のベナレースと同じく恐らく現存の都府中最古のものならん、其歴遠く書契以前にあり

▲ニュー ファウンドランドは世界第六番の鋼産地

▲炭鑛の 中に働ける勞働者世界を通じて百五十万人

▲金鑛地 クロンダイックは過去十年間の平均溫度零下四十度

▲既婚者 は千人に就き十八人の罪人生じ、未婚者は千人に三十八人の罪人生ず、歐洲にての統計

▲地球の 全部を通じて計算すれば每日三千組の婚禮有ることゝなる

▲金婚式 を祝し得るは千組の夫婦中、一組の割合

▲各國の 貴族、皆男性の生るゝこと少く、女性の誕生多きは不思議なる現象なり

▲佛伊葡 を除いて歐羅巴の統治者は悉く日耳曼の血統なり、墺地利、丁抹、セルビア、バルガリア、希臘、ルーマニア、西班牙に至るまで皆然り

▲歐羅巴 現今の王族中、最も背丈け高きは丁抹のプリンスと葡萄牙のクイーンなり

▲和蘭の 女皇が即位式は八月の三十一日午後六時三十分に行はる、八月の同時刻は女皇の誕生日時なればなり

▲マドリ ッドの王宮は各國王宮中の美麗第一とせらるゝもの、十八世紀伊太利の建築家に依て築造せられ、當時已に一千万圓を費し、原料は悉く白大理石天井は玻璃を用ゆ

▲寵動の セントポール寺院は九十五万圓の保險を附しあり

▲ナポレ オン、ボナパルドの爲に敵味方の費やしたる軍事費概算三十五億五千万圓

▲騎兵な 減少して砲兵を增加せるは各國皆然り現今猶騎兵の砲兵より多き國は、墺地利と土耳古と西班牙の三國あるのみ

▲クリス マスの後、十二日間の天氣は次年の十二ヶ月間の天氣を豫告すとは白人間の迷信なり、則ち同祭日の翌日が雨なれば一月に雨多く、二日目が晴天なれば同じく二月には好晴の日多しとするなり

▲金盞花 マリーゴールド は晴雨計となる、晴天には其日の三時四時頃より開花するも雨天なれば終日開かず

▲澄める 水にては太陽の光線一千五百呎の水底まで透徹す

▲噴火山 の活動現今最も劇甚たるもの南米アンデス山の東面にある一万七千百九十呎のサンゲー峰なりとす、千七百二十七年初めて噴出したるもの

▲北氷洋 の氷山は形狀不規則にして其頂上尖り、南氷洋のは頂上平

坦にして形狀一樣なり

▲激流又は急湍は悉く底の淺きものなり、現時激流中最深なるものはナイヤガラ瀑布の下流數丁、吊橋の在るところにして七百呎の水深を有す

▲龍動ブリチッシュ博物館の圖書三百万卷

▲佛蘭西が宗教上の統計を官報より刪除せるは千八百七十二年以來なり

▲バイブルの現今世界中に散布せる數二億万册に上る

▲世界の燈臺其頭なるもの丶みにて六千基に上る

▲安南のルーフと稱する金塊の古代貨幣は一個六百圓に價ひす、其價格は印度璽を以て金塊の上に記さる

▲三年前全世界機關車の走れる數十万九千個なり、其中歐洲にて六万三千個、米國にて四万、亞細亞にて三千四百、濠洲にて二千、亞弗利加にて七百

▲最古の麵麭はブリチシュ博物館にあり、佛國探檢家のアッシリアの廢址より堀り出したるもの、紀元前五百六十年頃のものならん、地中にて腐敗を免れ麵麭のミイラとなりしもの其形は英國の菓子にてバンと云へるものに似たり

▲牡蠣の一クヲート（約六合二勺）は牛乳の同分量と同一の滋養あり

▲死の一對が正當に蕃殖し、十年間死せざれば其子孫七千万疋さなる

▲蛇の木に上るは鱗の或る部分を以て擢みつゝ上るゝなり、玻璃製の柱は上る　と能はず

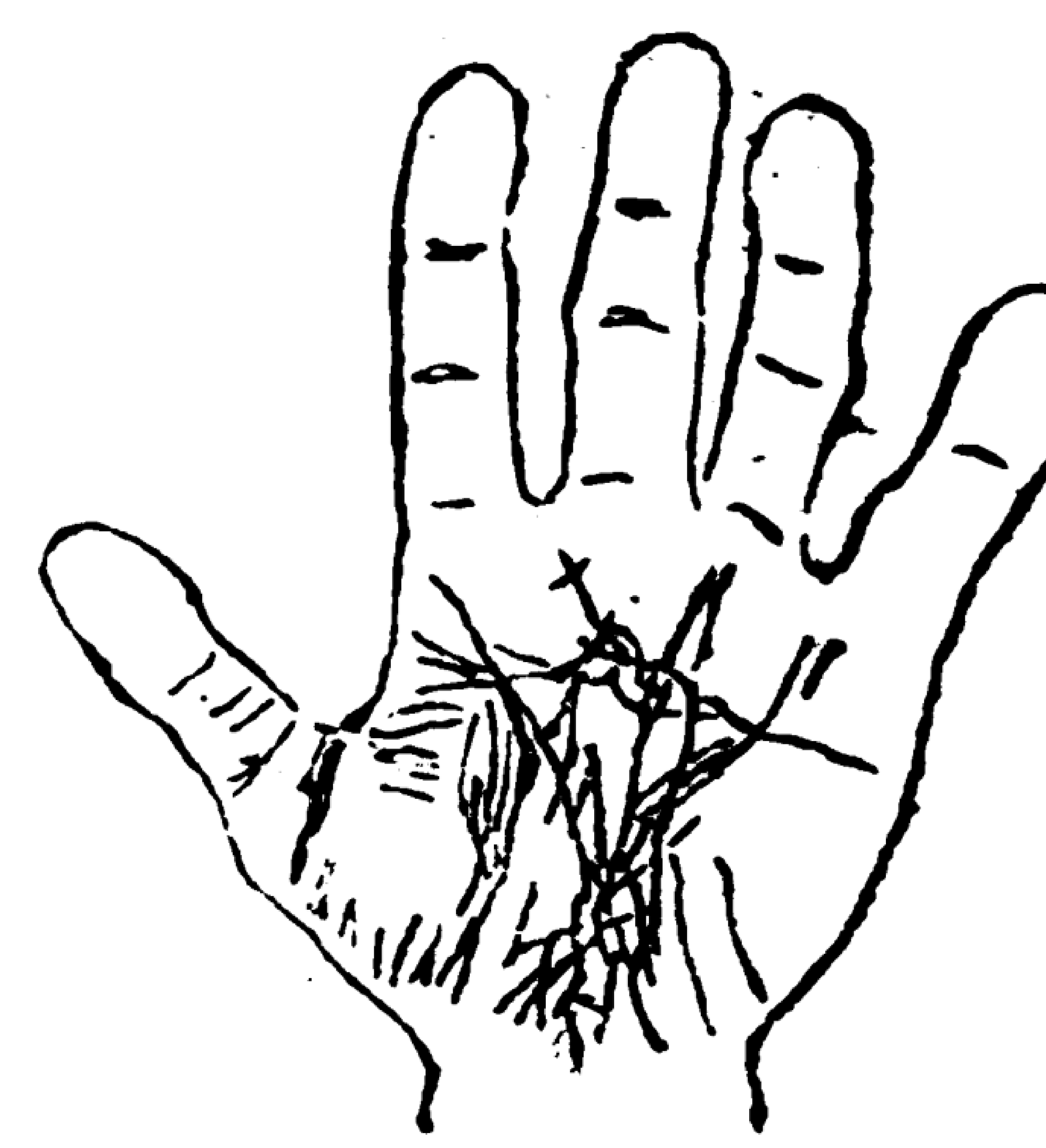
▲舞蹈の白人種間に一般行はるゝ樣なりしは古代舞蹈を以て病氣治療法の第一としたる習慣より起原す

手相學の大家

現今歐米に於ける手相學の大家を龍動ニューボンド街に居住せるケイロ氏とす、氏は手相に依て勵位を授かり、世界を漫遊し、特に印度に於て久しくこれを研究したる斯學の泰斗なり、最も人間に近き猿猴の一種チンパンジーの掌紋より、故グラッドストーン氏の掌紋に到るまで、學者、政治家、宗教家、算術家、强盜、自殺者、白痴、狂人、有ゆる人間の、掌紋を印刻して所有せり、

十餘年前、氏は米國に於て大に其伎倆を顯はし、ヤンキー連を壓倒せしめたることあり、そは紐育のウォールド新聞社が一方に氏を試み、一方には新聞賣捌の方便さして同市に有名なる紳士貴女二十人の掌紋を捺して、匿名にて氏をして鑑定せしめたることなり、若し此鑑定にして誤り無からしめば一々其説明を新聞に記載し、同時に其紳士貴女の名を出だし、且莫大の報酬をなす約束にて鑑定したるに、十九人までは悉く的中し只一個の掌紋のみ、鑑定の結果面白からず、新聞社の人間もその鑑定は誤まれるを云ひ、且つ之を公にせば大に其人を傷くることゝなるを以て、氏と交捗の上、新聞上の發表は二年間これを見合はし、其間これを秘密に附することゝせり、何故となれば此手を有する人は人を殺し、且つ二年後刑餘の人さなるべしさの斷案なればなり、二十人の紳士貴女は全市の市長ロバート、インガーソル氏を初めとし、いづれも知名の人許りにて、此不吉なる斷案を得たるはドクトルメヤーと云へる名聲壓々たる醫師なりしなり、かくして本人へも秘密にして二年間發表を見合せ居る中、果して一年八ケ月の後、即ち一千八百九十四年の六月八日ドクトル

殺人犯者メャーの手



DOES YOUR HAND RESEMBLE THIS?

WE HOPE NOT.

(It is that of Dr. Meyer, Murderer.)

メャーは一保險會社の起訴にて謀殺犯として囚はれ、五名まで被保險人をアーセニック及びストリッキチン等にて毒殺したる證據現はれ所刑されたり、此驚くべき的中はウォルード新聞社をして大々活字を以て有ゆる廣告の方法を盡して氏の伎倆を新世界に紹介するに至らしめぬ、

氏の手相學は掌紋のみならず、手指の形狀、寸法及び動かし方等に基きたる科學的斷案にして、手は意志の勢力に依て左右せられ、腦髓とは主從の關係あり、秘密なる腦髓中の傾向を顯示する第一は手なり、其人の過去を知るのみならず將來一生を通じての豫告をなし得とせるものなり、氏は曰く掌の條は假令多くの折痕を生ずるも使用に依て大體の形を變ずるが如きことなし、左右兩方共通常其性質に於て異なることなく、只異なるは左手は遺傳的性質、右手は教育、及び境遇に依て生ずる變化を顯はす、肺臟及心臟の强弱生命の長短等は掌紋中の生活の條、健康の條、命數の條等の關係的位置と手の形、爪の形等に依て研究するなりと

資產家となるの要訣

紐育の富豪ラッセルセージ(Russell Sage)氏は現今の資產二億萬圓、四拾個の鐵道會社に投資し其支配人たり重役たる人、一個人にして鐵道事業に手を延ばすこと氏の如きは世界に類なしとせらるゝ鐵道王なり、氏は本年八十一歲、初め雜貨店の一小僧にて空拳の外一文の資本無くしてかくまで一代身上を仕上げたるなり、頃日ローヤル雜誌上如何にして富を得るかと題して曰く

世人は金錢を攫手することを以て何か一の魔術の如く思へるは誤れり、富を得るの道は實に簡單なり、普通以上の智識を要するに非ず、只常識を以て誰れも考へ知れることを實行するにあるのみ、致富の要點は五個條、一に曰く正直、二に曰く節制、三に曰く忍耐、四に曰く精密、五に曰く規約の嚴守此五個條は財產と云へる家屋を建築する地盤の岩層となるもの、此岩層の上に建てられざる事業は如何なるものにても傾敗し、一旦集められたる金錢も直ちに泡の如くに消散し了らん、又此地盤の上に層一層階一階積み積んで益大となすに條件となるものは

一、自家の業務に就て嗜好を深くする事なり

二、明白なる上に冷かなる頭腦を要する事なり

三、定めたる目的に障害を顧みずして直進すること猛狗の如き性質なり

四、良妻を撰擇する事なり

正直を主とせざる商業は確かに正直を一途とするものより金を得ること早く且つ多し、然れども此主義は資產家と呼はるゝ迄に至らずして必ず失敗す、"Honesty is the best policy" なる古き格言は昔しも今も變はり無し。

商人と高等なる教育とは餘り關係無し、牧師や教師や又は狀師と異なり、時間と金錢とを多く投じて得たる高等教育は商人に取て無益の勞となること多し、余は高等教育が資產家となるに就て幾許の効能あるかを疑ふものなり、と

詞藻

春興　前田舍潤

七日得一閑。聊紓此日情。人事無窮限。且讓明朝營。
微雨曉來歇。驟暖杏花驚。孤鶯呼夢到。枝上弄紅聲。
春韮斫可膾。新釀酒滿罌。起掃花間席。一杯先自傾。

又

鉛槧亦有苦。鬢髮既纖纖。時把杯中物。快飲養神恬。
小園杏花發。喜我幽興添。暖芳吹遠座。奇鳥啼窺檐。
塵外情懷遠。居然與道兼。醉來暮鐘歇。淡月掛疎簾。

淸而腴。幽而葩。意境閑適。筆墨洒脫。吐囑自與其人相副。

感懷

天地無始終。人生同蟻蝶。蠢然何所爭。風塵正傾洞。
不如獨閉門。古道慕周孔。文章志雖存。何必學晁董。
讀書坐草堂。萬籟寂不動。黃昏月照池。寒泓湛銀汞。
富遺不足恃。如水在破桶。失之難復求。愚者徒懵懵。
笑彼朱門下。車馬何倥傯。糞土盛錦囊。鴆毒厠樂籠。
魑魅紛成群。白日猶冥曚。

滿腔感慨。觸緒紛來。悲凉沈欝。字々血性。老驥伏櫪。志在千里。然坎坷抑塞中。自見安心立命之地。不可以無病呻吟譏之也。

遊齋藤拙堂先生舊宅　市岡杉溪

訪昔鴻儒棲隱家。疎梅幾樹影橫斜。一枝欲折不堪折。總是先生遺愛花。

小俣村寓居作

朝暮林邊獨往還。物光入夏轉怡顏。紫藤臨水低於地。
綠樹圍村欝似山。心在營營衣食外。詩成矻矻簿書間。
忙中自有風流樂。一任呼迂又喚頑。

燈蛾

紛飛投火意如何。一死瞬間眞慘苛。憐汝營營唯趁熱。不知凉夜月明多。

書感

此意向誰訴。悠悠知己稀。半生如夢去。百事與心違。
愧我居牛後。嗤他假虎威。九春過一瞥。忽見落花飛。

鶴井戶觀臥龍梅

江東去訪臥龍梅。梅影深邊香雪堆。半日彷徨君莫怪。春風千里爲花來。
老幹槎枒花有神。淸香馥郁襲吟身。千枝萬朶春深淺。誰是風流三顧人。
林間只見賣花家。幾隊遊人笑語譁。樹下誰攀一枝笑。

滿身疎影寫梅花。

樹下徘徊無限情。何來鶯語和吟聲。黃昏寂寞人皆去。
我與梅花待月明。

洗煉未足。陳腐猶存。然意境曲盡。頗堪玩味。視之生吞活剝以爲古人者。不可同日而論也。

稻葉山旗亭口號　梅原龍北

樹梢突兀揷危樓。滿目蕭條落日愁。無復英雄崛然起。
青山如夢水悠悠。

金華山懷古

絕世雄材吉法師。屠他豚犬樹旌旗。忽驚三百年前事。
唯有金華山色知。

從岐阜至名古屋途中

某水某山名尙存。英雄事業與誰論。菜花一面斜陽遠。
何處猿郞生長村。

過靖國神社有感

笙歌如海頌承平。誰憶諸公殉節情。日出招魂壇上曉。
櫻花爛熳見丹誠。

登臨覽古。以寫感慨。金華山色。猿郞生長。造句皆有藍本。但換骨奪胎。使人不知其所由。招魂櫻花。取敷島和櫻歌意。自見工夫。　柳塘　批

富岡男爵八十壽詞　柳塘居士

父老攀轅借冠公。懸車已久德聲隆。鶴歸尙帶蓬瀛氣。
龍蟄仍吟洞壑風。八十康强兼福祿。九重優渥錄勳功。
有人如問平生事。只道丹誠貫始終。
十年高臥白雲鄉。邱壑托蹤名益彰。松菊繞廬陶靖節。
兒孫擁膝郭汾陽。心懸北闕無官累。壽比南山有寵光。
春色斕斑萊彩舞。滿門桃李映仙觴。
肅坐南軒拜帝都。芙蓉瑞雪映天衢。丹心嚮日傳詩句。
白髮繁霜入畫圖。已剖圭符班爵秩。屢頒醪肉自宮廚。
春風碧藻杯中酒。瀲灩恩波比鏡湖。
述職多年勳業成。急流勇退一帆輕。脩鱗已飽季鷹意。
童卒尙知司馬名。慙我青衫在塵壒。欽君白社會耆英。
欲移筆硯老雲壑。許否卜隣尋舊盟。

本田種竹曰。壽言大半易陷陳套。玆篇敘盡耿翁半生。鋪陳排批。字句活切。此所以別出一機杼。若夫以格體論之。蘇玉局遺型。較諸查愼行中年得意筆墨。蓋伯仲之間。見伊呂者非邪。

晚春書懷

課題應募、集稿三十二、選錄得十首、

（王）　齊藤致堂

芳事闌珊惜艷陽。東風冷落送殘香。槐陰日午蜂衙鬧。

柳塢春深燕壘荒。上國鶯花空歷亂。西鄰烟月定淒涼。
詩人慷慨寓微旨。老杜集中無海棠。

詞旨微隱（侯）

卉木散人

家在鳳凰城北邊。繙書弄翰自年々。一行界地樹爲障。
兩面開窓屋似船。紫亂辛夷花外雨。紅迷郁李杪頭煙。
誰知十丈軟塵底。棲着吾曹別有天。

寫景精緻（將）

加藤江村

繁華洗盡雨蕭蕭。一味參禪氣不驕。金粉零星胡蝶老。
臙脂狼藉海棠凋。文章懺綺天眞見。色相歸空罪業消。
別有風流忘未得。美人才子共魂銷。

意緒婉約（相）

西田鷗村

一瞥陽春去杳然。落花芳草兩堪憐。嫩苔滿地碧於水。
微雨半簾濛似烟。錦瑟華年李商隱。鬢絲禪榻杜樊川。
强呼杯酒難成醉。無限新愁抵杜鵑。

情致綿邈（有）

卉木散人

墳典埋頭几案邊。空添鬢雪一年々。治心長愧脫羈馬。
進境常歎上瀨船。躑躅催紅半巖雨。杜鵑啼綠滿庭煙。
家妻報道春衣就。乘化悠々且樂天。

意境淡雅（種）

鮎川徹次

幾年零落臥蒿萊。又見芳菲漸次摧。蝶粉鶯金鬧風雨。
櫻雲梨雪付塵埃。光陰荏苒催人老。世路艱難試我才。
大器晩成君勿怪。百花謝盡牡丹開。

結語奇警（平）

關青山

故園千里感飄零。兀坐無聊對酒瓶。繚亂花飛風片白。
參差柳嚲雨絲青。牡丹亭子艶歌歇。芳草池塘吟夢醒。
爲客十年人已老。杜鵑啼血不堪聽。

前聯纖巧

詩課題

◎綠陰移榻（五言絕、五月十五日締切）

◎夏夜即事（七言絕、六月十五日締切）

用箋郵便はがき、東京市谷中三崎町十八番地
町田柳塘宛投稿

落紅集

（風韻社近詠）

○　　佐藤大蛾

血に狂ふ若き女の夜もすがら墓地の櫻に笑ひつゞけぬ

うぐひすに竹の根岸を朝いでゝ谷中の墓地の椿折る哉

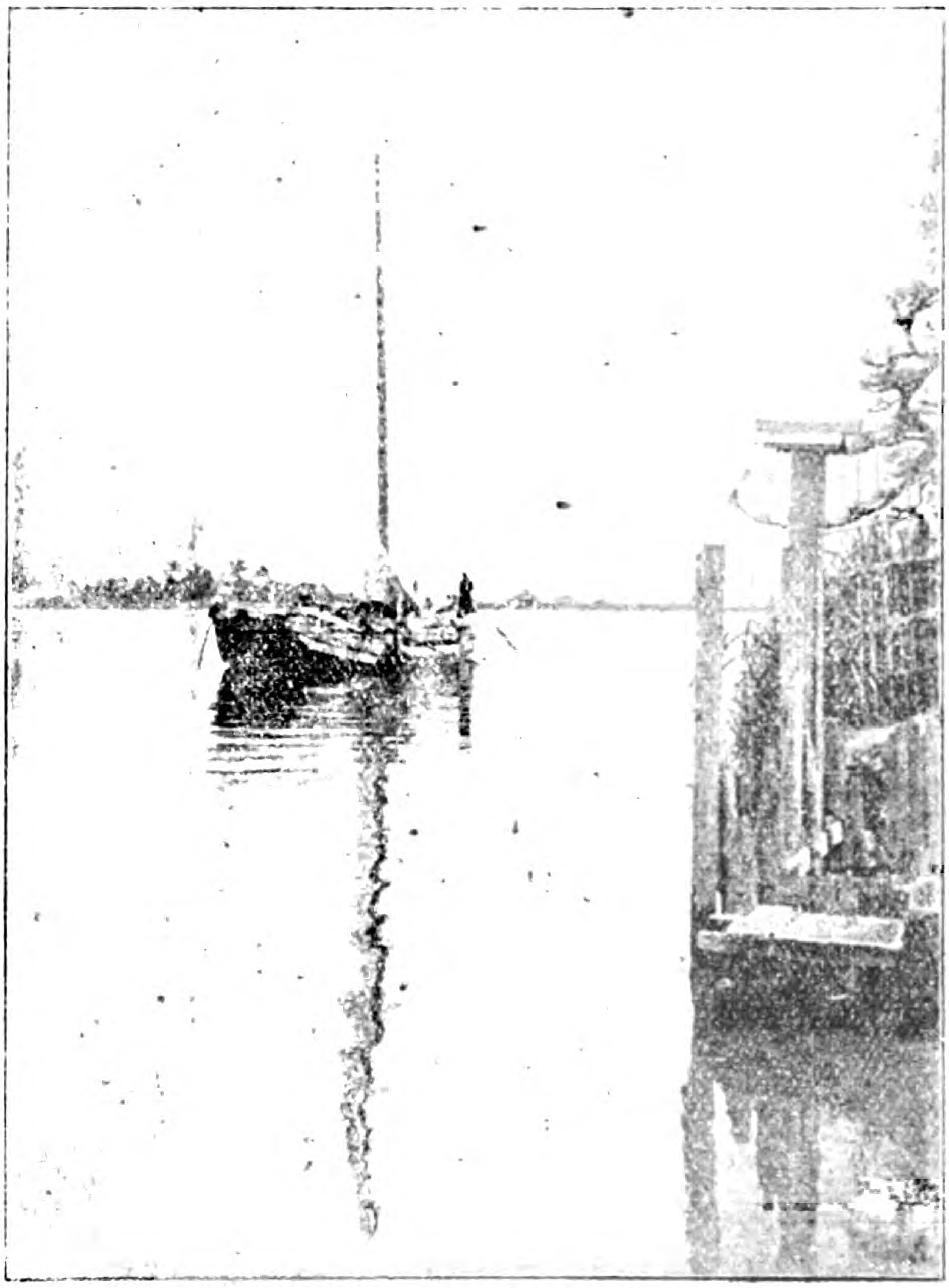
○　　門野三果

この男あはれみ給へ戀の果世をすねし果うらぶれし果

○　　今井月湖

むら千鳥なきさわぐかな沖の石に碎くる浪の泡白き所

○　　阿部溪里



修業にと諸國めぐりて飛驒の國椎のやみ路に鶯を聞く

○　　小池武俊

小鳥未だ塒に歌ふあけぼのに花びらまじり春の雨ふる

○　　登坂春峰

横鬢のつげのさし櫛落ちんとす寢くたれ髪の勝山崩し

○　　渡邊光風

緋衣の法師あまりに年わかく牡丹うえたるうらうへ心

玉蘭の花咲くかげにひぢつきて菩薩閑たり觀世音菩薩

唐獅子の香爐つめたき床の間に松のはちうゑ水仙の花

うた人の高き想ひを誦する時しら梅おちて水に浮びぬ

幹朽ちて枝まばらなる梅の花あした寂然いけほに對す

俳句

四方太選

藤

大なる片枝松や藤の花　嚴子
白藤に有明の雨そゝぎけり　天眼坊
藤挿して倒れ勝なる徳利哉　生巣
無緣寺や銀杏は枯れて藤の花　鬼水
本丸の松の木の間や藤の花　曉村
鉢植の藤やくねりて花白き　逸笑
田舍道の軍用旅舍や藤の花　霞松
行行て山道細く藤の花　蓼舟
馬車過て道のほこりや藤の花　耕村
毛氈に日あたる藤の茶店哉　紫白樓
伯樂と酒を飲みけり藤の茶屋　兵太
泉水の中に奇石や藤の花　蔦治
藤棚の外に木もなき小庭哉　快雨
牛島や五尺に餘る藤の花　柳家
崖せまる宮の後ろや藤の花　一堂
密蜂を飼ふ家や藤の花　松濱
溫泉の宿の後ろの山や藤の花　皎雪
曇る日や尋ねよりたる藤の寺　仝
白藤や池暮れかゝる水の隈　盧靜
水に映る藤見てゐるや靜心　仝
藤剪れば藤の雫や朝の雨　笠雨
片戶さす藤の茶店や晝の雨　仝
兎角して活けたる藤や萎れ勝　輪月
神木の朽ちなんとして藤の花　仝
向ひ合ふて藤咲く茶屋や藤の花　吐覓
植木屋の軒端は藤の盛哉　仝
明放つ龍神堂や藤の花　北舳
藤剪つて歸るさ花の萎れけり　仝
藤棚の下や暫く徘徊す　稻青
池あれば即ち藤や神の庭　仝
苔青き社頭に藤の落花哉　吾空

藤棚の紫あさき苔かな　仝
山鳥のおろの鏡や藤の花　洋々
藤垂れて水の深さや山の池　仝
さし出でし若木櫻や藤の花　坡酔
ふらこゝを松にかけたり藤の花　仝
藤散つて雨吹降りや池の畔　烏不關
春もはや藤のうつろふ日頃哉　仝
藤咲くや鯉は名のある小料理屋　天風
白藤や宮古くして松の風　仝
掃きよする藤の落花や夏隣　仝
白藤や仕事に參る奥の院　寒樓
一の瀧二の瀧藤のさかり哉　仝
藤活けてラムチをひさぐ小庭哉　仝
藤活けて水こぼしたる疊かな　六郎
藤切つて藤の落花や水の上　仝
池の上に低き棚して藤の花　仝
白藤の塵もとゞめず雨の後　時雨
藤咲いて多摩の水上鮎肥えぬ　仝

金魚飼ふ小池もありて藤の茶屋　仝

粽　五月十三日まで

青梅　六月十三日まで



雜録

東京府下の暗黒面（其二）

山形東根

◎東京の遊廓、則ち新吉原、洲崎、品川、新宿、千住、板橋八王子、府中及調布等に嫖遊した客の總數は、どれ程あるか、明治三十二年度に於ては、實に三百七万七千九百二十七人で、内店客は二百八十八万二千八百十七人、送客は拾九万五千百十人である、之を細別すると次表の如くなる。

	店客	送客	計
新吉原	一、二四一、六八一	一二五、九五八	一、三六七、六三九
洲崎	六三五、三二五	四一、六六九	六七六、九九四
品川	三〇八、八〇七	二三、三七四	三三二、一八二
新宿	三〇三、二九五	三、八〇二	三〇七、〇九六
千住	一六一、四五〇	三〇八	一六一、七五八
板橋	一一四、八六五	—	一一四、八六五
八王子	六六、六九二	—	六六、六九二
府中	二三、七四三	—	二三、七四三
調布	二六、九五九	—	二六、九五九
總計	二、八八二、八一七	一九五、一一〇	三、〇七七、九二七

◎東京府下の總人口は三十二年度で、本籍も寄留も合併して總計百六十九万五千七百九十八人あつた。其中より女子の數八十二万三千三百七十八人を引くと、男は八十七万二千四百二十人となる。此女の中には娼妓も入れてあるが、男子の數が八十七万餘だ、此中より子供と老人とを引ひて假りに二半して、四十万人と假定する、併し此四十万人から謹厚の學者や、宗教家や、教育家や、勉强の學生、其他色々遊客になりそうもない人間を除いて見ると、マー二十万と見てもよからう、之が三百万といふ數を示し居るから、随分恐るべきものであらう。

◎遊客の數は、右の如くて之は正確と見るべきものだ、が一人の客が幾度も行くのであるから、實際は幾人であるか夫は一寸別らん、右は其總計である、一人で十回も二十回も行けば、十人にも二十人にも現はれたのであるとを記せねばならぬ。

◎さて其遊客の、娼妓一人に對する一年の平均數が、何程であるか。之は客の總數を娼妓總數で分けて見れば直ぐに明かである、

	明治三十二年度娼妓一人に對する一年間の遊客數	仝娼妓一人に對する平均一日の遊客	明治二十八年度娼妓一人に對する一年間の遊客數
新吉原	四六九	一・二九	四九一

洲崎	三六九	一・〇一	四三六
品川	四八三	一・三二	五七九
新宿	五七五	一・五八	五九八
千住	三七四	一・〇三	三九八
板橋	五一三	一・四二	四七七

先づこんな譯で、之を二十八年度の五年前に比較すると娼妓の數の增加した割に客が殖えないから、彼等娼妓の一身に取りては客が減して居る。

昨年其筋では一度に二人以上の客を取らぬ樣にとの注意もあつたやうだが、平均すれば二人以上にはなつてをらぬ、流行ると流行らぬとの別はあるが、又正月や何かの時は非常なものである。昨年の五月十日夜の吉原の統計で見ると、一夜で少なくも娼妓は一人に五人、多きは十八人の客があつた。今年の正月でも、洲崎の總計で見ると元日が三千二百二十五人、二日が四千百五十八人、三日が三千百五十三人の客があつたから、三十三年末日の娼妓千四百八十九人に割當つれば、平均三人になつて居る。洵に殘酷な話である。

◎今、六年間の吉原の事を參考の爲め記して、全般を推すの材料として置きたい。

年別	娼妓現在數	遊客人員	遊客費消金高
二十八年	二、四二七人	一、一八六、三九五人	一、一四六、八四三・六四七
二十九年	三、六〇七	一、三六四、一五二	一、四七五、五六一・一七一
三十年	二、七三五	一、三二五、六六八	一、五三〇、〇〇六・五九七
三十一年	二、九二五	一、二四一、八五六	一、六〇九、〇八五・二二〇
三十二年	二、八九一	一、三六七、六三九	一、七二四、九八四・八一四
三十三年	二、四七	一、一五八、一八六	二、二二三、七三三・七七三

此三十三年のは、九月三十日迄の調査であるから、十二月迄を合併すれば更らに多くなるのである。自由廢業のあつた年が、斯樣なる次第で、消費金額は客の少なき割合に非常に多い。一寸百万圓違つて居る。

◎之から遊客の消費する金額に就て見やうと思ふが、此統計は其筋に屆け出たのであるから、我輩の見る所で、實際より少ないとも決して多いとはないと思ふ。世の中には實際より多く屆けるのと少なく屆けるとの別がある。假令は青物、魚市場の賣上高の如き、買つた時の金額と賣つた時の金額と同じにしたものなどもある。買入と賣上と同金額ならば生計の立ち樣がない筈だ。又牛乳の搾高等も澤山にすれば從て稅金が增すから實際よりは少なく屆ける。商人や何かの所得高等も所得稅があるから、大概は僞りが爲い。ソー正確に屆けるものぢやない。或は又實際左程所得がなくも、選擧權などを得たいといふ野心から、澤山所得あるやうに飾つて居るのもある。世の中は隨分妙なものだ。

それで妓樓で調べたものなども、正確とはドーも云へないが、大躰は先づこんなものと見る外はない。之よりも多いとさへ見れば間違はなからう。

◎東京府下の遊廓で、嫖遊する者が明治三十二年中に、三百七万七千九百二十七人あつたが、其消費額は三百六十四万四千二百五十三圓八十二錢九厘といふのである。其中、娼妓擧代金は左の通り

	娼妓所得額	貸坐敷所得額
新吉原	二七四、六四六・五四七	三七三、二一九・〇〇五
洲崎	一二六、九四七・八六五	一四六、七四七・二八五
品川	六〇、八二六・四六三	六六、八五九・五六二
新宿	四五、〇一五・一四二	五一、四六四・五七〇
千住	二九、二二六・三一五	二九、三三〇・七〇五
板橋	一六、一〇六・六七五	一六、一〇六・六七五
八王子	二二、五八六・四〇〇	一七、四〇八・三一五
府中	八、六一二・二四〇	三、六四三・〇四五
調布	三、八一三・九九五	八、二四五・九〇五
總計	五八七、七八一・六四〇	七一三、〇六一・〇六七

娼妓所得高といふのは、右で見ると所に依りて丸で反對になつて居る。其揚代金の外、客より多少貰らうこともあらうが、右で見ると、千住の如き殆んと同じで、板橋は折半して居る、府中は非常に多くゝて調布は非常に少ない、概して貸坐敷の方は多く取る。併し實際は之よりも娼妓に渡すのが少ないことを覺らば云ならぬ。假りに眞實として見ても、娼妓が六千八百七十一人(三十二年末)で、五十八万七千七百八十一圓を得るとすれば、一人平均一年間で八十五圓餘、之を一月にすれば一人七圓餘である。所が之は平均で中々一月に七圓宛必す皆が取れるといふのでない。之れで前借金に借金を重さね、迚も浮ぶ瀬がなくなるのだ。彼等醜業者が公然屆け出た所ですら平均七圓といふ金だ、此金で何が出來るか着物でも何でも皆借金ばかりになる。小店などのものは一二圓の外は得られない。之を見ても可憐なものであるとは分る、斯う云ふものを可憐と云はねば何が可憐であるか。こんな可憐なものを買ふとは氣が知れん。

◎次に酒肴代金を見やう、之は矢張遊客消費金の中で、貸坐敷と引手茶屋の外は取れない、娼妓は一厘も之からは所得もない。矢張三十二年中である。

	貸坐敷所得額	引手茶屋所得高
新吉原	九三四、七〇七・六二五	一一三、三五〇・五三五
洲崎	四五九、二三〇・三九三	六八、九〇一・七九〇
品川	二〇六、〇四七・五七五	二四、六〇六・七三四
新宿	一九六、三〇七・一四七	一、四〇〇・八八五
千住	一一八、八八七・三八〇	二八八・九七〇

板橋	五四、七八三•四四四		—
八王子	四九、九七三•六六五		—
府中	八、九五三•五二五		—
調布	一一、六四二•九二五		—
総計	二、〇四〇、五三三•六七九	九四、三二八•五二九	—

さて貸座敷では、前の揚代金と此酒肴料て、総計二百七十五万三千五百九十四圓七十四銭三厘を所得するのである。之を貸座敷総数四百九十六軒に割ると一軒平均一年間の所得は五千三百八十圓許りに爲る、勿論之は平均であつて、大店と小店とは迚も比較にならんが、先つ平均してこんなものである。引手茶屋といふのは、五ヶ所であつて、新吉原に九十四、洲崎に四十五、品川に二十二。新宿に七、千住に一軒、計百六十軒、それで、九万四千三百二十八圓得た譯である。

◎次に遊客消費額の半より、藝妓揚代金を見やう。そして合計は何程か、遊客一人の平均消費する額は何程かを見ねばならぬ。

	藝妓揚代金	合計	遊客一人平均消費金額
新吉原	五六、〇六二•〇五一円	一、七五一、九八五•七六三円	一•二八一円
洲崎	一七、一一四•九二五	八一八、九四二•二五八	一•二〇九
品川	四、一九三•三四四	三六二、五六九•六七八	一•〇九一
新宿	八、〇七五•九六九	三〇二、二六三•七一一	九八八

千住	四、〇九八•三九〇	一八一、八三一•七六〇	一•一二四
板橋	七七二•五一〇	八七、七六九•三〇四	七六四
八王子	三、〇八六•五五〇	九三、〇五四•九三〇	一•三六五
府中	八五二•八〇〇	二二、〇六一•六一〇	九二九
調布	七一•九九〇	二三、七七四•八一五	八八二
総計	九四、三二八•五二九	三、六四四、二五三•八二九	一•一八四

之で見ると、新吉原は第一て、次は洲崎、品川、新宿、千住、八王子といふ順になる。此合計といふのは、前出表を合併したのだ。

◎遊客一人の平均消費では、八王子が第一に多く、次は吉原、洲崎、千住、品川となる、平均で一人が一圓十八銭四厘といふのであるが、中々こんなものではないと思ふ。之を五年前の二十八年と比較すると、消費金額は多くなつて居る。二十八年ては左の如くであつた。

	合計	遊客一人平均消費金額
新吉原	一一四、六八四四円	〇•九六三圓
洲崎	四六、六四八六	〇•九四一
品川	二三、一九五八	〇•六九四
新宿	二三、七五五七	〇•七八一
千住	一二、二〇六〇	〇•八四四
板橋	五、〇二五〇	〇•六三八
計	二二五、五一五五	〇•八八五

されば、五年前は一圓には上らなかつたので、平均八十八錢五厘である、三十二年には一圓十八錢四厘で、三十錢進つて來て居る。又昨三十三年の吉原で、統計すれば、一人が一圓九十三錢宛消費して居る。之は近年稀なる消費方で、一寸一人で先づ二圓位づゝ消費したといふものだ。こんな所に大に消費する樣になつたのは決して宜い現象でないとは言ふまでもない。

◎次に月別にして、遊客數と消費額を見やうと思ふ。之は何月に能く遊蕩するか、四季と社會との關係やら、季節と風俗の關係やら、東京の狀態の半面は推さるゝのである。（三十二年度）

	遊客數	遊客消費金額
一月	二九二、六三九	三六五、〇七三
二月	二〇五、九五九	二五四、六五六
三月	二三一、九六四	二九五、八九八
四月	二七四、九七一	三二四、八一四
五月	二五二、五八四	二九一、六八〇
六月	三三六、六八五	二六六、一二六
七月	二四一、七四四	二五一、九一一
八月	二三三、六四七	二六七、二九〇
九月	二四九、二四〇	二九七、〇六〇
十月	二七四、三九四	三二〇、〇五〇
十一月	三一九、〇三〇	三七三、四五六
十二月	二六五、四六〇	三三六、二三六
總計	三、〇七七、九二七	三、六四四、二五三

此遊客の數は例年は一月に多いが、三十二年度は十一月が第一で一月は其次になつて居る。二月は每年とも少ない之は正月の消費が多いから倹約する結果だ。冬分は二月の外多い、寒い時に遊びに行く。之は正月の休みや、年末の休業があるからだ。氣候よりは社會的事情が多い、寒いから酒をのむ、飲むと醉ふからむら〳〵と情慾が起るといふともあるか、其飮酒も社會的から來て居る。十一月などは餘程氣候の影響もあらふと思ふ。夏分の六七八の三ヶ月は少ない。まこと暖かい時は困るとてあらう。四月は花見時で部下百万の子女が狂ふ時であるから、其影響が多い、向島の花見歸り、中の夜櫻など影響して居る。八月の少ないのは暑い際中であるから之は當然だ。

實に何れの月も二十万人以上が遊蕩して居るのだ。東京の一地方で每月此二十万人以上の男子が色に耽りて戯れて居るとは、立派な君子國だ。此輩には外交も財政も何もありやしない。又之を一日に平均すれば八千四百三十三人ある、則ち東京の夜の世界の半面を見ると、一夜の中に八千四百三十三人が娼妓といふ可憐な

ものを買つて樂しんで居るのである。之に藝妓と密賣を加へ不正な非理な淫慾を弄して居るものが先づ一夜に一万人位はあらう。之は東京の半面です。之を二十四時間に分けると一時間に三百五十二人あります。

◎前に記した如く、東京の總人口百六十万餘の內、女から老人や子供を引いて假りに四十万の少壯男子が、其遊ひそうな年配とすれば、二ヶ月に一度は行く割合だ、其から正直な謹直なものを半分として引去れば、月に一度は皆な遊びに行く割合ではないか。實に盛んなりと云ふべし。

◎東京の暗黑面は之に限らん、尙ほ澤山あるか、今は其一面だけを見たのである。斯樣な社會のヿは餘り詳かにすると誰も心地の惡るいもので、書いて居る當人も實は面白くない。唯こんな社會の表面だけ記して社會改良者の奮起を望むの趣意に過ぎないのである。餘り委細を盡すと却て惡るからうと思ふ故、之で止めておく。

◎終りに一言したいとは、一年にこんな事の爲めに、東京府下だけで、三百六十四万四千餘圓といふやうな金を費し、一ヶ月に二十万人、一夜に八千四百餘人、一時間に三百五十餘人といふやうな妙なものが在るのは、國家の爲め不祥なヿである。迚も廢娼は六ヶ敷いが、有志は其正義の聲を高めて、此無益な卑陋な事の爲めに費す金を外の方に費す樣にせねばならぬと思ふ。色食は性であつて、容易に抑制し難いけれとも、少しは我慢して勤儉の美風を養ふヿをせねは駄目である。それて是非國際の關係や、財政の困難や日本の二十世紀に於ける危險のヿなど普通に能く分る樣に國民に知らせておかねばならぬと思ふ。

◎併し總理の侯爵樣から淫奔家として名高い國であるから、中々容易には減じないでせう、困つたヿです。

露都雜觀（一）

黑海漁夫

獨露の國境

伯林より聖彼得堡まで急行列車三十六時間、一千零三十九哩、四月の十五日夜伯林を發したる予は翌朝已にケニグスブルフに着せり、此市伯林を去る三百八十七哩、曾て普魯士の首府たり、奈翁の爲に辛き目に逢はされたる以來、同國の勢力を蓄積したる中心にて、日耳曼勃興の歷史には大關係あるところ、且又哲學者韓圖の

故郷として有名なり、彼は此市に生れて此市に死し、終生外に出でず、而も世界の思想界を搖撼せり、車窓の左、遙に壯麗なるゴシック風の寺院を見るべし、彼の墓碑は此カセドラルの庭内にあり。

獨逸最北の停車場をエドクーナンと名け、露國入口の停車場をウィルバレンと云ふ、此兩停車場の間十町餘り、エドクーナンは國際悶着の起る度露獨兩帝の會見地として有名なり、ウィルバレンにて面倒なる稅吏の調べを受け、二重窓有る露西亞流の滊車に乘り代ゆ、一時間餘にしてコウノ驛と云へるに着く、此地に「一千八百十二年侵入の敵七十万生還の敵七万」との大紀念碑あり、蓋しナポレヲンがモスコーの大敗を云ふなり、恰も我元寇役の談に類せり。

これより北、荒野漠々人煙扶疎、マダ手入れざる森、岡、流れ、湖水を過ぐるのみ、飛雪紛々車窓外の寒氣實に當るべからず。

旅行劵の面倒

海外旅行劵は文明諸國にて殆んど要無し、只時に必要なるは露國に於てなり、國境に入るに先ち何れかの露國領事館に行き料金を拂ふて證明を乞はざるべからず、予は龍動の露領事館に日本領事を通じて證明を貰ひ國境の停車場にて調べを受けたり、龍動露領事より先方に通知せるものと照合し、若し通知書未着なれば其の着するまで留置を喰はさるゝなり、又露領内いづれのホテルに宿するも其都度料金を拂ふて警察の證明を要す、煩雜云はん方無し、稅關の調べも亦他の文明國の如くならず、馬鹿念の入りて客の迷惑を顧みざるもの、世界中、露國と日本の稅關を第一とすべし、吾友向城氏の如き東歐より露國に入るの時小說三冊の爲に二日間國境に滯在せしめられしことあり露國は特に出版物の檢査に注意す

露國人の容貌

渾身麥酒漬（ビールづけ）となり赤ち顏に便々たる獨逸腹（ドイツばら）を突出せる人物や、頑丈なるビスマーク面（づら）の人足や、逆立てる虎髯いかめしき皇帝（カイゼル）流の軍人は露都に入るに及んで全く一變し、長く延せる頭髮を後ろに捺で揚げ、顎の下に山羊の如き鬚をぶらさげ、深沈なる態度一見スラブの特色を見るなり、特に下等多數の階級に至ては如何にも質朴氣に、正直氣に、愚鈍氣なり、國家として世界第一陰險凶惡の此國も、個人としては世界第一の親切なる國民なりとは露西亞の眞相を道破せるものと云ふべし、一政府の下六十の國語有りと云ふ程有りて、東

歐諸國、中央亞細亞、蒙古邊より種々の人種入り込めるは、一度び聖彼得堡の街頭を散歩すれば直ちに認められ得、

馭者と新聞

馬車の客待ちせる間、歐米何れの國にても大抵の馭者は新聞を手にせり、露西亞にても絶へて見當らず、概ね馭者臺の上にコクリ／＼と居眠りせる樣、如何にも呑氣なり、蓋し彼等の目に一丁字無きが爲めにして普通教育の程度此事を以ても推し得らるべし、

平和主義と戰爭畫

一日露帝の宮殿中最も壯麗なりと稱せらるゝ「冬の宮」を拜觀す、流石は二万の賓客を饗應して猶餘りありと云へる程有り結構の雄大先づ人の膽を挫ぐに足れり、歐洲第一の華麗とせらるゝニコラス殿を初め、金殿銀殿等いづれも目を驚かさゞるはなし、歷山二世の室には全帝が凶手に倒れし當時、手にし玉ひし吸ひさしの卷煙草灰皿の上に存置せられ、其他血痕有る御衣小刀等紀念として悉く當時の儘に保存せらる、舞蹈の大廣間は近時客分として來れる暹羅皇太子の毎夜舞蹈を練習するところに供せられると案内の衞兵は云へり、特に予の注意を引きしは戰爭畫廊にして名將勇士の肖像畫の外土耳古、瑞典、佛蘭西等に對する大戰の圖なり各丈以上の大幅、いづれも名家の丹精に成れる油繪とて骨鳴り肉躍るの概あり、其一例を擧ぐればいづれの戰爭にや激戰中砲車を敵前に運ばんとするに一の溝渠あり、之に橋を架するの遑無し、忠勇なる露の兵士は自ら土砂の代用をなし各身を躍らして溝中に投じ、折り重なりて之を埋め、砲車を通過せしむ、壯烈の狀觀者をして思はず涙あらしむ、然れども見去り見來るの間予をして深く、戰爭とは如何に情け無く殘酷なる者哉との一種不快の念を起さしめぬ、後にて聞けば現皇帝平和會議の提議は歷山三世の遺志を繼ぎ玉ひしとブリヲク氏の排戰爭論に感じ玉ひしとの二源因に依るも、幼時より此畫廊を見るを厭はせ玉ひ中心より戰爭を厭はせらるもの此畫又與つて力有りと聞き大に覺るところ有り、

大津の名稱

日本を注意せる外人の知れるは横濱東京日光等の名稱なり、獨り露西亞人の知れるは大津の稱なり、特に老人も小兒も國民を擧げて之を知れり、五月大津事變の當日は毎年全國の各寺院は朝より鐘を撞き鳴らし、市民は業を休んで皇帝が大津に於て災厄を免れ玉ひし感

謝の祈禱會を開くなり、又柴比利亞の或地には大津事件紀念殿堂の建築成れりと云へり、

信書の秘密

と云ふことは到底此國にて保つこと能はず、電報信書の故意錯誤、塗抹、不配達、破毀は通常の事なり、近來我邦人の此國に在るもの公使館を經ずして直接宿處に宛つれば大抵不着なり、

雜錄の發達

露國政府が言論出版の自由を拘束するは其國柄として別に不思議にあらず、此現象は此國の新聞雜誌をして議論文に直筆する能はず、筆を婉曲にし他の事に擬らへ諷喇するの外不平を漏らす能はざらしめ、一種雜錄の文章發達せるとは當今此國の新聞雜誌を以て第一とすと云へり、此國には新聞の發行禁止罰金等の外廣告欄を置くことを禁ずる罰有り、以て其社の財政上に苦痛を受けしむるの仕掛けなり、（以下次號）

細君操縦法（計十段）

青柳有美

眼についた女房此頃鼻につき……川柳點

（序）

人形を操るには、人形を操るの術あり。細君を操つる豈に術なかるべけんや。小學に曰く『婦人伏二於人一也。故無二專制之義一。』と。可い哉言や。世の人愚かにして思ひ此處に至らず、細君は淺草『珍世界』なる佛蘭西專賣特許の自動人形の如く、操師の働きなくして、自ら動くものなりと早や呑み込みし、目尻を下げ涎を垂るゝこと三千丈なるを以て、思はざるヒヶを天下に取り、恥を萬人の前に曝すが如き、穢態至極の狀を演ずることあるに至るなり。是に於てか、細君操縦法出づ。十方世界の亭主たるもの眞人たるもの旦那たるもの、これを學得會心すること、猶ほ兵家の孫子吳子六韜三略を修め學ぶが如くにすれば、庶幾くは、危を未發に防ぎ禍を轉じて幸となし、息災延命家内繁昌たるを得んか。蓋し、細君一たび其綠髮を逆立てゝ怒り、玉顏を風船玉の如く膨らしてスチ出せば、夫の命ために縮ること當に一二年なるべく、三たび四たび怒り怒り憤り憤りて遂に十度に至れば、一家一門の煩ひとなり、彼れ睨み是れ恨み、一族を擧げて親族會議を開かざるべからざるに至るを以てなり。細君の勢力範圍や、嗚呼また大なりといひつべし。

（第一段）

世には、初心なる男もあるものにて、男子の體面を保ち勿躰振るは此處なりとの淺慕なる所存よりか、客の前としいへば威猛けだかに構へて、イヤハヤ盛んに細君をドナリつけ、九段通ひの赤馬車別當が、馬を鞭ち責むるが如く、なんのかのとコキ廻せど、既に客去りて二人水入らずの差し向ひとなり、人知れぬ内所沙汰となれば、過ぎにし昔の關羽とやらんは此くもありつらんと思はれしまでの武者振り、俄然變じて地藏すがたとなり、高く决せし眥も、又忽にしてダラリと下り、一も二もなくデレ〳〵とお目出たく「御座」り、三日をも四目をも置くに至る。此る夫は、實に憐れなるものにて、常に女房の輕侮を受け、終生浮び上るの瀬なく、一命を下すも容易に之を奉ぜず、操縦するは愚か却て操縦すべき細君のために呟き卑められ『また……うちのヤカマシ屋にも困ッたものだよ』など、白痴扱ひせらるゝ如き、氣の利かぬ憂き目看るに及ぶべし。是に至りて男の器量ために下落すること幾干なりといふを知らず。凡て女といふは怪しき性あるものにて、人を崇拜するか輕蔑するか、兩者その一を我が安宅となすに非ずんば、心何となく落ち付かず、崇拜もせず輕蔑もせずなどいふ如き中庸を得たるキワドキ心情には仲々に止まり難く、我が崇むる能はざる男は、自然これを馬鹿にする氣とはなるなり。加ふるに女性の普遍性ともいふべきは、見えを張るに力むることにて、友と共に腕を連ね街を行く時など、若し我が師匠に遇ふことありとも、その餘りに賤しき粧ひするを見れば、何知らぬ顔にて通り過ごし、一禮の挨拶の施すをすら好まぬ程のものなる故、畢竟このヴァニテヰーの心より、内所にては至りて腰の弱き亭主が人前のみにてエラそうに見せかけ、イヤに怒鳴り散らすに遇ふも、腹の虫が容易くは承知せず、ムラ〳〵と癇を起してス子騒ぐに及ぶなり。されば、萬事人まへにては、我が妻に華を持たせて、其胸のうちにやどす女性の普遍性とも見るべき虚榮心を悦び滿たすに意を盡くし、「かかァ大明神」と拜み奉らぬまでに取扱ふて見せるを良策とす。されど、これのみにては、細君殿得意の鼻をうごめかし、其勢に乘じて漸くつけあがり、亭主を尻に敷く如き淺慕なる擧動に出づべければ、人知れぬところにては一切其自由意志の發動を許さず、少しは無理非道と思ふことまでも、之れに絶對の服從をなさしめ、百事壓制的に又命令的ならざるべからず。然らば、ス子ることも少なく、我儘なることも多からず、能く夫

に畏服してこれに從順なるものとなるべし。故に

陽に揚げ陰に抑ふる事‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥

とは、是れ細君操縱法の第一義なり。

（第二段）

世間の未だ女慣れざるやからは、徒らなる空想に驅られて、夫婦水入らずの二人暮らしこそ、こよなふ樂しみ多きものなれと思し召さんも、此くの如きは、誠に其家庭をして幸福ならしめ、其妻をして從順ならしむるの道に非ず。たゞ夫のみにて別に氣がねするものなしと思へば、我儘にして淺墓なる女氣質は、玆に遠慮會釋もなく其弱點をサラケ出し、些かなることにまで面ふくらし、スネあばれ、ブン／＼と當りちらして夫を苦しめ悶かしめて、其心を腐らすこと實に尋常ならざるものあるに至るなり。されど、第三者のあるありて、其行動を看視せらるゝなりと思へば、そこは例の虚榮を愛する心深き功徳にて、流石に夫一人の時の如き自儘勝手のこともならず、有りと有らゆる心意氣を盡くして盛んに其人の手前を繕ひ、美はしく正しく見せかけんとは勵むなり。されば、自ら愼しみ守るの心も出で來て夫を煩はしなやますが如きこと、亦少きに至るべし。是に於てか、この弱點に乘じ細君を操縱するに自在ならんがため、夫婦以外の他人を、絶えず一家のうちに入れ置くの必用あるなり。殊に其第三者にして、妻と同じ女性ならば、これに氣がねすることも又一層に甚しく、隨て益々其愼しみの度を深ふすべければ、我が邦古來の習慣により、姑の常に新しき若夫婦と屋を同ふして居住する如きは、誠に以て當を得たるものといふべし。世のウスノロなる男どちのうちには、姑と嫁との交情相温かならざる間に板挾みとなりて、甚だ惱み苦むものあり、愚かにも惡魔の默示を得て以爲らく、親子の別居は是れこの懊惱より脱すべき最捷徑なりと。何ぞ知らん、其別居の曉こそ、是れ却て日夜絶えざる妻の我儘とスネあばれとによりて、ダンテが「地獄の卷」に無きまでなる層一層の懊惱に入り、昔日に數百倍する責め苦を受くるの覺悟せざるべからざるの時ならんとは。既にも云へる如く、女とはヴァニティーの心に富むものなり、否な先天性僞善者なり。されば、下女の如き我が身より數等身分卑きものゝ前にても、稍々これと競爭するの心を抱き、尙ほ且つ氣がねして愼しみを重ね、己れを良く現はし飾らんとするにアセるなり。故に、姑と同居することと能はざらんか、暫時たりとも下女を離すべからず。もし下

女だにあらば、これも召し使ひ婢の手前誠に恥しきことなりとの遠慮起り、漫りに身をヂラして夫の心を悩まし其命に反くが如きことなきに至るべし。されど、又先天性僞善者（殊に女の前に於て然り）なる細君は、其天賦の本能により、もし下女の我が家に住み込むに至らば、自ら己れを制すること甚だ篤からざるべからずして、勝手の振る舞ひに及び難きを知るを以て、成るべくは下女を雇ひ入れず夫婦二人のみの生活をなさんことを希ひ、白粉料と香水代とには些かも惜む色なき癖に、こゝを先途と怪しき經濟論を擔ぎ出しなどし、種々の口實を設けて下女の侵入を防がんとするに鋭意すべし。此る時に當りて、夫たるもの、まづ其細君の詭辯に惑はさるゝことなく、斷々乎として彼女が甘言を却け、必死の力を揮つて下女を我が家のうちに入るゝに骨折らざるべからず。然らずんば、細君のドグマ的我儘非常に増長して容易に我が命に動かず、遂に之を操縦すること甚だ難きにそれ至らん哉。故に

　下女を雇ひ入るゝか或は姑と同居する事……とは、是れ細君操縦法の第二義なり。

（第三段）

世間にありふれたる成り上りの若亭主などのうちにはたゞに下女を吾が家に入れ、又妻をして姑と共に居を同ふせしむるを好まざるのみならず、日輪の光赫灼として照り渡り居る晝の滿眞中にさへ、之を開かばパンドラの箱の如く怪しき化性のもの丶飛び出で丶世にまが罪を爲さんことを恐れてにや、四方の戸障子堅くしめ切りて、紅閨深く閉ざすとでもいはまくほりするまで、時にはカキガチにシムバリ棒といふ極印づきの馬鹿念押し、自ら一人妻を相手に屋内に立て籠り、水は愚か息の根も漏さぬまでの用心爲し、一にも女房二にも女房、それ女房よ／＼と立ち騒ぎて、成るべく我が妻を世の人に接せしめず、荒き風はさらなり長閑けき東かぜにさへ當らしめたくなしと思ふものあり。されど、此くの如きは、實に、以ての外の心得違ひといふべし。凡そ天が下に沈滞といふことほど、恐るべき害惡はなく、是れぞげに萬毒の源なんめる。いふまでもなく疾病の起る所因は、血液沈滞して完全なる循環を欠ける局部を生ずるに至れるためにして、新陳代謝の妙用は是れ實に身躰の健全をなす源なり。健全なる家庭も又凡て此くの如く、新陳代謝の行はるゝこと、甚だ盛んなるものあるをいふなり。もしこの事にして行はれざらんか、恰も流れなくして淀める水の幾干なら

ずしてダイアトムスなど、多くの劣等生物の發生を見る如く、家庭内の空氣また何となく鬱屈して、細君は些細の小事にまで腹イラ立てゝスチリ出し、亭主を惱まし苦ましむるに至るものぞ。これを譬へば煙筒なき竈の、イブリ煙りて近所其所らの者どもが眼を辛からしむるが如し。而してこの弊を救ふの道やたゞ一あり。即ち來客を歡迎することと是れなり。然りと雖ども、淺墓なる夫どものうちには、客の來訪を以て、夫婦の幸福と快樂とを阻害し、妻を煩はすことを夥しきが如きにヤタラと氣の毒がるものあれども、いりもせぬ氣苦勞とや申さん。諺に曰く『男やもめに蛆が湧く』と。されど、來客を歡迎せざる夫婦の交情には、又ボウフリの湧くものぞ。もし二六時中飽くまで顔ツキ合せ居る人々のみの寄合ひにて、新鮮なる外來者なくんば、妻の心も夫の心も絶えて新らしき時あるなく、如何ぞ辛氣臭からざるを得んや。これ猶ほ流れなき水の、自ら腐敗して臭氣の紛々鼻を衝くものあるが如し。されど客の時折り來りて見舞ふあらば、常に新しき空氣を外部より輸び入るゝを以て、妻と夫との、これに接し之に交はる間に、恰もかの氣胞内の汚濁せる靜脉血が、新鮮なる大氣に觸れて忽ち紅色の動脉血に變ずる如く、神氣全く新まり、何となくイキ〳〵することを得て、自然夫婦の交情を物珍らしからしめ、夫うろさしと思ふが如き心を妻に抱かしむることなく、又愼しみの念をも盛んに燃やさしめて、之を抑ふるに甚だ便多くなり行くものなり。故に、夫たるものは我が家屋を開放して、新鮮の空氣を流れ入らしむるが如く、又我が家庭を開放して、能く來客を歡迎し、妻をして常に新鮮の空氣に觸れて快活なるものたらしむるに力めざるべからず。また機を見て外出せしむることとの如き、往々來客を歡迎すると同一の効能あるものなり。故に

來客を歡迎する事…………

とは、是れ細君操縱法の第三義なり。

（第四段）

『圓い玉子も切り樣で四角、ものも言ひ樣で角がたつ』女とは元來仕末におへぬほど氣向き上戸の人種なれば、何の意味なきことにまでクダらなき腹を立て、泣いたり吠えたり、顔をシカメたり、七面相はおろか、變挺手な三十八相をさへ現ずる程のものなれば、夫たらんものは、何事も妻と物語るに於て、其の時と所と言葉とを撰むに注意せざるべからず。然らずんば、愚にもつかぬことまでが、これをして怒らしめスチらし

めチレらしむるの材料たるに至るなり。扨も細倒この上なきことやな。是れ蓋し妻たるものが、夫の四角四面の切り口上にて言ひかけ來るを聞くを、何ごとよりも快からず感ずるものあるがためなり。故に、宜しく『左樣然らば』の社衦着けたる如き調子にて、口を切るを愼むべきなり。殊に、細君が容易に承諾しそうにも見えず、之を語らば必ずや不平の叫びを高くし、これが實行に抗議を申出づべしと思はるゝ如きことを命令して、圓滿なる結果を收めんと欲せば、決して〳〵權威を持てるものゝ如く、傲然たる態度に於て、理屈づくめの談判を開始するの愚を學ぶべからず。又これを白晝に於てするが如きも、思はざるの最も甚しきものなり。然らば、如何なる時に於て如何にして爲すべきやといふに、こは、一家の人々皆な寢靜まりて、鼠のたゞ其處此處を驅けづり廻りてガタ〳〵する音の天井に聞こえるのみにて、孤燈漸く影暗からんする頃に至り、所謂寢物語のうちに命令にもあらず歎願にも非る如き有耶無耶の言葉を、猫撫で聲の甘ッたるき御座ッた調子に飾りハメて、それとなく語り聞かすべし。さすれば、夫が告げ給ふなる言々句々は、悉く蜂蜜或は單舍利別の如くに甘く覺えられ、身の心まで浸み渡り、夢現のうちに一も二もなく承諾するに至るものぞかし。翌る朝になりて、昨夜たゞ其言葉の甘きに釣られ、寢ボケ心地に請合ふとはなしに容易く請合ひたることの、今は仲々好ましからぬものあるに心付けど、また如何とも致し方なく、その儘これを引き受くるに至らざるを得ず。されど若し白晝四角張りたる理屈や議論にて之を頼み込み言ひ寄りたらば、よしや夫の命令にて反動し之れを拒みてスネるとのありとも、決して〳〵オトナシやかに『オイそれ』と引請くるものに非ず故に、

不承諾の傾向ありと思はるゝ如き依頼は凡て寢物語になすべき事…………

とは、是れ細君操縦法の第四義なり。

（第五段）

この段は、或は例の如く「風俗壞亂」の名の下に、內務大臣(?)の嚴命により、「中央公論」の發賣頒布を禁止せられ、記者及編輯人發行人とも、刑法上の罪人となる恐れあり。故に、須臾く之を憚りて省略し、直に第六段に入るべし。

（第六段）

夫婦といへば、既に一般人間の間柄と事變り、如何なる欠點も如何なる我儘も、互に相宥るし、夫の一言一行は、妻悉く能く之れを解し、妻の語る又行ふところは、夫たるもの一も之を疑はず、終始仲睦しくして暮しゆくを得べしと思ふものあるべけれど、是れ大なる根本的誤謬なり。夫婦といふも、つまり他人の寄合なりと知らずや。故に、夫も時には妻に對してイリもせぬお世辭を述べ、其御機嫌を取り置かざるべからざることあり、又種々の外交政略によりて、其歡心を買ふに力めざる可らざるとあり。されば、既に夫婦の間柄なる故、何事を談り如何なる密事を話し聞かせ置くも妨げなしと思ふが如きは、實に上なきの愚かなり。是に於てか赤穗の義士共が一味連判の誓約をなし、吉良家討入の相談を凝らせし時にも、この一大事は必ず〱妻たるものに漏すべからずと誓ひたるに非ずや。女は到底智慮淺薄にして、思ひ到らざるものなれば、男子の大經綸と其行動の實相とを能く了解し、これに深厚の同情を表し得らるゝものに非ず。徒らに皮層の見解を逞うして、淺墓なる猜疑と誤解とを重ぬるに過ぎざるのみ。古へよりの傑士が多く煩悶苦鬪して止むなかりしは、即ちこれがためなり。されば、我が欠點と弱所と、また誤解され易き種々の計畫とをブチまけて、その一部始終を打ち明くるが如きことあらば、これが夫たるものは、思はざる不信用を其妻に買ひ、我が力量と眞實とを容易に信ぜしむること能はずして、凡て妻は我が命の如く動かざるに至るべし。故に、何事も隱くすことなく打ち明かすといふは、夫婦隔てなくして、甚だ美はしきことの如くに思はるれど、其實却てこれ夫婦の隔てを造る基なれば、如何に妻の前なりとて、我が弱點と又我が暗黑なる計畫に屬する部面とは、これを覆ふて假に現はすことなく、常に白く塗りたて置くべし。墓は白く塗りあればこそ心持も少しは可けれ、ムキ出しに腐肉を其儘路傍にサラケ出されては、誠に以てタマつたものに非ず。如何に妻なればとて臭きものは何處までも臭きなり、マサかに麝香の馥郁たる芳香の如くには聞こえず。是に於てか、この愼しみなき夫は、忽ち妻をして猜疑の念を生じ嫉妬の焔を炎々たらしむるものあるに至り、そのスチかたとチレかたとのために、身動きならぬまでの苦みをなすに至るものぞ。然りと雖ども、又わが隱くしだてするを妻に覺らるゝ樣にては、折角の辛勞心づくしも水の泡となり、却て物議を惹き起すの種たるに至るべければ、

夫たるものは、非凡の攄梅力によりて、一見萬事を打ち明けたるが如くにし、實は打ち明けざる秘密なかるべからず。師兄島崎藤村曾て曰く『女とは之れに語るに眞實を以てせば、涕泣止む時なくして曉より日の入るに及べど、もし膳部の調はざるものあるも、尙ほ且つ切りに賞揚して、これ世界の珍なり天下の佳味なりといはゞ、歎喜恭悅自ら禁じ難く、遂に笑渦に入るが如き人種なり』と。蓋し至言といふべし。故に、世の夫たらんものは、よろしくこの消息に通ずべきなり。然らずんば、不測の災、交々夫婦の温かなる交情を襲ふものあるにそれ至らんかな。故に、

我れと事物との暗黑面を秘密にする事…………

とは、是れ細君操縦法の第六義なり。

（以下次號）

寒泥遊記

（前號航西通信の續）

藤井宣正

佛寺に佛と異教神とを合置致候事に就きては通信中黃金寺の處に卑見を一言致候が、カンディへ參り候途中、「バルロース」氏の案内記を一讀仕候に、卑見を歷史的に說明致候もの有之候故、序に抄記可仕候、氏の申され候には、西曆千七百三十九年已來、シンハレスの王統絕え、カンディの王位は、南印度「マドラ」王家の支裔なる「マラバル」人の年に歸したり、此新王は、印度敎の信者なりしが、島民の多數は佛敎信徒なりしに由り、殊に力を盡して印佛兩敎を融和せんと勉めたる結果として、今日、佛寺中に印度敎の神を合祀するに至りしものならんが、往昔より印度と此島との關係は密接にして、「タミル統の王は印度敎を奉じ、又、錫蘭に有力なりし王の數多は、大陸より后妃を迎へ、次第に印度敎に傾きしとは島內に存する右建築物の、漸次佛敎風に遠かり、印度敎式に近けるにても知らるれど、是は、寧ろ外國に屬し、其內因は佛敎の敎理中の餘りに高尙なりし所に存在するが如し、何となれば、佛敎の所說は、哲學的に過ぎ、素樸無敎育なる民庶の日常の需求に適合せず、彼等は一大無限の佛を拜まんよりは、寧ろ微力の神、乃ち疱瘡の神、虎列剌の神、さては牛馬を守る神などを拜むことを喜びしに由り、印度敎の神々は佛徒に崇拜せらるゝに至りしならんと有之候、但、圍天（ヴヰシュヌ）は、印度敎中に於ては三大神の一として尊崇せられ候に、錫蘭の佛徒が、之を守護神とし、佛弟子にして未來に成佛す可きものとするが如き「ナータ」天を自在天と混じ、且、次劫に成佛すべき彌勒大士とするが如き、及「ラクシュマナ」天は佛陀の爲めに此楞伽島を宅護するものと說くが如きは、更に一段の發展を爲したるものと認め候外無之樣に被存候、歸路に見聞仕候事を記す前に、カンディ市駐在の外敎徒の作業申述べ、佛敎徒の作業と比較仕るべく候、市內には耶蘇新敎の寺四所、舊敎の寺一所有之、每日兩回以上祈禱會を開き、熱心に布敎し、且、其寺には必ず附屬の學校あり、殊に舊敎の寺の如きは中小學合せて三個の校舍を開き居り候に、佛敎寺には之に類するもの一も無之、一日三回の佛牙殿、開扉は例の太鼓の「トントン」を以て四面を驚かすのみ、僧園に住する雲衲等は、「シー

レ」を作りて長者に供すると、自から其餘分を皆めて安寧を貪るのみ、佛寺の附近に乞食の群あり、不潔なる空氣の立ち候は、耶蘇教寺の何となく清々なるに對し、此を去りて彼に就けと不言の言にて他を勸誘するが如くに見え候は淺間敷限りと存候、歸路に同車致し候は黄衣の僧三人と、五十歳位のカンデイ、シンハレス老人と、往路にも同車致候馬來人に候、三僧の内、老僧二人は羅漢鞋を穿ち、一人は弟子僧にて徒跣に候、停車塲迄二三の男女送り來り、五十許りの老人も丁重に二老僧に挨拶致候故、何れ高僧ならんと注視致居候處、彼の弟子僧は頭陀袋（日本禪僧の首にかけ候ものと同形なるが、模樣ある更紗にて造られ候）の内より眞鍮の小舍利と、「シーレ」葉、石灰、などを取出し、舍利の中にて「シーレ」の團子を造り（深江色なり）、師の僧兩人に供し候に、二老は唇を赤くしてポク／＼咬み申候、余は日本僧侶なりと申して二老と握手致候も、彼等は僅に「ジヤパン」の語を解し候のみに候、馬來人と老人とは頻りに服部君に談話を試み居候、此老人はカンデイにては相當の地位を有するものと相見え、随分話も確かに御座候間、二老僧のことを尋ね候に、最老僧は「マルワッタ」寺の正住にて、「シダールタ」云ひ、中老は同寺の副住にて「ヒヤダシ」と申し候間、悉多（シダールダ）は釋迦佛出家前の名にして、「ヒヤダシ」は、此錫蘭へ佛教を傳弘せんと、其王子摩哂陀（マヒンダ）を送りし達磨阿育王の名なるが承知かと老人の通解辯にて二老に尋ね候處、悉多の事は存ずれど、「ヒヤダシ」の名は知らずと申し候、服部君が大學の教授を職とする由を話し候爲め、三僧も老人もきよろ／＼眼にて日本佛教のことなど問ひ掛け候か、佛學のことは彼人（余）承知なりと、飛でもなきお鉢を廻はし候、カンデイは、湖水は清澄玉の如くなれど、此地より流るゝ川は、下流に至りては赤色の水を湛へ、誠に暑苦しく感じ申候、滊車は石炭に和して木を焚き申候故、煤烟時々襲來困入候、一行カンデイの青物市塲にて、椰子の實を値切りて買ひそこれたる腹癒せに、「ポルガハウェラ」停車塲にて一顆を十錢にて求め（市塲にては一顆我二十錢位の由）、外皮を破り、其乳なるものを三人にて味ひ候が、薄甘きものにて餘り感心不致候、新嘉坡以來、此椰子樹の耕殖の盛なることは度々見及び候が、尤も上等のものは印度南部の海岸地にて、米國の南部、西印度、其他印度附近のものは幾分か下り候由、熱帶地方に在りては、此樹の栽培は多數人民を忙殺致候が、彼の貝葉樹（パルミラ）の如く、此樹も少しも用に立たぬ部分は無之、其實の外皮は棕櫚の如き纖維より成り、泰西へ輸出せられて靴拭ひ、廊下の布物（マット）等を造られ、又繩、ぶらし、帽子などをも造られ、其白仁は沸煎壓搾して油とし、實と之を圍繞する液（即ち乳）とは食料となり、中皮の堅き所は、匙、盃等に用ゐられ、又之を燃燒すれば精良なる油烟となり、酒も、酢も、砂糖も、其樹より造られ、葉は家の葺料、籠、帽子、等の材料となり、幹の堅き部分は、柱梁又は家具を造るに使用せられ候由、因幡丸も此木の纖維と實とを澤山に積み込み候が、是は皆倫敦行なりと申居り候、（救世軍が使用致し候ダミル少女赤き衣裳をひらつかせ車窓より雜誌を求めよと勸め居り候處も有之候）滊車「ヘナラトゴダ」停車塲を通過候前に、彼の老人は東南の天を指し、彼れ阿當峰（アダムガ）なりと申候、椰樹林上に夕照を受けて、夏雲の如く屹と聳え居り申候、此山は、高七千三百五十二呎あり、島中第一の靈山とせられ候が、其頂上に一凹處あり、佛教徒は之を佛陀の足跡と拜し、回教徒は「アダム」の足距、印度教徒は「シヴァ」天の足跡、耶蘇教徒の一分は之を「セント、トーマス」の足跡なりと、夫々登山禮拜致候由、多分彼等は皆自家の所信を眞とし、他を誤りと致居り候に相違無之も、たゞ高山氣清く、人の長留を許さゞる爲め、互に所信を爭ふともなきとならんが、下界のものならば、彼の凹處よりも更に價なき木片石塊にても、血を賣してまで是非

を爭ふとは、世間にはまゝあるやうに存ぜられ候、此山頂は、日出の際に、其影を山腰に映じ申候が、土人は此現象をも、山の靈なる一に數へ置候、學者の說には、其附近に濃厚なる霧を起し候爲めに、此に影を留むるものと有之候、兎も角も面白き現象故、寫眞などに撮り販賣致居り候、古倫母終點停車塲に到着仕候は六時過にて、往邊百五十哩の旅行は此に終り、電氣鐵道を假りて上陸點まで、驅け附け、歸船の上、七時過に晩餐を請求致し候は、我ながら、すう／＼しくなりしに驚入申候、

拙著佛教小史第二(一六〇—一六一)に緬甸佛傳、善見律毘婆沙等に由り、釋迦佛滅後第三世紀の央(西曆紀元前第三世紀の央)に當り、印度を一統せる達磨阿育王(即ピヤダシ王)は、王子摩哂陀を錫蘭國王、天愛帝須(チツサ)の朝に送り、新結集の經律を、巴梨語より土語に譯して佛教を宣布せしめしが、當時、帝須王が建立せる「スーパーラーマ」の高塔は、「アヌラーダプラ」市に存し、其塔下には、佛の右鎖骨を納む』と記し候が、此の「アヌラーダプラ」と申す所は、目今は錫蘭の北部、北中部州第一の市街と相成り、カンディの正北八十四哩に位し居り候が、其古蹟は今も歷然として存在候由、此市は西曆紀元前第五世紀の頃より錫蘭の首都となり、耶蘇紀元の始頃最も繁榮を極めしも、タミル人の侵入掠奪を蒙りしこと數百年にして、紀元七百六十九年に至り、島王は遂に都を他に遷し候爲め荒墟と化し候、然るに、千有餘年を經て、千八百七十二年、奉行「グレゴリー」氏之が再興に着手し、惡水を除き、飲料水池を造りなどして惡疫の根本を絕ちしより、人口は年を逐ふて增加し、州の主市となるに立至り候趣、此地の古蹟は搏塔と、僧伽藍と、浴地とに候が、搏塔は黃金寺などの塔の如く、獨乙軍帽形(大躰半球形)にて、其鉢滿座の立法躰に佛舍利又は高僧の遺骨を藏し、「チー」と呼び候方躰の上には長き錐躰の柱を立て候が法なるが、此種の塔の此市の內外に存するものは大小無數なれど、其中最も大なるものは三基有之候、其第一「ルアンヴェリ」塔は、西曆紀元前百四十年に成就し、直徑三百七十呎あれど「タミル」人の爲に破壞せられて完形を存せず、高さは僅に百五十呎あるのみ、第二「アブハヤギリヤ」塔は、紀元前八十七年に成功し、直徑三百五十七呎、高さ四百五呎、形やゝ完全なるものゝ內にては、此塔最大なれど、頂上の錐形尖頭破壞して三百三十呎の高さとなり居り候、塔の台座は石を以て疊み、廣さ八「エークル」(凡三町三反あり)塔に費やしゝ煉瓦石は、高さ十呎の塀を四百五十哩造りても餘あらんと「ユマルソン、テチント」氏は計算致し候　第三「ヂヤイタワナラマ」塔は、紀元後二百七十五年の建立にして、其大さは第二塔に同じく、又「ミリスウェチヤ」と申す塔は形は小なれど、其莊嚴の美は他に超え、目下緬甸王の投資を以て補修工事中なりと申候、但、此等は一般旅客の眼を驚かし候のみなるが、かの「スーパラマ」寶塔は、「ランカラマ」塔と共に、各彫刻を施せる三行の圓柱(この圓柱は供養塔の一種と被存候)に圍繞せられ、尊嚴華麗を極め候由、カンディの佛牙よりは由緒確然致居り候も、探檢仕候時間なく遺憾の極に御座候、僧伽藍の遺蹟たる石柱露臺(プラット、フォーム)臺石等は、市の內外到る處に有之、其中尤も廣大なるは、高さ十二呎の石柱一百行に千六百本幷び居る者に候が、是は紀元後四百年頃、「ダタガマナ」王が建立せる九層の大伽藍、黃銅宮の遺趾と申候、此外半圓形の入口を有する「皇后宮」とも申し候ものも人目を驚かし候由、浴池の數も甚だ多く、池は必ず華文を刻める石材を以て階段廻欄を設け置候が、是は潔齋の爲め、若くは僧侶の常用に信徒より寄附候者と被存候、尚此外に紀元前二百四十五年に植えられたる菩提樹あり、植附時代より今日まで、守護は嚴重にて、一日も廢せしことなく、老樹は幹の一部を存じ、其周圍には其子樹孫樹數多有之由、以上は「モーレー」氏の印度旅行案內等に由り一

寸記し丶が、余の希望は、好機を得て此等の舊蹟を探究致度さ申す事に候、尙、今一應一寸申上度はカンデイの北十八哩の地に「アルウェハラ」さ申す佛寺、一大花崗石の嵯隙中に有之、偉觀を呈し居り候由なるが、耶蘇紀元前第一世紀に、是迄國王が口傳に由りて授受せし錫蘭經文を、始めて此寺にて貝葉に寫せしめ候由を承り候、されば、釋迦陀が經律を巴梨語より錫蘭の土語に譯したりと申すは、土語に由りて說法し、又、譯文を口傳せしに過ぎざりしものと相見え申候、

明治三十四年一月七日正午船は紅海に入り、左舷の雲烟中に阿非利加の「アビシニヤ」を望みつゝ認め了る、御通信被下候折は英國ロンドン府日本公使館にて拙者宛に願度候匆々

教界の人物

咲堂隱士

（八）石川舜台氏（東本願寺執事）

東西本願寺の如き大機關を運轉せんとするは到底單純なる宗敎家道德家の能くす可き所に非ず、時に大政治家の手腕を要し時に大財政家の術策を要す、故七里恒順氏は近來有數の德者にして而も智あり學ありと稱せられたるものなり、爾れとも嘗て一度西本願寺の執行となり無能無策、何の爲す所なくして遁れて鎭西に歸れり、是の如き素より氏の人物を下降するに足らず否是の如くして始めて氏の氏たる所を見るべしと雖も亦以て日本道德の最大機關たる本願寺なるものが信仰已外に一種の腕力を要するを見る可く、否、信仰の如何に拘はらず、是の如き腕力あり智力あり、寧ろ詐力ある即ち本願寺役僧としての尤も必要なる條件なるか如し。

吾人は石川舜台氏か宗敎家として何等の價値あるを知らす、然れとも一種の運動家としては確かに非凡の腕力の認む可きを覺ゆ、其所謂白河黨なるものを煽動して渥美契緣氏を放逐し、取て自ら代るや即ち巧に正義を標榜し、陽に同派靑年學生の歡心を求め、陰に腹心の徒を使嗾して增、其勢力を樹立し、一旦巢鴨問題の起るや万朝報の一論文を攻擊し尾崎行雄氏文部大臣辭職の遠因を釀し、引て憲政内閣の破裂に乘して板垣を脅迫して問題の當事者有馬典獄を轉職せしめ、次て宗敎法案の貴族院に見はるゝや七宗の奮羅漢新羅漢を結合



して岡本柳之助等の如き宗教に何等の關係なき山師輩を利用して竹槍席旗も啻ならぬ數万の赤毛布の徒を都下に嘯集し、貴族院を輭化し、衆議院を威喝し、山縣内閣が必死の運動も空しく水泡に歸せざる能はざらしめたり、而して前問題の尚未だ鎮靜せざるに早くも佛骨奉迎の如きイカにも馬鹿らしき天下の物笑となりたる滑稽を演して已に政治問題に狂熱せる宗内の人心を轉して祭禮的茶番的たらしめ、宗教法案已來衝突し衝突しスチにスチたる西本願寺すら遙々委員を派して此道化芝居に與せざる能はざらしめ、今や又た花々しき遷坐三百年法會を擧行して同派僧侶門徒を眩目して陰に自家攻撃の鋒矛を避けんとするもの丶如し、要するに氏が二三年來の運動は實に人をして刮目せしむるものある也。

吾人は氏を大運動家なりといふ、運動家としては之を宗教已外に求むるも多く得る能はずと雖も政治家としては氏の伎倆に於て未た見る所あらず、苟も眞誠の政治家といふ、其一擧一動自ら秩序あるべし、目的あるべし、爾れども氏が運動する所を見るに秩序もなく、目的もなく、唯運動するを以て目的とするもの丶如し、五六年來氏が東本願寺執事として一宗百年の否五十年の否十年の大計として施爲したるもの果して何物ある。渥美契緣氏は財政紊亂の攻撃に堪へずして去りたるものなれども、氏が事業として六十餘間の大堂は世界有數の建築物として巍々として舊都の偉觀をなせり。而して渥美の財政紊亂を攻撃して今日の椅子を得たる石川氏は如何。各地の不動產を抵當として借りたる金は今や數百万圓已上に達せんといひ、東本願寺とも云はる丶ものが、一銀行の爲に破產の宣告を受けんとし、辛ふして今尚彌縫中なりと云へり、是の如き多額の借財を爲し所謂財政紊亂の極度に達し、而も氏が今日までに爲したるものを見るに宗教法案の否決と枯骨將來の失態の外一も見る可きものなし、氏が東本願寺の爲に圖る所、渥美に比して太だ親切ならざるものあり、其失敗も亦巨大なるにも拘はらず、氏の地位未だ危からざるもの一見太だ奇とするに堪へたりと云へども渥美は土木工事に忙はしくして青年學生を籠絡するの暇なかりしも、氏は所謂白河黨を飜弄して巧に同派青年及び進步主義者に歡を結び、一方に宗教法案、佛骨奉迎、紀念會の如き浮華にして實なき盲動を起して多數門徒の猛熱を上騰し彼等をして氏が實價如何を問ふに暇あらしむ、當時白河黨の老將村上專精氏は昨年

錦輝館の演説に於て「東本願寺の今日は俗の渥美に代ゆるに俗の石川を以てしたり」と悲憤慷慨したるも宜なりといふべし。

人は氏を大山師にして大悪黨の如く云ふものあり、然り彼は種々の事業を經畫して特に炭鑛の失敗よりして殆んど破産せんばかりになりたるか如き、衆議院議員候補を爭ひて還俗したるか如き稍、山師的也、嘗ては東本願寺の重役として圓山の酒樓に燭臺を以て同僚を傷け、刑事上の罪人となりたるが如き其行動の粗暴不穩なる如何にも宗教家とし、殊に東本願寺の總理大臣として極めて不調子の經歴を有するものなり、爾れども氏は人のいふが如き大山師にもあらず大悪黨とも思はれざる也、唯名心漫々六十歳を超て未だ嘗て消せず、飛び廻り躍ね廻り、一日も安居す可らざる一老壯士といふべし。

本願寺は一大組織なり之が總理として素より一道德家、一念佛者の能く當る可きに非ざるは勿論なりと云へども氏の如き人物が果して東本願寺今日の窮境を救ふ可きや否や吾人の大に疑ふ所なり。唯東本願寺及び一万の末寺、千數百万の門徒が此危險なる一老壯士をして其無意味なる野心を滿足せしむるに百餘万の借財を敢てして怪しまざるの宏量を感服せざる可らず。

（九）　大洲鐵然氏　（西本願寺顧問）

西本願寺の老僧中尤も英雄的成分に富むものを大洲鐵然氏とす。氏は海防僧清狂道人、月性の門生として夙に吉田松陰木戸松菊の徒と交り、義氣を以て稱せらる、嘗て僧兵隊を編成して防長の僧侶を一團として盛に力を本藩の擁護に致し、大洲三郎の名、名士の間に嘖々たりしといふ。



明治政府の改革は薩長二藩の力に依れるか如き西本願寺の改革も亦防長二洲の人士に負ふもの太だ尠からず、而して氏及び島地、赤松、香川の諸氏尤も其雄なるものにして獨り本願寺のみならず佛教全躰の爲に悉したるもの亦多大なるものあり。

明治の始、教部省の設置せらるゝや氏は擢てられて出仕となり、烏帽下垂を着けて如何にも得々たりしは今

尙目擊したるもの、談柄に上る所也、爾れども氏が佛敎の爲に万丈の氣焰を吐きたりしは全く此時に在りしが如し。當時藤田、會澤等の水戸派の排佛論を奉するもの、率ね時を得顏に跋扈し、祭政一致の旨趣を誤解して佛敎を抑へ神道を揚げ、神官禰宜が羽を生して九天に翺翔したるも各宗僧侶は一時の打擊に膽を破られ戰々兢々として殆んど安ずる所を知らず、或は神官に轉するものあり、或は還俗するものあり、其狼狽の狀人をして今尙噴飯に堪へざらしむ、氏は此間に處し、其斗の如き膽勇と一世を可せさる面貌とを以て權貴を干かし、威武を壓し堂々として佛敎の權理を主張し、大敎院の設立となり、眞宗の獨立となり少くとも佛敎をして神道と對抗して遂に今日の勢力を致さしめたる其間の斡旋經營佛敎界は深く氏を德とす可きものありといふ。

氏を道德者とし、若しくは宗敎的高僧としては石川舜台氏の如く尤も異論ある人物也、人を人とも思はす、如何なる虛言をも吐きかねまじく、如何なる亂行をも敢てすまじき風あり、爾れども意氣を以て人に許し千金を一擲して惜しまざる稜々俠氣に至ては今世稀に逢ふ所にして氏か幾万の負債は率ね其門下の爲に費したる所なりといふは實なるが如し。氏今や年齒七十餘を過ぎ、加ふるに年來の肺疾頗る重患なりといふ吾人は氏が今後の敎界に必要なりや否やを知らず、爾れども敎界の歷史的恩人として一日も永く健在ならんことを希望せざる能はず。

泣上戸にあらず

哄堂隱士

と題して内村鑑三氏は予の「敎界人物」中、氏に關する批評に答へて左の如き言あり。

哄堂隱士とは如何なる明僧逹識かは知れませんが其人は確かにまだ私の家に來たとのない人であります、勿論私も人間でありまするから泣きも致しますれば笑も致しまする、然し私が泣上戸であるさは虛僞の又天邊であります。隱士は未だ私の一番好きな雜誌は米國紐育で出版せらるゝ「ライフ」とて彼國第一のポンチ雜誌であるとを知りません、彼は亦私の机の上を離れない書は聖書の外にオルツオスの詩集であることを知りません、爾してオルツオスの詩を嗜む人で泣上戸のありやう筈はありません、亦隱士は私が私の友人中で諧謔家を以て許されて居ることも知りません、若し隱士なり誰なりが私の家に來られて私共一家が師も弟子も下婢も主婦も同一の膳臺で食事を爲る時の狀態を見られたならば決して斯んな馬鹿な批評を書かれまいさ思ひます、近頃或る地方の友人が一日私の家に留まられて後、故鄕に歸て禮狀を遣されましたが其内に左の一節がありました

拜啓、此程は久し振りにて拜眉の榮を得且御馳走に相成り難有奉謝候先生の人生觀が何時も悲的なるに引換へ先生の家庭の快談沸騰し横隔膜以下の笑を以て充たさるゝは最も愉快を感ずる處に有之候云々

其他私の家に宿泊た人は誰でもその佛法の寺院のやうな笑のない處でない事丈は知つて居られるであらうと思ひます、

然り予は未だ氏の家を訪ふたるものに非ず、唯氏が言論文章に依て聊か所感を記したるのみ、「諧謔家」たる氏に對して泣上戸などといふ「馬鹿なる批評」を試み氏が腹立の段察するに餘りあり併しコンナことを氣にして怒る樣では泣上戸に非ざるやも知らざれども却て是れ怒り上戸にあらざるか、　妄言々々



思潮

國家貯蓄論

「太陽」　壽田壽一氏

世人の所謂儉勤貯蓄論は多く國民各個に向つて之を説くもの丶如くにして、未だ曾て國家自ら貯畜の必要を説くものあるを見ざるは、聊か遺憾の嫌なき能はざるなり。

惟ふに今日我國民が所謂奢侈の弊風に陷れるは事實疑ふべからずと雖も、然らば國家自らは果して能く貯蓄の趣旨に適ひ、勤儉の政策を取りつゝあるや否や、公平に斷定を下せば全く之か反證を發見するに憚らず。

彼の歳計豫算の膨脹、不生產的事業の增進、租税の增加、負債の遞進之を證して餘りあるにあらずや。斯の如く國家自ら浪費濫用に陷りながら、國民に向つて勤儉貯蓄を勸誘するも、事實に於て容易に行はれ難きのみならず、國民に多少の貯蓄心ありと假定するも國家の浪費の爲めに水泡に歸し殆んど何等の結果を見ること能はざるに終るや必せり。是れ國家の消費力たる、國民各自の消費力に比して強大なること、決して同日の論にあらざるを以てなり。現に政府事業就中不生產的事業の擴張に伴ひ、巨額の經費を要するも、國民の出税力、甚しきは國家の起債力之に投合すること能はざるを以て、彼の民間經濟の血液供給の機關とも見るべき中央銀行より巨額なる資金の借入を爲し、僅かに今日を經過しつゝあるにあらずや。之が爲めに民間生產事業用資金供給の途は杜絶せられ愈々缺乏を告ぐ。極言すれば政府事業の爲めに、民間の經濟は大なる妨害を

受け、財政の爲めに經濟を破られつゝあり。蓋し制限外兌換券なるものは、經濟界非常の場合に發行すべきものにして、平常之が發行を見るは、其宜しきを得たるものにあらざるを理由として、三千五百萬圓を既定の保證準備額に增加したるにあらずや。然るに其增加法案の成立したる今日に於て、尙ほ且つ制限外發行の消滅せざるのみならず、依然として存續するは、果して何の爲ぞや。

と、以下(取引所條例の法律上投機心の勃興を促がす害、貯蓄銀行の弊、軍事敎育過度の害、生產者を苦めて財源を涸らす惡税の害等を述へて斷案に曰く)

之を要するに今日世上に流布する勤儉貯蓄論に全然贊成の意を表すと雖も、國民に向つて之を說くと同時に、國家自ら躬行し好範例を示すにあらざれば、其全きを得たるものにあらざるのみならず、決して其目的を達し難からむことを恐るゝなり。而して國民の消費力を抑制せむとするも、實際行はれ難きのみならず、徒に消費力の抑制を力むるは、國民の有形的幸福を增進する所以にあらざるを以て、寧ろ消費の抑制に偏せむより、國民の生產力を增加するの方向に重きを置くを要す。斯の大目的を達せむと欲せば、國政の方針を生產の奬勵に置き、先づ生產に有害なる制度法令を除却し、出來得べくんば生產者の負擔を輕減し、經濟的敎育に重きを置き、百方生產增殖の途を講ぜざるべからず。若し生產の增殖に望むべからずとせば國家自ら不生產の消費及び企業を斷念するにありと信ず。

靑年は如何なる敎師を望むか

「兒童研究」　高島平三郎氏

國氏が府下一中學五年生四十三名に、「各自が敎育を受くる人として最も望ましきこと及び望ましからぬことを忌憚なく記せ。但し各自多年の經驗よりその理想せる所を記すべく決して現在の非議に涉る可らず」との注文にて、答案最も多かりしは

望ましき敎育者

一、威ありて猛からざるもの
一、生徒を愛して隔て心を置かざるもの
一、宏量なるもの
一、品性高尙なるもの
一、公平にして規律正しきもの
一、敎授法に達し懇切に敎授し言語明晰好みて質問を受くる者
一、學識豐富なるもの

望ましからざる敎育者

一、生徒に諂ひその歡心を得んとするもの
一、質問を厭ひ若しくは之に對して不親切なるもの
一、學力不充分にして質問に答ふる事能はずごまかしをいふもの
一、偏頗不公平なるもの
一、敎授法に不熟練なるもの
一、妄りに授業を進むるもの
一、授業要領を得ざるもの

國民の健康と軀格

「警世」　岡部次郎氏

一國民としての資格を全備せんと欲せば、少くとも、左の五要素を備へざるべからず、曰く國民の體力なり、曰く國民の財力なり、曰く國民の智力なり、曰く國民の武力なり、曰く國民の道義力なり、此五のものは層々相倚り相接して、以て其偉觀を完ふする五重塔の如し、塔に基層あ

ろが如く、國民の資格に於ても、要素中の要素として、他四要素の基礎とも稱すべきものは、國民の軆力なりとす、我國民は佛教を信じて肉食を禁じ、坐禮に依て足部の發達を妨げ、階級的制度の爲めに婚姻の區域を縮少し、其他幾多の原因に支配せられて、國民の軆格上に最も忌はしき結果を生じ、軀狀短少風采揚らず、軆格に於ては世界中最も劣等に位し、マレー人種と伯仲し、僅にエスキモー人種の右に出るを得るのみ、慨歎の至りならずや。

然れども、我國民の健康に至ては統計の示す所に依り、實見に徵するも世界に於て、决して下位に列すべきものにあらず　優に英佛普伊の諸國民を凌ぎ、將に米獨兩國民に比肩せんとするものなり、蓋し軆格と健康とは自ら別ものにして、軀幹長大、容貌偉魁の國民必ずしも健康の國民なりと云ふこと能はざるなり、善く此健康を維持し、軆格を改良して、以て軆力の完全を期し、財力智力武力道義力をして、併進せしむるを得ば我國民の前途や、多望にして、悠々春の如きものありと云ふべし。

奢侈費三億圓

「社會」　岡　百　世　氏

「經濟救濟策の社會的方面」と題して

國民平均一人の貯蓄は纔かに壹圓、若かも頻年奢侈品の輸入は增進しつゝあり三十三年度の貿易品に就て之を見るに縮緬吳呂、羅紗、フラチル、其他白赤砂糖、懷中時計、等八種の奢侈品は一月以降十一月迄の間に於て五千三十五萬百二圓の輸入あり、之を三十二年度同期間の輸入に比するに實に二千一百萬圓の增加なり奢侈的飮食物に就て之を見んか、例へば麥酒の釀造高最近數年間に於て每年の增加割合約一割五分なりと、奢侈の風日に月に盛んなる知るべきなり。日本國民が酒、烟草、茶等奢侈的飮食物に費やす所、一年少なくも二億餘萬を以てすべし、而して國民が放蕩遊樂の爲めに散する所は中央に於て二億五六千萬、地方に於て一億圓、合はせて三億餘の浪費あり。豈に驚くべきの現象ならずや。



試みに米國昨年の貿易と我國とを比較せん米國は輸出十四億七千七百萬弗輸入八億二千九百弗即ち輸出超過實に六億四千八百萬弗我邦貨に積もりて十二億九千萬圓なり。素より其國の大なるが爲めの致す處と雖とも實に富の增大しつゝあるを見るべし。翻つて我邦は如何、頻年輸入超過の逆勢を來し、客年の如き八千萬圓の額に至れり、即ち日本の國民は年々八千萬圓内外の正貨を消亡しつゝあるものなり。

皇室の藩屛なる語を廢すべし

「教育實驗界」　記　者

世代は玆に改まりてその所謂第廿世紀に入りたる今日も、猶は舊套を襲ひ華族の一階級を指して屢々『皇室の藩屛』といふものあり。知らず此の語果して何をか意味する。藩屛とは畏こくも　皇室と士族平民との間に立ちて屛障となるの義か、果たして然らは國家の不祥之れより大なるはなし。將た又外國に對して　皇室を防護し奉るの意か、一旦緩急ある時粉骨して義勇公に奉じ水火なほ辭せざるは五千萬衆同心一軆なり、何

ぞ必ずしも之を國民の特種なる一階級に俟たんや。吾れ兒童の問ひに逢ふて之が爲めに左思右辨するも未だ明解を得ざるなり。之れ到底無意義の語或は却て之あるが爲めに誤解を招ぎ貴族輩の謬想を養ふと共に一般國民の欽仰心を減ずることあらん。事に益なきなり速かに廢するに若かず。

我國希臘敎の現況

「倫理界」　ニコライ氏

「倫理界」記者希臘敎主敎ニコライ氏を訪ひし其訪問錄中の一節なり

昨年八月二十三日の調で、信徒の數は二万五千六百九十八人、敎會が二百九十七個、會堂が百七十三棟、神品（主敎、司祭補祭等の總名）が三十六人、傳敎に務むる役者が百六十二人、昨年度の新領洗者が一千百十八人、日本敎會の自らせし供給費決算額が一千八百五十五圓九十八錢全上供給法外の費額が七千七百六十六圓五十二錢、合計九千六百二十二圓五十錢である。そうして每年信徒の殖へる數は約一千人位だといふことである。其れから一年間の總經費は幾何であるかといふことを尋ねた、ニコライ主敎は、『其れは隨分澤山かゝりますが、今一々記臆致しませんから、一寸待て下さい、報告書を御覽に入れます』とて露文の昨年度の統計表を取り出し、一々夫れを讀み、數字を示して懇切に示された。曰く、直接に傳道の爲めに費す金は四万九千九百二十一圓十六錢であります。此外に學校の費すものと印刷の爲めに費すものとまだその外に雜費がある。學校の種類は、神學校と、傳道學校と、女學校との三つありまして、此の三の學校の爲めに、一万九千五十五圓四十四錢かゝつて居ります。それから印刷物の爲めに、七千五百二十三圓三十七錢つかつて居る。それから又是れだけの大きな建物を持つて居ると色々雜作修覆をしなければならぬ、又校舍などの雜作もいる、又地稅宅地稅などもいる、此等を皆合はすと、一万五千五百七十五圓六十二錢かゝる、それに又祈禱の爲めの雜費があり、學校の爲めに書物なども購入する費用がある、此等が合はせて一千四百六十四圓四十七錢かゝります。それから京都の方に一つ大きな會堂を作つてゐますが、夫れに四千圓餘つかつてゐる。一年の間に皆合せて、八万八千七百四十七圓五十六錢となります。之れだけが昨年一ヶ年の總經費であつて、之はロシアの敎會から參つてゐます。だが是れは少しも政府には關係がありません。皆人々の心から神に獻ずるのです。其れを敎會の役所で集めて送つてよこすのであります。其の獻じた人の名前は知れてゐるのもあるし、又何人か知れないのもあります。



我國基督敎の現在勢力

東京每週新誌　田川大吉郎氏

自由黨の興りしより幾んど三十年、改進派は正に二十年、我基督敎は三十五六年、年數稍相若けりと謂ふべし

政友會（即ち自由派）の會員は、渡邊子の其創立會上に、既に一百萬に上

りしと言へるは、誇大に過ぐ。精細は知る所に非ざるも、多く見積りて約二十萬前後ならん、或は其以下ならん、進歩派の會員は、其半數あるかあらざるかの邊なるべく、内輪に見積らば、精々六七萬の間ならん、此故に日本赤十字社が、約五十萬の會員を有するは、明治年間、綺羅星の如き各種の團體中に、先づ一等地特別の發達を遂げたる者なりと傳へらる。

ルーミス氏曰く、我基督教會には、四百四十三の教會あり、四萬二千四百五十一人の教會員ありと、然も只是新教諸派の數のみ、若し舊教二派(天主教希臘教)約八萬人を合すれば、更に堂々十二萬の多きに達すへしと、果して然らば、是豈我明治年間の結合體中に、居然優秀拔群の地歩を占むる者にあらずや。

而して別に年々增加し行く三千百三十九人の受洗者あり、一日の平均猶八十五六名の多きに上る、現在發達の力も、にぶしと謂ふべからざるなり。

言文一致と印度留學生

「兒童研究」記者

我が國は、東洋の先進國である。支那朝鮮の如き同人種同文の隣國は、勿論、印度「さいあむ」の如き同州の國々をも誘導して文明にすゝましめ、一は以て人道のためにし、一は以て西力東漸の鋭鋒を挫かねばならぬ。ところで、彼等を導くには、彼等の多くを、我が國に招致し、我が國語に依りて、斬新の知識を得しめねはならぬ。然るに、我が國語は、外人に取りては、學習上非常の困難ある上に、折角國語を學んでも、邦人の著書は解せぬといふ大不便大困難がある。現に、印度から來て居る學生などは、之には非常に閉口して居るといふことである。且つ又彼等がいふには、日本の國語が、も少し容易に學ばれ、且つ著書を讀むことも出來るなら、我が國の青年は、大擧して日本に留學するを躊躇しないとの事である。世界の舊國を指導してやることが出來る丈けの進歩をしながら、言文不一致や、不便な漢字のために、充分な目的を遂げることの出來ぬのは、實に殘念ではないか。



評論

教育時評

鵬山

海外留學生

此頃文部省派遣の海外留學生に就て兩様の不平がある。學生の方からは、文部省が支度金も碌々與へず、出立の時から借金をしてやふ〳〵指定地に着けば、毎月の手宛では參考書一冊買ふこととの出來ぬ樣に切りつめられッシて、歸朝後は十年も義務教員をやらせらるゝとは陸海軍の留學生に比べて不權衡甚だしく餘り酷なりと云ふことと。文部省の側からは留學生が出願當時の誓書に違背せる行爲をなし、或は半途歸朝轉學等を願ひ出る不都合の者が多ひと云ふことと。一往聞けば双方共に理窟のある樣なれど、我々はどーも留學生諸君の方に同情を寄することが出來ぬ。今の文部留學生の殆んど總ては獨逸に行くのであるが、同國にては毎月百五十金の手宛には決して不平を漏らす程少きものではない。成程陸海軍の派遣生に比べては少ひに相違はないが、それとは元來の性質が違ふ。獨逸本國の大學生は大概一ヶ月我國の八十圓までゝ濟ませる、我留學生の嚢中彼等に較べて重き結果、その風儀は隨分亂暴で、國光宣揚など云ふ好辭柄の下に金錢を撒き散らし、フリードリッヒ街の夜景に現をぬかせる墮落留學生は日に増し多くなるのである。今度文部省が留學生規程を制定したるは尤もの事と思ふ。只その監督を其地の領事館員や公使館員に托したるは、放蕩親爺が道樂息子を監督する樣で餘り効能があるとは思はれない。

我國の小學兒童と歐米の小學兒童

小兒と云へば黒奴(ニグロー)の小兒でも可愛きもの、况して同じ目色で同じ血統の小國民、我々が見る度、浮世の苦痛を忘るゝ心地するも無理はない。併し殘念なることはドー最負目に見ても、我國の小學兒童は歐米のそれに比して活潑の度が違ふ、無邪氣の度が違ふ、特に女生徒に著るしき相違がある。則ち人に恐れ、はにかみ、言ひ度きことをえ言はず、多く泣き、早く小供らしき特質を失ふ。

一度上野飛鳥山にて小學生徒の運動會なるものを見て

も、一般生徒に活潑の程度が足らぬ心地すると同時に、女生徒特に高等小學の女生徒の如きは情け無き有樣で、僅か十二三歳にて、はや衣服を氣にする、步き方を氣にする、背を枉げ頭を俛れ、衆人の環視を恐れて唱歌すら高聲に歌ひきらぬ。これを英米の小女が十五六歳までは裳を高くして輕快なる服裝、活潑に無邪氣に能く遊び能く語り。所謂天眞爛熳なるに較べて誠に恥かしき心地がする。これ素より家庭躾け方の罪である。日本女子服裝の罪である、一般社會悪習慣の罪である、併し教育者も又一半の責任があると思ふ、何とか今少し女生徒の教へ方に注意をして貰ひたい、

學校か病院か

東京大學千七百八十六人、京都大學八十九人の中、半數は全く左右共に近視で、其他遠視、亂視、右眼正視、左眼正視、數へ立つれば眼の健全なるは皆無と云てよいとの事、これは唯眼計りに就ての調べ、脚には脚氣腹には胃腸病胸には肺病頭に腦病等特に學生に多き病氣を擧げ來れば、學校か病院か分らぬ程であろー、是では我が大學生が卒業して後、腦力の發達に餘裕が無ひのも怪むに足らぬ、デモリン氏が英佛の學生を較べて佛蘭西の運命を悲んだと同一の憾みは益す我邦の學生に就て起るのである。

教育者の會合

「日本人は皆代言人なり」とは北米の太平洋沿岸で米國人の常に云ふ言葉で、日本人程理窟計り多くて實行の手間取る人種は世界に類が無いのである。其日本人中でも教育者の會合は又格別に理窟が多い。僅か數分間で濟む分り切た事をダラリ／＼と引き延ばし、愚論の鉢合せ、冗辯の競爭、如何に根氣强きものでも傍聽に堪へ切れない。かゝる人達に感化せられ養成せらるる將來の國民又思ふべしである。第三回全國聯合教育會を拜聽して特に此感を深くした。

喜ばしき現象

宗教の必要を自覺せる教育者が漸々に增加し行き、文部省の如きも從來宗教家設立の學校を繼子扱ひにしたる偏狹なる方針を一變したる傾きがある。近時何よりも喜ばしき現象である。

女子學校に試驗の全廢を勸む

昨年文部省が各女學校に令して、平素便宜に調査し一時に全科目を試驗することを廢した。其結果却て一時的の試驗を永久的に引き延ばした樣で、生徒はいつもビク〳〵モノとなり、教育上種々なる弊害を增す樣になつた。ドーしても女子學校の試驗はこれを全廢するを最も教育上有効なりと思ふ。

●ちりづか（三月二十日から四月十九日まで）

●外國留學生規定　文部省にて留學生の不品行中途歸朝等を取締る爲め、四月八日を以て其細則を發布した。

●不良青年の取締　婦女幼者に暴行侮辱を加へ、風俗を壞亂する青年を取締る爲め、文部省は訓令を出し、各府縣の知事へも學校設立者へそれ〳〵傳令すべき樣命した。時節柄必要の事と思はれる。

●第三回聯合教育會　四月十五十六の兩日帝國教育會に開會委細は彙報欄に、又第四回は明年大阪にて開くに决した。

●大日本婦人聯合會　鳩山、濱田、潮田、山脇、三輪田、下田の諸女史は婦女新聞を以て同會の機關とし、その主張抱負を發表するそうである。

●東京市授業料問題　永々すつたもんだの悶着中であつた同事件は四月十五日文部省は「尋常小學校の授業料は小學校令規定を越ゆるを許さず即ち二十錢以内を徵收するを得高等小學校は一圓以内を徵收するを得但し實施期間を三ヶ年とす」と指令して一段落を告げた。

●名譽教授　濱尾新、渡邊洪基の二氏は四月廿日帝國大學令第十三條に依り名譽教授の名稱を授けられた。

●宇田淵氏　維新功臣の一人にて歌壇の名將たる同氏は四月十七日七十五歲を以て逝去された、惜むべきことの極みである。

●大學競漕　四月十三日例年の通り開かれ、優勝旗は再び醫科のものとなつた。

●アイヌ現狀幻燈會　松平德川細川鍋島の二伯二侯の發起で四月十三日夜華族會館に開かれ、坪井博士の詳細なる說明があつた。

●南京同文書院　各府縣より募集の公費生三十三人私費生廿六人上海へ出發した。

●臺灣教育會　と云ふものを同地贊事官長石塚榮造氏を會長として組織された。これが新領土に於ける教育會なるものゝ初めてである。

政界漫言

滿州に對する露國の外交

城陽政客

北淸事變起りし以來露國の外交は一として成功せざりき、撤兵問題の失敗はラムスドルフ伯初舞臺の外交として列國の輕蔑する處となりき、單獨談判の開始は列國の激烈なる反抗を受け、遂に露淸密約を撤回するに至れり、此外幾多小問題に於て露國は常に失敗を以て終れりやの感なくんば非らざる也、露國の對淸外交果して失敗に終りたる乎、露國の滿州に對する外交や果して不成功に歸す可き乎。

つらつら露國の歴史を觀察するに、變幻出沒虛々實々失敗したるが如く、成功したるが如く、機敏なるが如く、遲鈍なるが如し、大なる失敗の裡に大なる成功あり大なる成功の裡に大なる失敗あり、洋々平穩の海洋に急激奔騰する暗流あるが如く、其如何なる點に向ひ奔流しつゝあるかを知る能はず、世人は撤兵問題の失敗に歸したるを笑はん、而も知らずや彼のコロストウッチ對僧祺密的の締結せられたるは實に、此機に乘じて協定せられたるを、關東總督アレツキセーフは隱約の裡撤兵事件を應用して巧妙なる外交手段を揮へり、世人の冷笑しつゝある際に當り露は既に滿州奄有の條約を締結したりし也、撤兵問題は失敗に歸したり、而も露は此失敗の裡大なる成功を遂げつゝありき。

密約は暴露して公約となれり、外相ラムスドルフは駐露清國公使楊儒との間に所謂滿州條約なるものを締結せり、玆に於て英米日の各國は堂々外交上の措置を採り、露清條約を破棄せしめんとを欲せり、米は單獨談判の平和克復に障害ある理由を以て、英は支那保全主義を押立て、日本は强硬なる警告を以て、熾んに露を戒飾し、清を威壓し、以て條約不成立を希望するに至れり、四月十日露國は公文書を發し、列國に向ひ露清條約を撤回し、再びかゝる手段を採らざる可きを宣言したり、玆に於て世人は歡天喜地日本の外交を賞賛し、露國外交の案外なるを冷笑するに至れり、滿州問題果して終局と爲す可き乎、露國は條約面よりも寧ろ實際上の活動に重を置けり、觀よ遲鈍なるが如き露の滿州經營は一步亦一步鐵道に市街に殖民に商工に鑛山に拓地に全力を皷して露化的手段に從事しつゝあるを、滿州に對する露國の外交や其名を採らずして其の實を奄有せんとす、十年の後滿州の地に至らんか、世人は條約の空文に依賴せんより寧ろ實際的活動の如何に外交終極の目的を速達するかを知らんとを得べし、露清條約は不成立に歸せり、而も大なる成功やこの不成立に胚胎しつゝあるなり、露の外交や遂に窺知し得べからざる乎、

現內閣の不始末

立憲政體は尙試驗中にあり」と、こは英の政治家が曾て道破したる格言ならずや、立憲政體や完備圓滿なる政體に非ざると明かなり、國家の發達に於ける一の階段的方法に過ぎざるなり、活動體なる政治機關は一に其運用如何に依る、或は國家の進步を資け、或は民人の不

幸を生じ、又は國家の衰退を出すとも政體其のものにあらずして其運用如何に因るものとす、政治家の責任亦大なる哉。

我邦の立憲政は其名に於て完美なり、而も其實に於て果して完美なるや否や、伊藤侯は立憲政の創設者なり、憲政有終の美を致さんとは侯の必生の事業と爲す處、されば政黨の必要なるを感ずるや東奔西走同志を糾合して立憲政友會なるものを組織せり、組織成り山縣内閣に代つて現内閣を組織するや務めて政黨運用の善良ならんとを欲し、所謂總裁專制主義を以て政友會を操縱するに至れり、而して其結果や如何、第十五回帝國議會に於て貴族院の反抗に遇ひ、多數黨の効力をゼロたらしめ、外は天下の信用を失し、加之内部に於ては閣員不統一の實情を暴露せしむ、抑も何等の失態なるぞ。

渡邊大藏大臣の無能は財政方針に一變動を起さしめ、五大臣のストライキ辭表となり、首相の板狹みとなり、天下の物笑ひとなるに至れり、内閣は幾度か更迭せり、而も現内閣の如き不始末内閣の成立を見ざりし也、閣員は種々の人物斑列せり、而も現内閣の如き不統一はあらざりし也、伊藤内閣は三度び組織せられたり、而も現内閣の如き國民の信頼を失したる内閣はあらざる也嗚呼。

韓國の借欵問題

警報あり、曰く「韓國政府は海關税を抵當と爲し五百万圓を佛國より借欵せり、而して五分五厘の利子二十五ヶ年賦償還の約なり」と、之れ實に容易ならざる警報にあらずや。

裏面の消息を解するものは曰く、此借欵たるや其名義は佛國公使の周旋にて雲南シンヂケート之が債主となれるも、其實や露佛兩國の密約に原因し、彼の東洋の怪物露清銀行之が貸出主なるなからんやと。

韓國財政の窮乏を告げつゝあるは事實なり、彼れが昨年駐日公使趙秉式を以て我邦に借欵を申込みたるも實に其窮乏を救はんが爲めなりき、然るに彼は近來我邦財政の不始末を詳知し、遂に借欵を我邦に依頼す可らざるを知れり茲に於て彼は他に適當なる債主を求めざる可らず、機會を窺ひ、恰も猫の鼠を睨みつゝありしが如き露國公使は機は來れりいでや一ト泡吹かして呉れんづと、忽ち其手腕を揮ひ巧に佛國公使を操縱し、陰的の裡日本財政の状況を說き、佛國に據るの得策なるを教へ、遂に五百万圓貸借の約定を實行するに至れ

り、事大主義を以て一貫しつゝある韓國は、日本の頼む可らざるを知り、露國の甘言に乗り、佛國の敏活に動かさるゝに至れり。

利害の關係稀少なる滿州に對し、我邦は强硬なる反對を表して露國の反省を促したり、果して然らば利害の關係絶大にして尤も痛痒を感ず可き韓國借款に對し、我邦の態度は如何なる方法に出でんとする乎、開戰を呼び決心を促すも彼に非ずして此に在るを知らずや、吾人は帝國政府の牢乎たる決心を以て韓國政府に迫進する處あらんとを切望せざるを得ず、群少奸臣の徒、利に飽き慾に走り百鬼夜行を顯出しつゝある漢城の政界に、電光一閃霹然たる雷火を降らしむること寔に目下の緊要事なり。

▲政界日記

松翁手記

四月一日　滿州問題に關し日本より與へたる警告に對し露國より回答ありしとの報あり例の不得要領ならん

四月二日　青年聯合運動會さやらんを上野公園に開き今にも日露開戰するならんさのカラ騒ぎを爲す者あり

四月三日　駐露清國公使楊儒ラムスドルフさ談判中卒倒して發狂したりとの報あり臆病外交官と笑ふ者あり

四月四日　司法官のペン請求事件いよ／＼火の手を揚げ金ケン大臣大に凹む處あり司法制度改新の議論起る

四月五日　此日内閣會議を開き露國の不得要領回答に對し更に第二の警告を與ふるとに決す外相の腰中々强い

四月六日　滿州問題に對する朝野の活氣は櫻花に映して凛々たるこの日元帥會議を開き緊急問題を協定せり

四月七日　財政整理は政府の重責たり此日の閣議に於て同問題を論議したる由而も事業繰延の風說あるに至る

四月八日　司法官ストライキは十六名免官以來頓に其氣焰を挫くに至れり政府は斷乎たる手段を以て處分せよ

四月九日　無營俠禪の財政方針に對し閣員中大悶着起れり三十四年度事業繰延に對する議論の衝突ならんか

四月十日　露國は日本の忠告に對し圓滿なる回答を爲したれば滿州問題は玆に一段落を告げ朝野ホッと安心

四月十一日　渡邊藏相の心機展轉始り事業繰延問題はいよ／＼内閣不評判の導火線と爲れり牡丹侯大に凹む

四月十二日　此日山縣松方井上西郷伊侯のゴ元老會を開く財政問題の不始末に關し猿智惠を集める爲めなり

四月十三日　政友會大に騒ぎ出し代議士總會を開く可しと促る處あり憲政黨ワザト靜り返つて冷笑しつゝあり

四月十四日　東京市醜辱の收賄事件愈々公判を開くズーズー敷入醜漢平氣の平左にて法庭に出づ唾して踏め

四月十五日　櫻花爛漫滿都の士女狂するが如し而も政界の紛亂は落花に似て悲む可く慨す可く怒る可き事多し

四月十六日　渡邊攻擊いよ／＼激烈に内閣の破烈近きに在るが如し立憲政以來の大不始末内閣さ云ふ可き也

四月十七日　內閣總辭職の風說あり內相遞相等大に藏相に突き懸り農相又盛んに燃料を加へゴタ／＼絕へず

四月十八日　國民同盟會第二回大會を錦輝館に開く露國の回答に安んぜず更に政府の强硬ならんことを決議す

四月十九日　大阪金融界に恐慌起り數多の銀行支拂停止せり財政上經濟上非常の悲境を顯出せんとする如し

四月二十日　內閣員の破裂は愈々事實となり末松原林松田金子の五大臣ストライキを爲し辭表を呈出したり

四月廿一日　無邊大臣大威張りに威張り頑として動かざること山の如し首相處置に窮し泣寢入りと爲さんとす

四月廿二日　此日內閣會議を開き事業繰延に關し更に協議する處あり政界やゝ暗黑を出で一縷の光明を望む

宗教時言

印度佛蹟の巡禮を勸む

象山

或は二十四輩、或は卅三所、その昔封建時代に內地を廻國するよりも今の世に世界を一週する方途に容易なり、僅か三個月の日子、印度佛蹟の巡禮は十分に成し得らるべし、吾人は我國の所謂舊佛敎徒か一人にても多く佛蹟の巡禮を思ひ立たんことを望む、これ獨り聖蹟を拜すると云ふに留まらず、南方佛敎國の現狀を見て大に啓發し反省する事多からんと思へばなり。

海外敎徒佛蹟巡禮の歷史

支那佛敎徒か中央亞細亞を經て、萬難具さに嘗めて漸く到達したる求經の遺蹟は印度內地にて、佛陀迦耶、カピラバスツ、ベナレス、クシナラ、マスラ、ラヂヤグリハ、スラハスチ其他多くの地に紀念を留めて在り、以來千年、又海外敎徒の舊蹟を拜するもの無く、且つ本土も佛敎は全く地を拂ふに至れり、英領となつて以來再び萠芽を發し、ワーレン、ヘスチングスの時代、國外人としては西藏人の初めて佛陀迦耶に來るあり、次で千八百二十二年緬甸の使節來り、三十年前には暹羅王の來り拜せるあり、千八百七十四年には緬甸王ミンゾーン、ミンの使者金銀寶玉を獻納し、且つ一堂を佛陀迦耶に建てんことを計畫せるあり、十數年前錫蘭佛敎徒を中心として大菩提會の起るや、佛蹟興復を天下に呼號し、錫蘭、緬甸、暹羅、支那、日本の敎徒が年々同地を巡禮するもの多くなれり。

初めて西伯利亞より巡禮す

本年二月に至て佛陀迦耶は珍らしき參拜者を見るに至れり、則ち東部西伯利亞の喇嘛敎々長パンヂタ、ベーヂンドラ、ダルマダラと云へるものにて、同人は西比利亞のバイカル湖に近きイルクーツク市喇嘛敎本山の

主長、一万五千の喇嘛僧を支配せる人なり、初め露國の新聞にて佛骨發見の次第を知り、此頃露國の宮廷中に客分として在る暹羅皇太子に一書を致し、同太子を通じて本國父王より分骨の許諾を得、イルクーツクより露都聖彼得堡に出で、獨佛英を觀再び露都に引返へし、東歐より土耳古に出で海路錫蘭を經て佛蹟に參拜せるなり、これ實に西比利亞の敎徒が佛蹟へ參拜の嚆矢なりと云ふべし。

西藏に入るの便宜

之に就て深く遺憾に思ふは、全喇嘛敎長は久しく西藏に學びし人なり、若き一人の從者も西藏に在りしものなり其上彼等は歐洲を一巡し粗世界の大勢を知れり、若し我國の西藏探撿を志せる人々にして本年印度にありしならば、入藏の便宜は必す同人より得たりしならんと思ふ一事なり、吾人は歐人の入藏こそ非常に六ケ敷ものと思へども、日本人にはそれ程の困難無きを信ぜるもの、返す〲も此好機を逸したるを憾む、然れども今後探撿を志す人は先づイルクツクに赴き、同敎長の指圖に從て入るを便宜とせん、思へは四年以前印度より入藏の途につきて以來杳々として消息を絶ちし川口慧海氏、一昨年支那四川よりせんとして遂げず、甘肅より入らんとして又能はず、更に雲南に向へる能海寛氏、今果して何處にかある、懸念に堪へずと云ふべし。

佛蹟參拜の講社を組むべし

佛蹟參拜の費用は郵船會社にてコロンボまでの往復切符を買ひ、それよりカルカッタに船を乘り換へ、往復三ケ月五百圓ならば先づ差支へなかるべし、然れども講社風團體を作りて往くことゝすれば一人三百圓にて足り、且つ資産少きものにも掛金組織の爲に出金容易なるべし、吾人にこれを獨り宗敎の側より見るのみならず、兎角外國行を臆腔がる蟄居思想の滿てる多數國民を啓發する上よりしても、佛敎徒の年々海外に出づるは大に益有ることゝ信ずるなり。

ユニテリアンと清徒同志會の握手

我國ユニテリアン敎徒の一部は佛敎的基督敎徒なり、佛敎淸徒同志會の大多數は基督敎的佛敎徒なり、共に新思想の代表者、互ひに相近き性を有して未だ會せざるもの、默々の裡相許すところありしや疑ふ可らず、果して四月七日を以て此兩派は三田の惟一館に於て會

合を開きぬ、今後共に或る點まで歩調を一にせんと云ふ、兎に角明治宗教史に特筆すべきの出來事たり、果して日本に於ける新宗教の端緒となり、萌芽となり得べきや否や、吾人は大なる希望を以て兩派諸氏今後の行動に見んとす。

佛書飜譯事業

外人が之を爲すも、邦人が之を試むるも、共に大困難を感ずるものを佛經飜譯事業とす、近江大津市の人大原正俊氏は一生此難事業を自己の天任としたる人なり、不幸去る三月偶然病を得遂に絶たず、惜みても猶餘りある事なり、左に同氏の略歴を紹介せん

大原正俊氏を悼む

氏は山城國宇治郡清水忠兵衛氏の三男、明治五年八月七日に生る、十三年二月大津水揚町大原家に養はる、去年養父の逝去まで名を嘉吉と呼べり、三井寺の高僧故敬徳阿闍梨の遺囑に依り、佛經の英譯を以て終身の事業となさんことを志し、英學を專習し、明治二十年海外宣敎會の京都に興るに及んで大に其業を扶け、米國英國印度等の學會又は雜誌に向て恒に論說の寄稿を絶たず、名を貪らず利を求めず、一意忠實飜譯事業の爲めに盡すところあり、不幸本年初め疾を得三月十日を以て遂に大津の自宅に逝けり、我國の宗教界學術界は一個無名の偉人を失へり、悼惜に堪ゆべけんや、

君が飜譯の重なるもの

和譯

- ●瑞派佛教學　ダーサ氏原著
- ●佛教問答　ザンメルマウン氏原著
- ●佛陀の福音　ケーラス氏原著
- ●眞理の活泉　一卷
- ●基督教起原史論　マシー氏原著
- ●萬國宗教大會講演集　二卷

英譯

- ●佛教四十二章經　米國、雜誌「ブッデスト、レー」揭載
- ●佛遺教經　仝上
- ●維摩經　英文反省雜誌揭載

此外飜譯央ばのもの、一章一部の飜譯にて外國雜誌に揭げしもの、論文等四十餘種有り

●每月通信（自三月廿四日至四月二十三日）

△亞細亞の光輝　著者サー、エドウイン、アーノルド病狀危篤の報有之候、四十万の讀者を有せる龍動每日電報の主筆、英國第一位の詩人、東洋好き佛教好きたる氏の光彩有る筆は、或は再び吾人の目に觸るゝ機無るべしと存じ候

△オルコット氏　神智學會長オルコット氏は去年春歐洲支部巡視の途に上り本年は故國米國を巡廻致し候、仝氏は二月二十二日桑港金門の冲に沈沒致し候リオ號にて布哇まで參り同島にて上陸一便を遲らし候爲め災危を免れたる由に候

△**桑港三寶會**　白人の信者已に百名に達し近日Light of Dharmaなる英文雜誌をも發行する由に候、チルコット氏は全市メトロポリタンホールにて三千の白人に對して演說を試み大に氣焰を吐き候、又全市ポーク街のブッデストミッションにては日本人に對し演說を開き左の如く申し候

私は今終りに臨んで注告します、諸君は日本帝國の名譽を尊び而して正義の武士道を忘るゝなかれ、此國に居て此宗敎をよく研究し愛國の魂を實行したならば、啻に佛敎徒として又日本臣民としての本分を完ふするのみならず、尙進では此市を名けて日本帝國桑港縣と稱する事を得るに至るべし、願くば諸君吾が意を諒せられよ。

四海同胞主義を唱へ、正理の外、何物をも見ざる主義とは云ひながら、眞米國人にしてかゝる無遠慮の言を吐くは流石に米國仕立の人物と存ぜられ候

△**ニポール留學**　島地默雷師の令息清水默爾氏は久しくサンスクリットを研究し居られしが、今度本派本願寺よりの留學として印度の北、ニポールへ佛敎經典蒐集の爲め派遣せらるゝ事と相成候、我國東洋學の爲に喜ばしき事に候

△**釋尊降誕會**　本年は去年の村上專精氏の如き氣焰も無く、例に依て例の如く賑やかに閉會致候、新佛敎の諸氏は同志會の綱領說明を臨時に印刷して配布致し候

△**四月の宗敎界**　以上の外佛敎界には東本願寺のお祭り騷ぎ、佛骨拜瞻會の興行及び東亞佛敎會女子部の設立の外、何も通信すべき事無之候、特に基督敎界は寂寥を極め候、以上

社會小評

觀勢錄

零翁

▲公德問題と云ひ、漢文廢止と云ひ、言文一致と云ひ、衣服住居の改良と云ふ、皆是れ識者が二十餘年前より唱道したることとなり、只時勢未だ到らず國民多數の反響を得ざりしのみ、今日に至て漸く唱ふるもの多くなりしは確に胸襟を世界に公開して廣く萬國の長所を採らんとする人物の增加せしを證す、昨年巴里の博覽會、實業家政治家新聞記者敎育家の一時に多く洋行せしと、文部省留學生の增派は此新氣運を作るに大に與つて力有り。

▲ランプ亡國論、耶蘇國敵論、雜居不可論、此種の議論にして曾て國民の多數を制したる時代もありき、今日の漢學保存を主張するもの、廢娼不可を唱ふるもの、女子に高等の學術不用とする說、古禮を採て日本の禮式を制せんとの議、果ては女服に長袖を殘さんとする、自轉車に婦人乘るべからずと云ふ、悉くこれ同一思想圈內の產物、十年廿年の後、昔しはアノ様な議論をも主張した哩と自ら禿頭を撫て懺悔するときあ

るべし。

▲體操は教へて曰く、足を投げ出すが如く活潑に歩め、禮式は教へて曰く、しとやかに徐ろに運べと、西洋風の家屋に請求して曰く靴を脱して入るは不禮なりと、日本流の建築は命令して曰く靴の儘昇降を許さずと。燕尾服と羽織の早替りを演じ、洋食と支那料理を一軒にて兼業す、過渡社會の組織萬般此類なり、衝突の日本混亂の日本、樂天家は之を稱して折衷の日本とは云ふなり。

▲モグリ新聞の財源は銀行と華族、事實の有無はどうでもよし、何とかケチを付けて大々の惡口を書きて賣り付く、小は三十圓より大は二千圓位までの相場、若し承諾を與へざれば掲載す、如何なる小新聞に掲げられても大なり小なり自家の營業に差響きを生じ、身分に關するを以て、泣く〳〵これに應ずるなり。

▲腐敗とか正義とか墮落とか慷慨とか云ふ文字は彼等モグリ新聞に濫用されたる結果見るも厭やになれり、同一の意味を何か外の言葉を以てせざれば讀者に利目なし。

▲吝嗇爺の嫌ひなものの曰く、下等新聞の記者と保險會社の勸募員。

宗教者の經濟的眼識

堀田斬虹

由來日本人の經濟的思想に乏しきは云はずもあれ、近來の學生が、飄々浮々として遠大の思想に乏しく、やゝもすれば狹隘なる小天地に跼蹐して、何の爲すなきのみならず、其小範圍に切々たる小刀細工さへも、經濟なる意義を無視して、或は自ら頑冥なるのみならず、他の正當なる事業をも防碍せんとするものあり、特に近世否な寧ろ現時の佛教者に於て尤も甚しきものあり、算盤持つものは商人の事なりとて、全く數理の念を腦頭より去り、長袖一流の寛々たるに擬し、以て得たりとせし習慣は、今も尚ほ除去せず、偶々數理を解せるものありとも、單に金銀出納の小出入りに於ける目の子算に過ぎず、依然として知て害ある小算用のみにして、國家盛衰の根原、人心活動萎微の本原、特には宗教の盛衰存亡、皆これ經濟の問題に基因することを知らず、宜なる哉、教理衰へたりと慨き、德義地を拂へりと憤る、然かし何人かよく其根原を、金融の流不と、國民富源の如何に依て考察したるものありや、日本銀行の利子は引上げられたりと云ふ、彼等は其何

の故なるを知らざるなり國民の購買力が減じたりと云ふ、彼等は何を意味するかを知らざるべし、輸入は輸出に超過せりと云ふ、何が故に國家の不利益なるかを解せざるなり、然かも尚ほ且つ人の口眞似にして生意氣にも介石先生のランプ亡國論を笑はんと欲するなり、乞ふ再思せよ、三考せよ、言の奇矯、事の過大今よりしては一笑に附し去るべきが如しと雖も、然かも國民が徒らに他國の美に心醉して、自家立脚の根本を忘却し、經濟的原理を無視せんとしたりしを罵倒したりしにはあらざるなきか、吾人は今日に於て敢て决して、ランプ亡國の議を再燃せしむるを望むが如き愚者を學ばずと雖も、彼れが如く正確に、彼れが如く自信強く、確乎として國家の爲めに一歩を曲げざるの傑士を望むや切なり。

自由廢業の結果と敎育家（全）

娼妓の自由廢業の結果は、著しく密賣淫を增加し、其結果は特に著しく學生を隋落せしめたりとは、本年上半に於ける本鄕下谷神田淺草一帶の現象なりとて、敎育家は嘗て廢娼に與みしたりしの說を改めて、公娼設置の議に賛成するに到れりと云ふものあり、其敎育家の冥濛なるは素より論なしと雖も、かの結果に注意せずして、やゝ散漫に事を成せしの結果は、こゝに不測の害毒を流せるは、これ止むを得ざる如しと雖も、然かも亦留意すべきの問題たらずんばあらず。

今日かの一時の狂熱に依て、前後の思慮もなく公けに廢業したりし公娼が、身に覺えたる他の藝能なくして、習慣性より來りし自家劣情の發露と共に、又もや原の醜業を私に密賣するに至れるは、これ自然の數一時害毒を流すことを大なりとも、これ唯一時の現象のみ、吾人の憂ふる處は彼れにあらずして此れにあり、國民が公娼の設置を、尚ほ又自ら此營業をなすことに對して些の羞恥の念を起さゞるにあり、自由廢業と云ふ已に自由廢業せざるべからざるに至るを耻ぢず、そこに墮落し又墮落せしむるに到れる等の事これなり、かくの如きの事、吾人はこれに付て又他に云ふべき策なし、唯擧げて敎育家、特に小學校敎員に一任せんと欲するものなり、即ち物の理をも知らぬ頃より敎へ導くにこの醜業者に對して自他共に差恥すべきの事を以てし、徐々として此耻づべき、憎むべき業者を社會の度外に放逐すべきなり。

▲社會日記

自三月廿四日至四月廿三日

○醜業機關　州崎の女郎屋、五萬圓の資本を以て建國新聞の跡を讓り受け、極東日報なる新聞を發行せんとす

○二六新報　四月三日の勞働者大懇親會人數制限の命と吉原遊廓の野郎連に妨げられ十分の結果を得ずして止む

○自轉車稅　四月一日より自用は一年四圓五十錢營業は三圓の稅金を徵す

○左側通行　の令を東京市にて實行す

○少年決鬪　三月廿七日麹町に二少年決鬪一人即死

○月島探檢　三保の沖にて月島丸發見手掛りありとの報あり

○位記返上　橫須賀鎭守府元軍港部員中佐酒井正房技師松村六郎匠長佐野狷介の三人收賄の爲位記返上を命ぜらる

○銅像除幕　會津の女傑故瓜生岩子の銅像を淺草公園に建設十九日除幕式を行ふ

○七人殺し　四月十八日埼玉縣大里郡奈良村農吉川市藏家族七人を殺し自殺す

文藝評論

春湖

賣名の陋

今の人、好んで文を各種の刊行物に掲げ、汲々として名の一つだに多く傳はらんことを望む。はなはだしきに至りては、さらに與かる所なきものに向つてすら、ゆかりを求めて登載を乞はんとするものありと傳へらる、文人名を樂ふの志、まことに諒すべしといへども、かくの如きは、むしろ陋とすべし。

生活難と濫作

現の時は、詩文人にありて、生活にもつとも難きを覺ゆるの時也。試みにこれを事實に徵するに、所謂一流の大家と稱せらるゝものといへども、その得る所の收入は、以てわづかに一家の衣食を充たすに過ぎず。二流三流以下、新進小家といふ分際に至りては、終日吃々として文字を連ね、宙外氏の所謂筆耕とほとんど撰ぶ所なきものたらざるを得ざるなり。こゝに於て、生計の料を得んがために、齷齪文字を驅列して、一つだに多く傳らんことを求む、もとよりこれ自然の必要、人としてはまことに已むを得ざる也。しかれども、吾人は疑ふ。かくの如くにして成りたるもの、果して把翫吟咏に供するの値あるかと。けだし、中には、興來り神會ふの時に際して、一氣呵成の作、文場に雄視するものなきにあらざるべし。されど、これ僅に十の一二、多くは所謂なぐり書きの濫作、ほとんど見るに足らざ

るものにあらずや。現今の作物、稱すべきものなきは、主としてこの理に因る。生活の難もとより濟はざるべからず、しかれども、すでに文を以て世に立つ、須らく大に奮つて一代を壓するの作あるべし。累々たる愚作、堆をなして書肆書店に滿つは、文家たるものゝ恥辱にあらずや。

文體の平明

近時、文壇に於て著明なる現象は、作文者の用意が、難解の辭をさけて、平明の體を採らんとし來ることこれ也。言文一致の大に行はるゝ、雅俗折衷體を執るものが、一致體を容れ用ゐて、雅俗をして、さらに一層融和せしめんとする、もしくは、上代文、混淆文等の所謂擬古文を固守して、容易に移らざりしものが、ある種の述作に關して、平俗の體を用ゆるを辭せざるに至りしが如き、以てこれが證據たりといふを得べきか。かくの如き傾向を生じたるもの、その由來する所は、もとより多かるべし。されど、現今世事漸く繁く、究理の學また日に進みて、その事情、その理義を說明するに從來の文躰を以てしては、充分に意を悉す能はざるがために、平明の體を撰ぶに至りしもの、また實にその一因たらずんはあらず。思ふに、近時行はるゝ平明の體は、修辭學上の批判を以てせば、難ずべきもの、極めて多かるべし。されど、これ當來の新文體に達するの過渉、理想的文章を成せんと欲せば、必ず一たびこの階段を歷ざるべからざるもの、むしろ、はなはだ歎ぶべき傾向にあらずや。

理想的文體の一要素

言文一致は、今日もつともひろく行はるゝ文體也。而して、そのひろく行はるゝ所以の理を究むるに、文體の平明といふこと、實にその一因たるが如し。けだし、平明は言文一致の長所也、特色也一致體を排するものといへども、なほ、これを認容して敢て斥けず。たゞに斥けざるのみならず、自家もまた一致體ならざる他の文體に於て、これを試みんとせるを見る。之を以て見れば、當來に於て成ぜらるべき明治の新文體は、この平明の一要素を具へたるものならざるべからざる也。

我見相衝く

今の時は、人々たがひに小我の見を持して、相衝き相

せめぐの世也。他の非行を擧げて、これを難ずるもの、必ずしも、衷心實にその罪を惡むがためにあらず、自我を立せんがために、他を排せんとして、すなはち、まづ、その罪をあばく也。しからざれば、何ぞことさらに他の非行を公にして、自家の正義を顯耀することあらんや。

◎時文餘錄

自三月廿三日至四月廿二日

一、いはく文士保護論、いはく美術家保護請願、いはく法官增俸運動、今の一部の社會は、おの〳〵待遇の冷薄を訴へて、政府者に庇護を求めんとす。而して、特に注意すべきは、文學者及び美術家が、法官と、その社會に對する地位を異にするにかゝはらず、均しく待遇について、保護を求めたること也。こは思ふに、現時の主我的思想が、物質的迫害のために煽動せられて、事のこゝに至りしもの、現代思潮の特色より來る必然的結果にして、今の如き黃金万能の世にありては、早晚起るべき出來事にてありし也。これを現代思想の罪として、勢ひ、已むを得ずといはゞ、すなはちこれに止るといへども、かくの如き哀求の下には、幾多の不平、幾多の怨恨、幾多の苦痛の潜めるを知らざるべからず。吾人は、經世家が、これを時代の罪に皈して、漫然觀過する所なかるべきを信ず。

一、藝術家にして、もし、法官の如く、その行動が、社會に直接の影響を與ふるものならんには、彼等は、法官に先だつて、すでにストライキをなしたらんも圖るべからず。たゞ、彼等は、法官の如く直接に社會に影響する所なきを以て、すなはち敢てこの暴擧に出でざりしのみ。人、もし、これを以て、藝術家の待遇が、法官に勝れりとするものあらば、そは大なる謬解也。藝術家現今の境遇は、決して法官と日を同ふして語り得べきものにあらず。

一、『太平洋』紙上、九皐生の名を以て「文藝消息」を草するものは、疑ふらくは高山林二郎氏にあらざるか。その觀察、その文致、當年の『太陽』文藝記者の面影を存するが如く思はるゝ也。

一、海外の事情に迂昧なるわが國の文壇にありて、歐米文界の消息を報ずるは、頗る切要のこと也、これをなすもの、さきに本誌あり、ついで『早稻田學報』及び『活文壇』あり、このごろ、『新小說』のまたこれを設くるを見る。本誌は敢ていはず、『新小說』は中島孤島氏、多種の刊行物によりて、その材料を撰擇し、後藤宙外氏また側よりこれを輔くといへば、文壇を益するの多き知るべき也。『帝國文學』が初めこれを設けて、後に至りて廢したるは、まことにあたらしといはざるを得ず。

一、近刊の『小天地』雜俎欄に、現今の評壇について論ずる一節あり。いはく、

近頃評壇の亂調子と云つたら、全で無茶苦茶で有る。單に邪推の文字

を以て其作者くは其人を誣せんさ仕たり、殊に厭ふべきは動もすれば人の私行に亘らうさする事で有る。作を味ふの眼識なき讀者は斯る端たなき者に强て好奇の心を滿足させやうとする。單に趣味の開發に損する處あるのみならず、率いては民衆德敎の上に鮮なからぬ汚辱を遺す事がないさも限らぬ。文士は名を得んがために他を誣られればならぬか、雜誌は斯く迄にして讀者を繫がねばならぬか、吾等は今の時筆を執る人の態度に就て先づ聽かんとするのである。

文壇の弊風に慨するもの、ひさり吾人のみにあらず。

一、尾形流四大畫家の展覽會、上野公園に開かる、會主は例の小林文七也。光琳は、初め狩野其他の畫家に倣いたりといへども、創見を出だして、遂に尾形流の一派を立てたり。知らず、今の時第二の光琳たらんものは誰ぞ。

前月の出版界

新刊紹介　到着順

◉家庭讀本春の卷

堀内新泉著　神田開發社發行

家庭の讀物さして平易にして趣味あり且つ健全の感化を與ふる册子は誠に尠し、此書は僅かに如上の資格を具備して出づ、古稀の賀、自愛、老船長、花ちる里、おもちや、御國の風俗、母の面影、初旅、おぼろ月夜、皆篇中の題目なり厭味無き言文一致、誰にも分り易く書きこなされたり、早く夏の卷秋の卷等の出でんこさを望む（定價十六錢）

◉揚子江溪谷の研究

林安繁述　神田東京堂發賣

揚子江沿岸は我國將來の貿易上最密着の關係を有す、著者親く同地方を踏査して此著有り「序論、經濟上より見たる揚子江、兵備上より見たる揚子江、結論」の四編より成る、簡にして其要を得、對岸の大陸に目を注ぐの人は必ず一讀すべきなり、從來支那に關する邦人の著書多きも近世の學術と外國語の素要無き先生の手になるものゝみ、此書世界の大勢、外人の支那研究、等を十分知悉し參考として、然る後編輯したるもの、此書の長所此點にあり

◉新四人

寒川鼠骨著　神田猿樂町　ほとゝぎす社發行

著者が曩に新聞「日本」の記者さして入獄したる際、親しく經驗したる實歷を詳に記述したるもの也著者は「ほとゝぎす」派の俳人にして寫實風の描寫に頗巧なるもの、之を著はすに亦其得意の筆を以てしたれば讀みて事實を知るさともに別種の趣味を感ぜしむ由來牢獄のことは識者の久しく疑問とする所にして其實狀を知るに苦みたるもの今此書出づ所謂囚人の側より見たる牢獄の性質、之によりて悉すを得べし社會問題に留意せるもの罪惡の研究に從ふものは勿論、宗敎家、學者、政治家、法律家、敎育家、文學者は必讀すべきの良著なり（三十五錢）

◉婦人の側面

正岡蘂陽著　神田新聲社發行

近來多數讀者に氣受けの善さそうに見ゆるものを多く發行するは新聲社

なり、婦人の側面の掲載要目に曰く「處女、戀人、結婚、家庭、美貌、理想の妻、女學生、醜業婦、女子の境遇、昔の女、今の女、市井の女子、田園の女子、僞善の使徒、妾、母、姑、」其他數多し、婦人の正面も裏面も皆描き盡されたり、側面とは何が側面なるにや（定價二十錢）

◉本願寺派學事史

前田慧雲著　本郷　文明堂發行

本願寺學校の寛永十五年に創建されたるより二百六十餘年獨り佛教學者を出だしたるに止まらずして三十餘年前まで久しく京都に於ける文學、教育の覇權を握れり、これが沿革盛衰を知るは最必要の事なり、著者は東京帝國大學に聘せらるゝ前久しく京都本願寺學校の教育に從事し、側ら同寺の教育沿革を調査し終に此編を著はす、錯を學術界教育界及び宗教界に置くものは是非一本を座右に具ふべし、附錄には年表、學統譜、著述目錄を添ゆ（三十五錢）

◉釋月性

千河岸貫一著　博文館發行

少年静本の第三十三編として出づ、周防の海門僧清狂道人月性の傳なり、月性は松陰と共に長防二州をして維新活劇の原動力たらしめし大立物の一人「埋骨豈期墳墓地人間到處有青山」の詩は如何なるものも之れを知れども未だその詳傳を知るもの稀なり、此書僅に百三十頁の小册子に過ぎざれども久しく月性に親炙したる大洲鐵然氏より材料を得、明快の筆を以て叙す、一代奇傑の風貌紙面に躍如たり（定價拾三錢）

◉リビングストン

有島武郎森本厚吉著　警醒社書店發行

スタンレーの傳記の飜譯せられ記述せられたるもの頗る多々、而してダビッド、リビングストンの傳記は今日迄世に紹介せられず著者は年來札幌にありて北海に特有なる莊美の環境に起臥し自然の默示に依りて其心神を豁開せられつゝリビングストン傳を讀みて獨り其利益と快樂とを受くるに忍びずして此書の編纂に着手したる由にて二百二十餘頁の中册子に其生誕幼少時代傳道會社照試亞弗利加發航の決心より說き興して三次の遠征中或は獅子の爲に嚙まれんとし或は其妻及征友マッケンジー等と死別し同行者と生別の悲酸を嘗めつゝ全亞細亞未開地の三十倍に垂んとする不毛の地域を宇內に紹介して天文學に地質學に動植物學に至大の新智識を寄與し且つ幾多の湖河瀑布を發見して物質的文明に大貢獻を爲し遂に亞弗利加內チタンボに於て病死し故國ウエストミニスターアベーに於て國葬の大禮を受けしに至る迄六十年の全生涯を細大漏さず懇切に丁寧に叙述論評したるものにして同情厚き錐鋒、透徹極まれる文字を以て滿さる著者が現時の俗悅を是れ貪る臆傲者及び姑息偸安に流れたる現下宗教家の擧動に慊らずして筆を執るに至りたるの始末は其辯を待たずして何人にも默會せらる可く近來の好傳記なりと云ふ可し（定價奥付無し）

◉徴兵適齢者必携

赤坂表町　兵事雜誌社發行

同社は恒に軍事に關する有益の新書を發行す此書は題目の如く適齢者には至極重寶なる實用の册子なり（定價七錢）

◉世界的道德

デフカレスト氏著　京橋釆女町　警醒社發行

道德の根本は萬世不易世界共通なり我國にも世界的道德ならざる男女間の關係酒類問題等あり矯正せざるべからずとの意を基督教の見地より觀

切に說明したもの（定價奥附無し）

◉禪海一瀾講義　釋宗演講述　淺草　經世書院發行

本書は圓覺寺前住洪川和尚が儒書大學の每章を直ちに禪家の公案として提唱せられたるを現住宗演禪師が平易に講述せられたるものにして在來の通俗禪書中簡明にして要を得たるものなり（奥附無し）

◉東洋　毎月二回　京橋彌左衛門町　經緯社

近衞公の機關東洋の平和と慶福を永遠にせんが爲に生ると云ふ近來の大雜誌決して營利的のものと同視すべからず大勢時論參考其他有益の材料多し（十二錢）

◉學生倶樂部　第一卷第一號　本鄕森川町　育成會發行

今の青年雜誌は餘りに纖巧浮華の文字を連ねて青年をして文學者たらしめんとするの風あり此の如きは或は趣味をして優美ならしむるを得べし然れども雄大渾厚の氣魄を養成せんこと殆ど能ふべからず吾人之を憾むこと久し此時に於て學生倶樂部の發刊あり豈勸迎せざるを得んや願くは中道にして挫することなく大に奮つて豪健偉大なる新代國民を形成せよ（價十錢）

◉花月世界　第一卷第一號　神田千代田町　花月社發行

『文藝倶樂部』を摸して内容の少なきもの、發刊の辭には僅に文壇の重鎭たらんことを期すといへど藝妓の肖像を勿體らしく卷頭に揭ぐる如くんは重鎭たらんこと思もよらずかゝる目的を抱かんより社會に向つて俗趣味を高雅に導くに力めんことを望む本號には柳浪、青軒、曉花、得知、雨郎諸氏の小說及び講談、一餘興等あり（九錢）

雜評

胡說亂談

兎・耳生

◎大槻如電翁、向島にある榎本子の別莊へ招かれた時、篆隷楷行草の踊りをやッた、篆書の踊りは、手先をくる〱廻はし、隷書はのたり〱、楷書はぎッくんしやッくり、行書はすらり〱、草書はむやみに狂ひまはり。一座の人が頤の懸金を外して、アハヽヽ笑ッて居る内に、翁の影は消えてしまッた、

◎先年日本新聞で、如電翁の談話を揭載した事がある、中には隨分出鱈目があッたとやらで、十文字信介が翁を捉らへ、先生は學者にも似合はない、あんな事はお止めなさいと、一本打込んだつもりの處が、此如電はまだ學者と云はれるほど馬鹿ではないヨと怒鳴られて、流石の十文字も、這ふ〱の躰で逃げてしまッた、

◎去年の夏頃、信夫恕軒が漢文を作ッて、金井金洞を攻擊した事があつた、あれに就て金洞の述懐が面白い『恕軒はガラスの破片で觸ると怪我をするから、遠くの

方へソーッとして置くのが一番だと、兼々三島中洲から聞いて居るので、田島彌平がわざ〳〵來て、恕軒の撰文の碑銘をかいてくれといふのを、これは斷るのが好い、寄らず觸らずにして置かうと思ッたところ、矢張怪我をした』と、其後とう〳〵恕軒はかけガラスと云ふ綽號を取ッた、

◎森槐南の新詩綜が、久しく休刊になつて居るのを、上村賣劍が遺憾に思ッて、北條鷗所を選者として、再刊して見たが思はしくない、尤も鷗所と來てはまだまだ未熟で、迚も槐南の後は引き受けられる筈が無い、處で誌上の署名が條方大としてあるのを、本田種竹が見て『條はデゥといふ假名で、ゥを取ればデホウダイ、鷗所の選は全く出放題だ』と洒落たのが、鷗所の耳へ這入ると、烈火のやうに怒ッて、早速賣劍の許へ辭任を申込んだ、槐南などが頻りに慰撫したけれど、更に効が無い、據ろなく三月から休刊したが、又槐南が出陣して一花咲かせるさうだ、

◎宋の秦檜は外交政略に長じて居たあの時岳飛などが云ふ通りに、主戰論で押道せば、宋朝の亡びるのは忽必烈を待たない、して見れば秦檜の功はエライ、岳飛は武人一點張りで、國家の經綸などは少しも分らない男だと、井ノ哲でもやりさうな、歴史論を振廻はすのは、例の槐南先生、何處でそんな事を覺えたかと、探ッて見ると、滄浪閣でお酌のついでに、主人の話を聞きかぢッて來たのである、恐露病の本元だから、そんな話もあッたらうサ、

◎『老猫春戯瑞香花』此一句で名高い依田學海先生、集鴨の方へ轉居するとの噂がある『瑞香花下老猫狂』と修正したらよからう、

◎國分青厓數年前一ヶ月の收入三十圓の時貸家を尋ね、家賃十六圓の家を借る約束をして歸ッた處が、細君聞いて大いに驚き、收入の半分以上家賃に取られ、何で生活をするつもりですと云はれ、成程氣が付かなッたと笑ひながら、又斷りに出かけた、

◎今より二十幾年、昔の事であるが、埼玉縣の浦和で、朝日庵といふ牛肉店へ、乞食のやうな貧乏書生が飛び込んで、飯を三人前に、牛肉を五人前平らげて、勘定となると一文無し、そこで主人が談判すると、今日で三日殆んど絶食、どうも目が廻ッて一歩もあるけないから、前後の考へも無く、斯くの仕合せだと云ふので、主人も哀れに思ひ、それでは何か周旋してあげるから、と家へ泊めて置いて、裁判所の門番に住み込ませ、月

給四圓に有り付かせた、それが白幡といふ處の學校教員となり、縣の屬官となり、東京へ押出して內務省のお役人樣、今では貴族院議員淸浦奎吾、御器量次第の世の中サ、

雜誌の雜誌

ドクトル、キルトハル

▲井上圓了氏の處世法　館主のやり方は故福澤翁とよく似て居る、學説では破唯物論などで大變福澤主義を攻擊して居られるが、其常に野に在りて官途に望みをもたない所から、學校を起して後進を提撕するとに盡力せられる所など中々よく似て居る、然し館主の處世法の骨髓はといつたら、重に石黑况齋翁と故勝海舟翁とから得られたものらしい、福澤翁のは唯之を參考せられた位の事だろうと思ふ、今之を數學の式で示さは(石黑十勝)×福澤＝館主まあこんなものだろう、若し其學説に至りては（釋迦十孔子十とソクラテス十カント×ヘーゲル＝館主といふ樣のものではあるまいか、（東洋哲學）

▲隈伯對勞働者　隈伯邸の燒くるを見ながら近傍の勞働者は一人として消防に盡力せざりしと聞き隈伯の勞働者に斯くも不人望なるかと驚き、愈々隈伯の眞政治家眞人物にあらざるを知り得たり、（東京評論）

▲渡邊無邊の禪機　憶ひ起すは去る明治十年西南騷動の際彼れが高知縣に令たりし時の事是れなり、當時の土佐人は征韓論の破裂よりして板垣以下の面々東西の鄕士等と結托して西鄕派に氣脈を通じ專はら兵力に訴へて暴發を謀らんと準備をさ〳〵怠り無く縣廳の警察の重立つ官吏等皆一味の徒黨なれば少しも長官の威令に服せず今にも彼を血祭りとせんとする勢の切迫せること風前の燈火も啻ならざりし、斯る不穩の光景中に在りて彼は日夕禪書に眼を曝らし市中の書林より多く佛書を買上げて公務の暇には研鑽を怠らず、膽氣頗る人を驚かせしものあり、彼が禪機の修養にして退歩せざる限りは心中益々丈夫となり來たれるに相違無けん、その赴任の際時の內務鄕大久保氏は彼れに向つて君の一命をもと切出せしに、只だ簡單に委細承知仕ると答へて出發したりとは今尙吾人の耳底に存する所（日本）

▲江原素六氏の賢母談　予は多年敎育に從事して、多少の經驗する所あり、入學の際、母自から携へ來る

ものは、成蹟概ね好良なり、蓋し此一事毋か居常子女教養に關する熱心を示せばなり。（基督教週報）

▲志賀矧川の講義振り　諸君今少し拍手したら良からう、一躰諸君は吾輩の講義を何んと思つて居るのか、吾輩の講義は、決してソー安くない講義である、即ち吾輩以外一人も遣り得らるゝものでない、地理と歷史との關係、之は實に吾輩獨創の卓見で、單に日本といはず、廣い世界に於て、獨り吾輩即ち此の志賀重昂あるのみにして、他に一人も之を知り之を講じ得る者はない、若かく天下に尊い講議であるから、諸君も大に之を重んじて、今少し盛んに拍手してもよからう、とこう云ふのである。（教育時論）

▲數多き屋號　伊勢屋、三河屋、近江屋、越後屋なんぞは到る所に見受けるが東京市内を數へ立てたら定めて澤山であらふ、試みに電話帳に就て調べたのに伊勢屋は卅八軒、遠江屋卅五軒、三河屋卅一軒、大阪屋十八軒、萬屋十八軒、大丸屋大和屋共に十五軒、尾張屋十四軒、越後屋、上總屋、中村屋、松屋各十三軒、和泉屋十軒、越前屋、河内屋、遠州屋、紀伊國屋孰れも九軒宛であッた。電話のある家は其れ丈だが電話の無い家は遥に澤山であるから數へ切れぬ位ひだろふよ、其處で右の内で同一の商賣を營むで居るものを調て見ると伊勢屋卅八軒の内呉服屋十軒、酒屋三軒、金物屋三軒であッた、又近江屋卅五軒の内呉服屋六軒、疊表屋五軒、材木屋三軒で、三河屋卅一軒の内料理屋旅人宿五軒、呉服屋酒屋各四軒であッた。（實業之日本）

▲探し惡き電話　電話の番號を調べる時に屋號の澤山併んで居るのは實に探し惡い、十や十五は何でも無いが東京とか日本とかを頭に附けてある銀行會社其他のものと來ては實に閉口する、序に此れも調べて見たが東京何々會社とか東京何々銀行とか何でも東京を頭に附てあるのが電話帳に百四十一ある、勿論一會社で澤山電話を備へ付てあるのは一ッとして數へたのだ、其れから日本を冠詞としたのは六十二、帝國は廿四、東洋は十六、大日本は九ッであッた。（全）

▲工女の悲歌　工女が特に許されたる時間に於て歌ふ所の俗謠の一二を聞け、調の拙劣なるも歌の幼稚なるも暫く之を度外にせよ、洋燈の光を掩ふまでに蒸氣の立昇る處水車の軋り喧しく卷鐵の廻り忙しき星も氷るかと疑はるゝ霜の夜に於て機械の廻る調子に乘せ節も哀れに絲の如く細く長く訴ふるが如く怨むが如く三

三五々思ひ〳〵に唱和する歌の能く其境遇を寫し出して如何に悲慘なるか如何に悽愴なるかを

米は南京、おかづはあらめ何んで絲目が出るものか▲製絲工女も人間でござる責めりや泣きます病みや寢ます▲無理を云はしやる工女だとても親も身うちも家もある▲私が子を持ちや女工にや出さぬ工女さすよりや水仕が増しよ▲今日も罰金きのふも科料私が未熟か帳場が無理か▲板になりたや帳場の板に成りて手紙の中見たや▲親の病氣ぢやお旦那樣よどうぞ外出ゆるして欲しや▲願ひ上げます見番樣よどうぞ一夜のおなさけを▲今年や嬉しや見番樣のお目に止りて優等工女

其調子の抵く其歌の拙なるに拘はらず憐むべき一万五千の工女の境遇は躍々として其俗謠の上に露れ筆執る記者をして知らず知らず鼻をつまらしたり今や春挽の最中にして第一の虐待は正に實行されつゝあるなり、

信州諏訪製糸工場の悲境　（萬朗）

讀者の文壇

今回の應募短文を掲載するに際し、出題記者は不圖思ひ立ち四五の社友諸氏を訪問し、其意見を尋ねんとしたり、編輯期日切迫の爲め僅に渡邊高楠二氏の分を間に合せたり、他は又他日を期して掲載せん。

即席の茶談を歸來記憶に存せる丈けなぐり書きにす、遺漏誤謬共に多からん罪全く小生に在り。

社末　松本生

我邦將來の音樂

音樂學校々長　渡邊龍聖

云ふまでも無く我邦將來の音樂は歐洲の音樂が行はれる、和船の日本が蒸氣船の日本となつたと同じである、總て音樂は其國の社會組織と相應じて變遷し發達するもので、その昔希臘には希臘風の音樂が出來、羅馬には羅馬流の音樂が發達した、希臘は專制的封建的で羅馬は共利的憲政的、一は命令と服從の社會、多數の人間は個人性を沒却して君主に服從する、一は調和と協同の社會、各人皆權利を延ばすことを得る、則ち希臘の音樂には和聲(ハーモニー)と云ふものが無く、大なる音の樂器の前には小なる音の樂器は沒却されて丸で命令と服從の關係である羅馬の音樂は之に反し大小高抵の音皆各個の特性を失はずして相和して行く。

かく音樂も國家の組織と相應じて變遷する、日本在來の音樂に和聲と云ふものゝ無ひのは丁度希臘と同じで

ある、專制や封建の舊日本が去りて立憲の日本となつた今日、音樂も又た和聲的のものに變遷し、改良せらるゝは當然である、唯社會萬般の事が舊より新に行く過渡の時代であるから現在日本の音樂も隨分混亂である、

自然の成行に任しても變はるに相違は無いが、鋭意人力を加へて和船を蒸滊船に改めたと同じく、何とか各種方面の力を借りて早く國民の音樂を高上にしたいのである、イヤ其設備や方法に就て色々の理想もあるが、百事草創の我國當局者もそう音樂の教育のみに力を分つことも出來まいと思へは無理も無いことである、

向ふの音樂を我國の言葉に綴りたる新作歌にあてはめるにどうもまだ十分でない、則ち我國では音樂家歌を作らず、作歌者音樂を知らずであるから無理はない、それで今音樂々校では樂歌部と云ふを置き此弊を救ふことにしてある、

俗謠を健全なるものに改めるとは國民の生産力に非常の影響がある、一例を擧れば晩酌陶然の時、彼の勞働者輩が現在の樣な墮落に導く不健全な歌や樂器の爲に不知不識明日の仕事にも差支を生ぜしむると、ホームを面白く樂くし、其慰籍の爲却て次の日の仕事に出精が出來る樣になるとは、一國全躰から云へは生産力に大關係がある、

我國の宗教家、特に基督教以外の宗教家に音樂に注意して貰ひたい、宗教は決して理屈一方では行かぬ、古來如何なる宗教でも感化を敷くに美術を應用せぬ宗教は無ひ、其美術でも古の宗教、幼稚な宗教は、繪畫や粧飾の空間的美術を重にし、今の宗教進歩せる宗教は音樂則ち時間的美術を重にする、希臘教羅馬教などは繪畫粧飾に最も念を入れ、新教は音樂計りに依賴する、私は常に云て居る、耶蘇新教の傳道は音樂が七部で慈善が二部で說教が一部であると、日本今後の人間に傳道するにも色彩の粧飾などは只滑稽に見ゆる計りで何の効能も無ひと思ふ、寺院の建築なども此點を考へて貰ひたい、且つ宗教學校に音樂を忽にせざる樣して貰ひたい。

仝　文學博士　高楠順次郎

素より西洋風の音樂となり行くに相違無く、且つかくせざれば音樂眞正の功用も著はれぬが、今日の日本にては未だ西洋風の音樂が發達しない、世に遍く行はれ

ない、これには色々の原因もあるが、普及の方法を講ぜないのが主因である。第一音樂の効用は皆無分らぬ。從てこれを普及するの道を講ずることをしない。音樂學校は花の上野に隱居して功能を世に示さぬ計りではない、その音樂會も滅多に公開せぬ。儀式と義務とで傍聽人はあるが、傍聽者の範圍は今も昔も變更せぬ。當事者も音樂學生も、音樂に堪能なるものも、皆その自己の主義責任即ち音樂普及に對する任務を自覺して居ない。音樂感化の廣まるのは、民生の一大幸福で、社會改良の一端と云ふことを知らぬ。花の上野は帝都人士の足の向ふ所、即ち音樂普及には最も好地位を占めたるものである。然るに之を利用し、之を應用することを知らぬ、又音樂が必ず歌謠と共に發達すると云ふことも充分に了得が出來て居らぬと見へる。此點に於ては小々の施設、能く宏大の進歩を促すといふことを知らねばならぬ、全國小學校に音樂を用ひ、耶蘇教會に讃美歌あり、その上に音樂學校の存するあれば、日本の音樂は之に依りて發達すると思ひしが、これは一の忘想で、中々そうは行かない。明治音樂會の如き、漸く日本固有の音樂の勢力を借りて人氣を引くを得るのみ、實に憐れなる次第である、市内樂隊の不完成も實に驚く、音樂の方面に於ても亦一大改革を要する、これには色々考案もあつたが、今に行はれぬ、差當り當路者が音樂學校長にその人を得たりと信ずれば、充分に相談して音樂普及を計らねばならないことゝ思ふ。人民中に音樂の切用なるは英國トインビーホール、大學分殖館等に徴しても、救世軍の經營に徴しても分かる、殊に國民の愛國思想、自負心、和合性等音樂に依らねば發達の枆が取れない、方位が定まらない。

應募　短文

▲雅樂は烏帽子直垂を聯想し、三絃は藝者酌婦を聯想し、尺八は乞食、月琴は法界節、琴は窈窕たる舊日本の阿孃樣、バイオリンは婀娜たる新日本の束髮姿、樽太鼓は相撲、ドコドン大鼓は法華凝り、チリン／＼の豆腐屋、プー／＼のがた馬車、それ／＼鳴り物に依て心裡に聯想するものがある、將來の日本、藝者酌婦の日本ならば三絃の日本なり、束髮令孃の日本ならばバイオリンの日本なり、雅樂の日本尺八の日本、樽太鼓の日本、乃至プー／＼の日本チリン／＼の日本只心のまゝなり、要は國民風俗の趨向に依る、今後我國の風俗は益高尚となるか、益陋劣となるか、彌よ歐洲化するか、いよ／＼東洋化するか、大勢の赴くところを見れば將來の音樂界一目瞭然たらん(清漣)

▲二百年三百年の後は知らず、五十年百年の將來までは在來の日本樂七部洋樂三分ならん(K、A)

▲音樂學校は上野公園にあり、歐米の例に倣ふて公園の廣塲にバンドを公開し、土曜日曜等に都人士に聞かしむるは最も妙なりとす、近ろ開かるべき日比谷公園には此事を實行すべしと云ふ、此の如き擧あり多數階級の耳に西洋樂の趣味を解せしめて後、初めて我邦將來音樂界の進歩發達を見ん。（ち、む）

▲日本の音樂は西洋風にせにやいけましれーとか、日本の音樂と西洋の音樂とを調和すべしとか仰いまするが、おらの考へるにや、日本の人達にやまだほんとに音樂を賞玩する耳がないでは御坐るまいか、おら達にや、ましてそれから養う樣にして、なにはとまれどし〳〵音樂を聽て、人々が樂む樣にしたいもんぢやと思ひますじや。（太郎兵衞）

▲今より十四五年前に、ジヨン、ダブリユ、ムーアと云ふ人の書いた或音樂書に、「東洋諸國の音樂には、まだハーモニーと云ふことが表はれて居らぬ」と云つてある。ところが我國今日の音樂はどうかと云ふと、やはりジヨン先生の笑つた時代のものと大した進歩はないでないか。故に今後少なくともハーモニーと云ふをに注意しなければ、我國は何時まで經つても、野蠻時代の遺物たる音樂を有するに過ぎないであらう。（南越生）

▲音樂教育所として上野の音樂學校は日本國中たゞ一ツの學校である、全國に二ツや三ツは有てもよかりそうなり、又日本には音樂に關する雜誌がない、日本將來の音樂界も心細き限りである。（音樂學校の某）



▲余は音樂に就て全くの素人であるが、素人考へからして常に世界の音樂を二大別にして居る、其一は興國的音樂、其一は亡國的音樂、彼の朝鮮の音樂でアリヤリヤンの悲歌を聞き、支那の音樂でチヤンチエーコンの俗謡を耳にす、如何にも亡國的の音が籠りて居る、

これに比して西洋の音樂はいづれも人心を鼓舞し激發し和樂せしむる要素に富で居る、則ち亡國的音樂は沈欝で悲壯で淫猥である、興國的音樂は勇壯で活潑で穩健である、吾邦の音樂はいづれの部類に屬するか、悲ひ哉興國的要素は全く鈌けて居る、面倒なる議論は別にして直覺でそう感ぜられる、彼三絃彼の胡弓彼の琴彼尺八彼の横笛、彼の笙、曰く何曰く何、一々擧げ來て悉くこれ亡國的樂器、あゝ此樂器いつまで日本に保存せらるゝか、將來の音樂問題は取りも直さず帝國日本の存亡問題である。（碧山）

▲我國今後の家庭に用ゆべき樂器は、教育用の樂器と關係のあるものでなければ、兒童教育に些の補益がないばかりでなく、却て非常の弊害を釀すことは分りきつたことである。さりとてピアノやオルガンを用ふることになると、總ての家庭は其家の構造から改めてかゝらればならぬ。が、其は出來ない。で、今日の儘の家庭に在りながら、容易に用ゐられ得べきものはヴワ井オリンであらう。（松椿）

▲我國在來の樂器中、家庭教育に多少益すところがあつたのは箏くらいのもので、他は悉くノーユースと云つてよろしい。然るに箏とても、今日の教育とは毫も聯絡がないのみならず、經濟からい

つても中等以下の家庭には到底用ゐられ得べきものでない。然るにヴヮイオリンは、西洋樂器中でも最も優等で、高尙で、輕便で、且つ其價に於ても、上等になるとキリがないが、鈴木製のものなら、三味線を買ふくらいの價ですむのもある。是ならば華族さまの深奥きお屋敷から漏れても其音色が高尙で、また月漏る賤が伏屋からやさしい音の聞ゆるのも實にゆかしいであらう。(仝)

▲ヴヮイオリンの奏法は一番六ヶ敷いので、泰西諸國に於てすら未た眞の名手が出でないと云ふ位だから、音樂に於て幼年時代なる我國に、今後流行の樂器として是を指名するのはちさ不似合かも知れない。併し、八九歲の女兒に其身材よりも長き三味線を抱かせ、聞くもあはれなる聲を枯して鄙歌を練らんため、毎日々々師匠の許へ通はすから見れば、ヴヮイオリンもて、「小隊右向け一二三」や「今日のよき日は」など奏し得るのはわけもないことだ。(仝)

▲西樂器を我國今後の家庭に採用するさ、我國の優等なる樂器、歌詞さが、廢たれてしまうだらうさ心配するものがある。併し、三味線や太鼓は、猫とか杓子さが中々に離すものでもなく、また古物館へ陳列しておいてもすむでないか。また歌詞にしたところが、でれりとした醉人達がウナリ通すから、中々廢たれるものでもあるまいし、またさう聲がるほど敎養に力ある歌詞などは、まだ我國に出來て居らないでないか。(仝)

▲我國は今後西樂器を採用すると仝時に、其歌詞にも大に注意しなければならぬ。是は文學者の責任だ、特に新林詩歌の責任である。一林文學者さ云ふものは、少くとも韻文家と云ふものは、恰も西詩の樂詩家のやうに音樂の心得があつて、チヤンと樂器に和し得べきやう、韻を配つて作らなければならぬのである。然るに今日の文壇に、、音樂趣味を有して居る先生果して幾人あるか、、まるでゼロでないか。故に僕は是等の先生に音樂學校の撰科へでも入學して音樂の研究をなさいさ勸めます。(仝)

▲三味線も面白いさ、琴も結構、胡弓もよし、尺八も幽遠、明笛も愉快、琵琶の悲壯なる、月琴の可憐らしい、はた又籟、笳策、なんとかかとか、日本の音樂も決して惡るいとは申さぬ、聞て居ればなんとなく融けてしまう樣な氣もするさ、が西洋音樂の巧緻幽雅にして更らに複雜に精妙なるに比してはさうだらふか、僕はかう信じて居る、なんのかのさ今時八釜敷云ふのは間違つて居る、默つておやんなさい、西洋音樂がどう云ふ處に長處があるさ云ふこさも知らないで、理窟張るのは間違じやあるまいか。(樂博士)

▲「少女不知亡國恨。隔江猶唱ストライキ節」吁我國の將來をしてかくあらしむる勿れ(悲觀居士)

▲ビートヴエンやワグチルの妙曲も其歌詞を我國に直譯されては何の面白味もない、作歌の妙さ相和して初めて普通に行はれもし難有思はれる樣になる、彼島井某武島某の如き作歌者の無理にひれくりたる死文字を列れて、萬葉學者の外は分らぬ樣なものを作るは實に抱腹の外は無ひ、コンナモノならば原文の儘にして置くがよし、又かゝる輩に作歌を依囑して得々たる音樂々校連の馬鹿さ加減も思ひやられる。(西村生)

▲寄席に西洋樂器を面白く我俗曲に合はしめて用ゆること、藝妓をしてバイチリンなどを解せしむることさ、此二事我國音樂界の改進の段階として是非實現する日あらんことを望む、然らざる間は西洋音樂の妙も一種の雅樂として國民の多數に緣遠きものさなるべし。(璞言生)

▲僕は聞けば身慄ひする程イヤナ毛唐の音樂を一掃して將來我邦の音樂を純粹の日本的のものにしたい。(排洋曲子)

▲音樂學校の男生女生程キザなものはない。(仝)

▲アンナものを國費をかけて教ゆるなら寧ろ常盤津義太夫甚九活惚を習はしむる如かず噫！甚面白クモナイ。(仝)

▲市中音樂隊小供音樂隊の繁昌を以て將來を知るべし。(〇〇子)

▲大聲は里耳に入らず折揚皇荂は即ち嗑然として笑ふさは眞に我國人の今日を云ふたものである、何程山紫水明自然の樂園に生れしものと誇張るも優婉都雅なる音曲は到底我が國民の里耳には入らない、只サコラサ節や、ストライキの卑猥なる俗曲蠻音ならでは彼等の耳には適合せないのである、實に我が音樂界は哀れなものではないか、實に浩歎すべき至りである

凡そ人さして美的思想を有せないものはない、而して音樂は其の精神美を喚起せしむるものなれば誰さて全く音樂趣味を有せないと云ふものはないと思ふ、が、悲哉我が國人は其の高潔なる精神美を起さしむる優雅なる樂曲には全く趣味を有さない、其の音樂を知らない、音樂の眞味を解せない、が、個程まで我國人が音樂の智識に低いのは抑誰が罪か、元より國人其自身に全く罪なしさ云ふことは出來ないが、亦此の道の人の誘掖の足らはない罪も大なりといはなければならぬと思ふ、吾人は音樂に最も渇して居るものである、然れども吾人は劇場に於て寄席に於て將に街上の廣告屋に於て俗音俗曲の外、神聖なる都雅なる音樂と云へは僅かに基督教會堂に於て聞くことを得るのみである、會々京都に盲啞院の音樂大會あり大阪に慈善音樂會の開くとあるも素寒貧書生などは中々容易に其恩惠には與かることは出來ないのである、先づ今日の有樣は斯の如き次第であるから、吾人は一面現時卑猥淫靡の樂界を救はん爲めに、大に作詩歌作曲家の奮勵を希ひ、一面には苟も音樂が如何なる程度まで世の風教に關するやを知らば、世間の救濟風教の改善を以て專ら任さする寺院會堂に於て奏樂し、大に荒蕪せる乾燥なる我が國民の音樂的腦髓を濕ほし、遍く彼等に音樂の眞美を知らしめ、以て佛陀の德音を傳へたば實に是れ我が國の樂界を嬉むる便法たりと思ふ、同時に又宗教弘通の上にも一大利益を收得することゝ信するのである、(京都如水)

▲今日のところ、音樂の批評でもし又は音樂的趣味を有する文章を揭ぐる雜誌は「帝國文學」が第一で、新聞では「讀賣」くらいのものである、是も僅を云ふさ、今日の音樂界は、まだ新聞雜誌等に書てよいやうな子ウチがないのである。故に政府では、まだ東京の各公園に麁末ながらも樂堂を設けて、樂人に西樂を奏せしめ、樹蔭のベンチに据しながら傾聽し得べきやうにして、市民の音樂趣味を喚起し、其品性を陶冶せればならぬ、故に政府には、無論數個の樂隊を組織せればならぬわけだ。(カナカ)

▲或る西洋の新聞紙に、東洋の音樂は、人心を慰めるさか、鼓舞するさか云ふ點に重きをおかないで、聞く人に物凄いといふ念を起さしめるのだから、恐ろしい音樂と云はればならぬさ云ふことが書てあつた。成程芝居などへ行つて見ると、半鐘がヂャン〳〵、太皷がドン〳〵、柏子木がカチ〳〵、がたく〳〵、ごさくさ、わめく、のゝしるさ云ふ鹽梅だから、ほんさに恐しい念を起させる、まるで野蠻時代だ。また吾輩とても是を聞て、果して身心に慰樂を與へることが出來やうか、斷じて出來ないさ云はればならぬ。故に我國は、今後少なくとも人心に慰樂を與へる種類の音樂を用ゐればならぬ。(H　M)

▲僕は門外漢だから、音樂などのことに付ては一向なにも考へは持たないが、此に少しく望ましいのは、宗教家の音樂研究である、敢て教會堂に哀れいぽい樂の音を響かして、信者の財囊を絞り取る爲めにするさ云ふのではないが、此音樂に依て枯れてる人の心に一道の活泉を注ぎ、疲れたる浮世の孤兒に溫かき天の聲をもらすのは、此音樂ではあるまいか、

更らに偉大荘嚴の念を養つて人をして森嚴なる態度と、勇氣ある心とを起さすのは此音樂ではあるまいか、（眞宗敎家）

▲或る日本の將官外國で盛會の席上、日本の國歌君が代を奏した時、自分には音樂的の耳が全く無い爲め立禮することを忘れ大耻を書た、日本人の音樂に關する知識程度以て知るべしだ、將來音樂を盛んにせされば列國對等の交際も出來ぬ（芝、白金生）

▲西洋心醉も亦甚い哉、琴や三絃や其音の妙へなる其人心を動かすの大なる到底バイチリンやチルガンの比にあらず、何を苦んで我國在來の樂器を排して耶蘇臭き無趣味殺風景なるものを以てせんとする、彼音樂學校に於ける各種の演奏會何ぞそれ單調なる、各種の慈善音樂會若し日本音樂の加はる無つせば一人の集まるものも無らん。我國將來日本固有の音樂を大に發達せしめて。彼碧眼紫髯の輩にまでに妙を悟らしむるを要す（柳山寒士）

課題

自轉車に就て　五月十五日まで

女服改良に就て　六月十五日まで

『排自由結婚を讀む』

黒光女史

逆上せる哉强制結婚の主唱者有美先生よ、其沸騰せる頭腦に少しく氷嚢を用ゐられては如何、我私かに先生の御容體を推量し奉るに世にも恐ろしきショウペンハウエル熱にあらざるなきかを慮るなり、若夫今にして冷却するの策を講せざらんか、熱度益々昂進し、終に先生自身が蒸發して空中に飛散し、以て我女性へ鐵拳の雨でも降るに至らば由々しき大事なり、依つて爰に一言を献して牖戸を綢繆せんか、

抑々此排自由結婚論たるや必竟先生か例の女性を痛罵冷笑する筆法の餘勢が斯文さ化したるに過ぎざる可く、謂はゞ自由結婚其物迄でも冤罪を蒙りし者なるべし、然り、云はるゝ如く自由結婚は結婚の以前に於て已に握手接吻などの快樂を知り、猶ほ將來に餘り多くの希望さ幸福とを夢想するが故に、他日同居寢食を共にするに當りソロ〳〵と生活問題にも立入らさるべからず、經濟の法も顧みざるべからず、其内には妻の頬の膨るゝこともあれば夫の額に青筋の現はるゝこともあり、夫れが高うじて御互いにほゝゑまるゝ如き新手枕の昔さへさ打ち忘れて、あられもなき口論罵倒さなり、煩悶となり、甚しきは忌はしき離緣沙汰に終るなり、然れ共先生の奬勵せらるゝ强制結婚も亦决して永久に新婚の甘酒（うまざけ）に醉ふこさは能はざるなり、何さなれば前者は結婚前に已に多くの快樂を經驗し、後者は結婚して後初めて異性を知り之れさ同棲の嬉しさを味ひ得たる迄にて、必竟夢の醒むる時期に早晩あるのみ、其互ひに欠點を發見し萬事意想の外にありしことに醒めて嘆息述懷するに至ては兩者は共に同一轍なり、是れ人は新しきを好み變化を喜ぶ性質より來る自然の結果に由ればなり、故に試みに見よ山海の珍味も常食となす時は味ひ美ならず、松島天の橋立の絶景朝に夕べに眺め續くる時は終には飽きといふもの來りて嘆賞の聲も止むべき譯なり、故に戀愛より成立ちし自由結婚者は無論、强制舊風の結婚者さ雖も三百六十五日同じ人の顔を見同じ人の音聲を聞かば、たまには他園の花を垣間見て獨り心に欣ふこともあるべく、異りたる男の脂臭き香りも物珍らしくは思ふならずや、之れ古より

女房と疊の新しきほど喜ばるゝといふ俚言の存在する所以なり、殊に我儕を以て強いられたる結婚者は、石地に播かれたる種子の如く、已にに根據なければ事ある場合には父母媒妁人に責任を負はしめ、自分に都合好き口實を設け得るを以て、比較的早く女性に飽き心を變し易し、是れ我を以て觀れば自由結婚者はあまり睦しきより、犬も食はぬ夫婦喧嘩もする代りに、離縁少くして泣寢入りに終るもの多く、之に反して舊風の結婚者は放蕩と離婚とを多く産出する所以なりとす、

又或論者の如く強制結婚には絕對的に愛情なしといふ僻見には贊同なし難けれど、先生の所謂木に竹を以て接合したる如き夫婦間にも猶は一點螢火の如きものありて能く情愛を接合し來りしは他なし、實に嫁に對する姑舅の虐待酷遇否な大恩大慈悲のあるありて然るを得たるなりと、我は確信せり即ち姑舅が嫁を憎み疎んじたる結果いかに情火の冷えたる夫も、茲に初めて發心して妻の苦痛を慰めんとの義俠心より、愛情に化したるのみ、若し此難有姑舅のおいぢめなかりせば或は只機械的に子孫繁殖の道（先生の御說に依れば夫れで充分ならんか）を盡したるのみにて眞正純潔なる愛の芽は深く／＼土中に埋れて終りしならむ、故に我邦の如き不完全なる家族制度（親子同居）にして而かも強制結婚者に取りては姑舅といふ雷樣より〻恐ろしき方々の頭上にまし／＼て夏とは云ず年中おごろ／＼しく鳴渡らせ玉ふが最も中要にして實に造化の祝福といはざるべからざるなり、

然るに此舊風結婚を實施し來りし否しつゝある世の父母媒介人を見るに、多くは頑固と慾の一天張りにて、先方の門閥と財産に眩惑せられて、大事の本尊を吟味せず、愛孃を犧牲に供するにあらずや、又先方にては嫁は娶たる人の嫁にあらずして恰も姑舅の所有たるの奇觀を呈せるにあらずや、斯る父母に限りて紛擾の起りし曉には眞先に離縁を我兒に教唆するものなり、又媒介人は何でも爲めに成りそうな男と女を引附けるのが役目と心得、後とは野となれ山となれ都合の能い嘘八百を構造して、双方の間に斡旋奔走なすにあらずや、如此無分別無情の父母と作偽と狡猾に巧みなる媒介人とにいで安か閑として人間一の最大事を信任し得べき、假令幸ひにして賢明卓拔の父母と其男女の師事する年長者と撰擇に由りて結婚を行ふも、之れ果して當を得たるものなるか否や、我が疑ひを容るゝ處なり、何となれば苟くも是非善惡の判斷を許されたる人間にしていかで將來の伴侶を撰むに自由の意志を賦與せられざるの理あらむや、只世の青年男女が互ひに撰擇をなすに當り甚しく理性の外に超越せざるべく、誤れる感情に驅られて生涯の不幸を招かざるべし、豫しめ意志を堅固になす修養をなさしめ、之を教育勸誘するこそ父母先輩の義務責任なれ、苟くも眞正の教育は各人の智情を最も自然に、最も開發的に、舒長發達せしむる者なるを信ずる人にありては獨り鄭重に鄭重を要する結婚をのみ、本人の意と希望を枉げ壓制なる親權を振廻して強ゐの理を見出さざるなり、婚禮當坐の光明ある舞台去て次に暗黑慘憺たる幕の開けたるに夫妻共に驚くは、自由結婚者も舊風結婚者も一度は必ず越えざるべからざる難關なり、何ぞ必ずしも憂ふることを要せん、泣きもし怒りもする內には可愛き者など生れ來て兩者のかすがひとなり、せうことなしに不滿足と不平を葬るに至るなり、先生心を安んぜられよ子を持てる女は拂ひ箱を背負はさるゝも中々此方からなどは出て行ぬものに候ぞ、

終りに今一言せん、男を金庫に比し玉ひしはせめてものたのみなれど、女を只下女の如くこき使ふ丈にて娼妓の如く美服を着飾らしめざるは金庫にあらずしてオモチヤ屋の銅庫か、二錢八厘店の蟇口なればなるべし、

彙報

社會雜報

●サー、エドウィン、アーノルド　同氏より最近の報知は悲むべき消息を齎らして曰く「予が三年來引きつゞいての病氣は鉛を文墳に採る能はざるのみならず手紙すら自書すると能はざるに至れりと」氏の病は癱痳窒斯にて龍動ボルトンガーデンの三十一番自邸に閉ぢ籠り、氏が現時の夫人たる黑川玉子女史は晝夜看護の勞を採りつゝあり、

●我海陸軍人　最近調査に係る海陸軍人數は左の如し

海軍

將官	四十六人	上長官及士官	千八百廿八人
下士	二千五百四十三人	卒	一万九千百四十九人
生徒	三百九十八人	合計	二萬三千九百六十四人

陸軍

將官及相當官	九十九人	上長官及士官	八千三百九十七人
下士	三萬五千二百四十八人	卒	廿七萬三千二百八十三人
其他	六千九百四十六人	合計	三十二萬三千九百七十三人

●在監人增加　不景氣の爲近來未決囚既決囚の數大いに增加し鍛冶橋監獄署にあるもの前月初旬千二百四十八人に上り昨年の其頃に比すれば殆んど倍數なり

●東京市内學生の數　萬朝記者の調査に依れば

總數　約五万人

内譯

一万二千零二十四人（公私中學在學生）
一千七百二十四人（醫學生公私學校在籍）
六千六百五十七人（法學生、同上）
二千五百三十四人（文、理、工學生同上）
一千七百零七人（農、商學生同上）
一万八千四百十八人（一定の學籍なき者）
一千人（約數）（中學生相當）
一千五百人（同上）（海陸軍官立校生）
但此分は幼年學校士官學校其他一二
三千人（同上）（學生とも呼び難きものなれど一定の職業なく自から學生と稱す）

●八種傳染病　内務省衞生局に於る調査に據れば三十三年中一道三府四十三縣に於ける八種傳染病患者及死亡者の總數は患者八萬八千七百九十二人内死亡二萬千五百九十九人にして此内譯虎列剌患者五百七十八人死亡二百三十一人赤痢患者四萬六千二百五十五人死亡一萬百六十四人腸窒扶私患者二萬三千八百五十五人死亡五千三百四十二人痘瘡患者二十一人死亡四人發疹窒扶私患者七十三人死亡十三人猩紅熱患者七十七人死亡十二人實布垤里亞患者一萬七千八百七十五人死亡五千六百六十人ペスト患者百六十八人死亡百五十三人

●月給三萬圓　米國烟草會社に合同したる烟草業村井兄弟商會株式會社の社長村井吉兵衞氏の月俸額は三萬圓年三十六萬圓にして總理大臣の年額より多き事三十五萬二千圓

教育宗敎彙報

●清國に於ける新設の學校　東亞同文會の事業として、清國南

京に設立せられたる南京同文書院は、過般來各府縣より公費留學生を募集既に入學を許可せられし公費生四十三人、外に廿六人の私費留學志望者あり、尙ほ其職員及擔當課目の確定せるものを聞くに、同文會幹事長豫備陸軍少佐根津一氏院長に、文學士菊池謙二郎教頭に、森茂、西田龍太郎氏舍監に、倫理は根津院長、歷史及法學は菊池教頭、經濟財政商品學簿記學は、根岸佶氏、支那制度律令は島田瀞氏、支那政治地理は森茂氏、支那商業地理は白岩龍平氏、支那商品學商業實踐は土井伊八氏、支那律令支那文學は、文廷式氏、支那語は玉定五氏、英語はレウイス氏等にて當分上海に開く

▲北京の廉惠卿なる人東文學社を興し、日本の中島裁之氏を聘して三月下旬開校、官吏紳商の子弟、就學する者百數十人、開校當日慶親王よりも令旨を賜はれりと▲天津に於ては稽古書院を改めて學堂とし東西の學を課せんとし▲常州に於ては郡中の士相謀り、英文蒙學堂を設立せんとす、定員三十人、西洋歷史、露國史、普佛戰記、日本維新史、歐羅巴語等を教ゆ▲上海王氏の育材學堂にては本年より日本文を課し、東亞同文會員茂原氏を聘す

●第三回全國聯合教育會　四月十四日十五日兩日帝國教育會に開會議決せし議案中文部省諮問案の外重なるは左の諸件なり

▲小學校の教科の文章は言文一致の方針に依ること

▲小學校に於る國語科の綴方中書簡文は候文躰を廢して言文一致躰とすること

▲文部省に於て小學教科用書を編纂し或制限の下に私人をして出版發賣せしむることを其筋に建議すること

▲小學教科圖書審査會に小學教員を加ふるを可とす

▲小學校本科正教員を中學一二年級の教員に採用し得ることを文部大臣に建議すること

▲字音と國訓と可成共通し得らるべき假名遣法を制定せられんことを文部大臣に建議すること

▲各府縣師範學校に研究科を設けられんことを其筋に建議すること

▲國立教育博物館を設置せられんことを建議すること

▲明治三年勅令第二號市町村立學校教員俸給に關する規定第三條各月俸平額を增加せられんことを文部大臣に建議すること

▲小學校令施行規則第百十六條普通免許狀の授與を申請す得らるべき資格中に師範學校訓導を加へられんことを文部大臣に建議すること

▲通常の禮服の標準幷に最敬禮等に關する國民禮法を制定せられんことを其筋に建議すること國民禮法の調査會設置を其筋に建議すること

國民禮法の調査會設置を其に建議すること

▲師範學校公立中學校高等女學校の職員俸給額を一定し進級法を定むるを可とす

▲市の學齡兒童一萬人以上を有する府縣視學の定員を增加することを其筋に建議すること

▲官公立學校敷地附近（凡二町）に於て左の營業を爲し及建築物を設くることを禁止せられんことを其筋に建議すること

一妓樓　料理店　待合茶屋及飲食店

二戲場　興行場　工場

三其他教育上有害と認むべき營業及び建築

●文部省諮問案　右聯合會に向ての全省諮問案は

（一）小學校及中學校に於て公德を養成するの方法如何

（二）小學校中學校師範學校生徒の禮式を一定するの可否

（三）半日小學校實施の方法如何

●教學報知　前月より日刊となる

●東京評論　休刊

●淨土宗の新開教地　今回新開教區域を四區に分ちたり第一區は鹿兒島縣沖繩縣、第二區は臺灣三縣澎湖島、第三區は韓國（京城、仁川、釜山、元山、木浦、鎭南浦）第四區は布哇國

●東亞佛教會の女子部　同會は創立事務所を錦輝館に移し新に女子部を設け高等女子師範學校の學監たる安達安子女史が職を辭して之が誘導に盡力せん筈にて同會に於ては同女子部組織の事を囑托したりさ云ふ右に付去月廿二日麹町永田町二丁目なる華族女學校教頭下田歌子氏の宅に相談會を催し安達やす子、松平すゐ子、岩佐とり子、原れい子、河野せき子、堤つれ子、矢野ゆか子、小野よし子、近藤ゆふ子、島地八千代子、小笠原老夫人等相會し本部よりは島地默雷、織田得能、田中舍身居士の三委員幷に道重信教氏出席の上種々相談の上彌よ其の設立委員として松平須摩子、岩佐とく子、原禮子、河野關子、島地八千代子、の五氏を推擧し、當分委員長には小笠原老夫人を推選する事にせんとの事なり



帝國東洋學會趣意書

本會は、東洋諸國に於ける言語、文學、宗敎、哲學、歷史、地理、神話、俗話、工藝、美術等に關する史實を現存の古文書に依りて研究するを目的とす、

現存の文書中、その材料最豊富にして、曾て學術的講究を經ざるものを一切藏經とす、その卷帙の夥しき實に八千五百三十四卷、加ふるに藏外の諸書を以てすれば、殆萬餘に達せんとす、殊に我國には、本邦選述大藏經の外、宋、元、明、清、麗の各完本の現存するありて、佛敎典籍の完備殆世界無比と稱すべし、抑漢譯藏經の含蓄せる所は、他國現存の諸藏と稍その趣を異にし、獨宗敎、哲學のみならず、諸般の學藝に關する材料を網羅して餘さず、學術攻究に資する所亦實に大なり東洋の一大古學叢書と稱するも、亦過言にあらざるなり、而して之が對照研鑽の用に供すべき諸國異譯の經典も亦その數多く、南方佛敎諸國の經藏は、既に印行流布する所となり、暹羅藏藏經全部、及龍動巴利書出版會社にて發行せるものも既に我國に入り、北方佛敎の典籍たる西藏藏經も、近時既にこれを得るの機に達せり、印度ニポール現存の大乘諸典は、曩に歐洲にて出版せるもの、外、現に露西亞帝國大學內大乘書出版部、及印度カルカッタ府佛敎出版會社に於て修成せるものも多く、蒙古滿州亦夥多の譯書を有す、此等の諸書を對校し、その材料を自由に運用し、攻究討尋の結果を世界の學術界に貢献し得るの地に在るもの、獨我國學者あるのみ、故に我輩自ら揣らず、大方諸君の贊同を得て、茲に本會を組織し、內、藏經の內容を攻究し、諸般の材料を査定類聚し、外、異譯の諸聖典と對照考覈し、その結果を編纂大成し、本會の目的を達する第一段となさんと欲す、

本會は藏經調査の事業終るを竢ちて、漸次他の文書の攻究に及ぶものとす、

帝國東洋學會規則

一、名稱

第一條　本會を帝國東洋學會と稱す、

二、目的

第二條　本會は東洋諸國に於ける言語、文學、宗敎、哲學、歷史、地理、神話、俗話、工藝、美術等に關する事項を現存の古文によりて研究するを目的とす、

三、事業

第三條　本會は第一着手として左の如き事業の成効を期す

イ　印度學藝叢書編纂
ロ　東洋各國佛教史編纂
ハ　辭書編纂
ニ　原本調査
ホ　典籍出版
ヘ　原譯比較研究
ト　質疑應答
（右の外機關雜誌を發行することあるべし）

四、會員

第四條　本會々員を分ちて會員、贊助會員、名譽會員の三種とす、

第五條　本會と目的を同うしその平素の研究によりて直接間接に本會の事業に貢獻するものを會員とす、但會員は評議員の決議に依り之を定む

第六條　團躰若くは個人にして金圓を寄附し以て本會の事業を助くるものあるときは評議員の決議を經て贊助會員となす、

第七條　名譽會員は評議員の推擧によるものとす、

第八條　各會員は本會の編纂にかゝる叢書、辭書その他の出版物を實費にて購求することを得

五、役員

第九條　本會に左の役員を置く、

會長　一名、　副會長　一名、　評議員　十八名、　幹事　三名、
編輯員　若干名、　書記　若干名、
役員職制は別に之を定む

六、雜則

第十條　臨時學術講演若くは懇話會を催し會務の進行を報告し又は會員相互の親睦を計るべし

第十一條　會計に關する規則は別に之を定む、

第十二條　本會規則は評議員の決議を經るにあらざれば變更することを得ず、

會長　常磐井堯猷

評議員　渡邊國武　渡邊龍聖　高楠順次郎　坪井九馬三　南條文雄
村上專精　上田萬年　井上圓了　大内青巒　前田慧雲
松本源太郎　藤島了穩　澤柳政太郎　三宅雄次郎　三上參次
島地默雷　島田蕃根

東京市本鄉四丁目五番地
帝國東洋學會假事務所